秋田県文化財調査報告書第72集

片符沢遺跡Ⅰ発掘調査報告書

1980・3

秋田県教育委員会

序

由利郡東由利町に所在する片符沢遺跡は、昭和54年度県営圃場整備事業に係る遺跡でありました。そこで県農政部と協議し、国庫補助を得て事前発掘調査を実施したものです。本報告書はその調査結果をまとめたものです。

調査の結果、縄文時代後期初頭の土坑、それに伴う土器、土偶、円盤状土製品など数多くの遺物が発見されました。縄文時代後期初頭の遺跡の発掘例は少なく、研究も遅れているところであり、今度発見されたものは、それを補充する貴重な資料と考えられます。

本報告書が文化財の保護はもちろん、学問的にも活用していただければ幸いに存じます。

最後にこの発掘調査にご協力いただいた東由利町教育委員会ならびに由利農村事務所の方々に心から感謝の意を表します。

昭和55年３月

秋田県教育委員会

教育長　畠山芳郎

例　　言

1．本書は、秋田県教育委員会が昭和54年度に発掘調査を実施した片符沢遺跡の調査報告書である。

2．本書の作成にあたり、以下のように分担して執筆した。

目次の第4章第1節の2、第5章……富樫　泰時

第1章、第3章、第4章第1節の1……橋本　高史

第2章……佐藤　和弘

3．遺跡の写真撮影は富樫、橋本が行った。遺物の写真撮影は佐藤(和)鈴木(功)が行った。

4．本書中の出土遺物の実測図は第57図13を除いて（これだけ¼）、全て½に統一した。出土土器の拓影は½、⅓とした。全体図及び遺構実測図は任意の縮尺であり、それぞれにスケールを付した。方向は全て磁北である。

5．土色の表記は主に小山正忠・竹原秀雄「新版標準土色帳」を活用した。

6．土偶等の実測に際しては、秋田県立博物館　庄内昭男氏の協力を得た。

7．遺構外からも大量の遺物が出土しているが、時間と費用の関係で、大部分を割愛せざるを得なかった。これらについては、後の機会に公表するつもりである。

目　　次

序
第１章　はじめに……1
　第１節　発掘調査に至るまで……1
　第２節　調査の組織と構成……1
第２章　遺跡の立地と環境……4
　第１節　立地と環境……4
　第２節　歴史的環境と周辺遺跡……4
第３章　発掘調査の概要……6
　第１節　遺跡の概要……6
　　１．遺跡の層序……6
　　２．遺構の分布……6
　　３．遺物の検出状況……9
第２節　調査の方法……9
第３節　調査の経過……9
第４章　調査の記録……13
　第１節　遺構と遺物……13
　　１．遺構について……13
　　２．遺物について……46
第５章　まとめ……96

挿　図　目　次

第１図　遺跡位置図……3
第２図　遺跡全体図……7
第３図　遺構配置図……11
第４図　ＳＫ101・102・103土坑……14
第５図　ＳＫ106・41・44土坑……16
第６図　ＳＫ40・39・43土坑……18
第７図　ＳＫ42・38・28土坑……20
第８図　ＳＫ36・32・47土坑……22
第９図　ＳＫ46・45・35土坑……24
第10図　ＳＫ29・30・20土坑……26
第11図　ＳＫ22・27・24土坑……28
第12図　ＳＫ23・33・05土坑……30
第13図　ＳＫ25・26・04土坑……32
第14図　ＳＫ17・16・15土坑……34
第15図　ＳＫ34・31・19土坑……36
第16図　ＳＫ18・07・06土坑……38
第17図　ＳＫ03・02・01土坑……40
第18図　ＳＫ11・14・12土坑……42
第19図　ＳＫ13・09土坑、ＳＸ21埋甕…44
第20図　ＳＫ01出土土器……48
第21図　ＳＫ02出土土器……49
第22図　ＳＫ02出土土器……50
第23図　ＳＫ03出土土器……51
第24図　ＳＫ03出土土器……52
第25図　ＳＫ05出土土器……53
第26図　ＳＫ06出土土器……54
第27図　ＳＫ06出土土器……55
第28図　ＳＫ07出土土器……56
第29図　ＳＫ08出土土器……57
第30図　ＳＫ09出土土器……57
第31図　ＳＫ11出土土器……58
第32図　ＳＫ12出土土器……59
第33図　ＳＫ13出土土器……59
第34図　ＳＫ14出土土器……60
第35図　ＳＫ15出土土器……61
第36図　ＳＫ16・18・19・20出土土器…62
第37図　ＳＫ17出土土器……63
第38図　ＳＫ22出土土器……64
第39図　ＳＫ23出土土器……65
第40図　ＳＫ24・25出土土器……66
第41図　ＳＫ26出土土器……67
第42図　ＳＫ27出土土器……68
第43図　ＳＫ28出土土器……69
第44図　ＳＫ28出土土器……70
第45図　ＳＫ29・30・32・33出土土器…71
第46図　ＳＫ31出土土器……72
第47図　ＳＫ35出土土器……73
第48図　ＳＫ36・37・39・40出土土器…74
第49図　ＳＫ43出土土器……74
第50図　ＳＫ38出土土器……75
第51図　ＳＫ41出土土器……76
第52図　ＳＫ42出土土器……77
第53図　ＳＫ47出土土器……78
第54図　ＳＫ101・106出土土器……79
第55図　ＳＸ21埋甕実測図……80
第56図　土器実測図……81
第57図　土器実測図……82
第58図　土器実測図……83

第59図　土器実測図……84
第60図　土製品実測図……85
第61図　土偶実測図……86
第62図　土偶実測図……87
第63図　円盤状土製品……88
第64図　Ⅰ区出土土器底部……89
第65図　Ⅱ区出土土器底部……90
第66図　Ⅱ区出土土器底部……91
第67図　Ⅱ区出土土器底部……92
第68図　Ⅱ区出土土器底部……93
第69図　土坑出土土器……94
第70図　土坑出土石器……95

図　版　目　次

図版１　遺跡遠景・Ⅰ区及びⅡ区北部
図版２　Ⅱ区全景
図版３　Ⅱ区南部・Ⅲ区全景
図版４　Ⅳ区全景・発掘風景
図版５　ＳＫ41・40・39土坑
図版６　ＳＫ44・43・42・38土坑
図版７　ＳＫ46・28・32・47土坑
図版８　ＳＫ45・35・29・30土坑
図版９　ＳＫ24・22・27土坑
図版10　ＳＫ05・23・33土坑
図版11　ＳＫ04・25・17土坑
図版12　ＳＫ16・15・34・31土坑
図版13　ＳＫ19・07・06・03土坑
図版14　ＳＫ02・08・01・11土坑
図版15　ＳＫ14・12・13・09土坑
図版16　ＳＸ21埋甕
図版17　土坑内遺物出土状況
図版18　Ⅱ区北部遺物出土状況
図版19　Ⅱ区南部遺物出土状況
図版20　Ⅲ区遺物出土状況・土偶出土状況
図版21　遺構外出土土器
図版22　遺構外出土土器
図版23　遺構外出土土器
図版24　遺構外出土土器
図版25　遺構外出土土器
図版26　遺構外出土土器
図版27　遺構外出土土器
図版28　遺構外出土土器
図版29　遺構外出土石器
図版30　遺構外出土石器

付　図

付図１　土坑上面礫分布図
付図２　土坑上面出土土器分布図
付図３　土坑分布図

第1章　はじめに

第1節　発掘調査に至るまで

片符沢遺跡Ⅰは、昭和37年秋田県教育委員会の行った遺跡分布調査の際確認された周知の遺跡である。この地域は、昭和53年度の県営圃場整備事業東由利地区の計画地域内にあり、その処置について由利農林事務所から連絡があった。

計画どおり工事が行われると、水田下の遺跡が破壊される恐れがあったので、由利農林事務所と文化課が協議して、工事着工前に発掘調査を実施し、記録保存をはかり、今後の資料とするものとした。

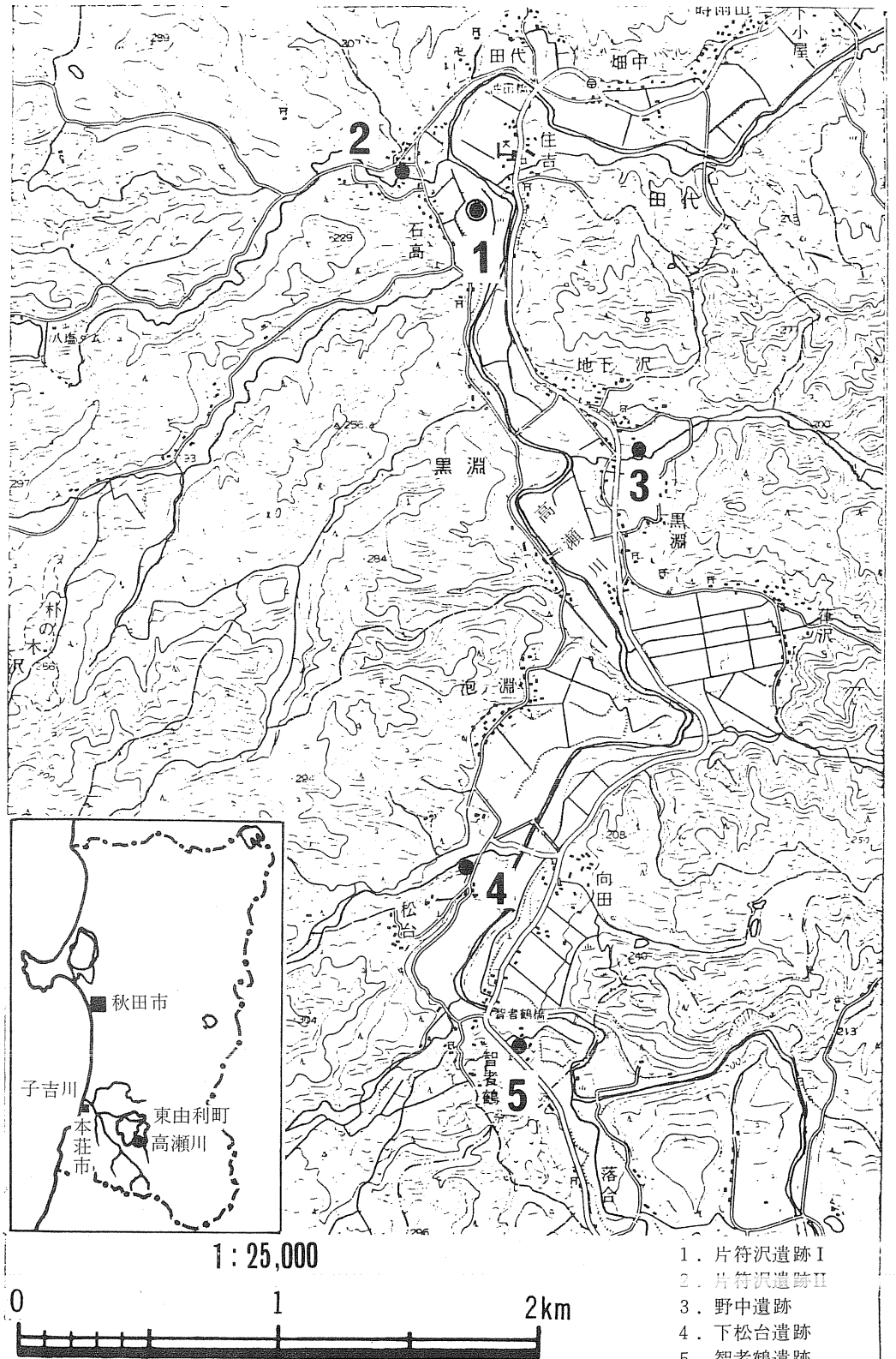
その後、この地域の圃場整備事業が昭和54年度に変更になったため、発掘調査を昭和54年度に行うこととし、片符沢遺跡Ⅱと並行して6月18日から調査が開始された。調査対象面積は約7,000㎡である。

第2節　調査の組織と構成

調査目的	県営圃場整備事業（東由利地区）に伴い消滅する片符沢遺跡Ⅰを、工事に先立って発掘調査し、その記録保存をはかり、地域社会での埋蔵文化財の活用に資する。
調査主体	秋田県教育委員会
調査担当者	富樫泰時、畠山憲司、橋本高史（秋田県教育庁文化課）
調査補助員	佐藤和弘、高橋俊宏
事務補助員	畠山京子
調査協力機関	秋田県由利農林事務所 東由利町土地改良区 東由利町教育委員会 東由利町立住吉小学校
遺跡所在地	秋田県由利郡東由利町田代字石高8番地
調査期間	昭和54年6月18日～8月11日
調査対象面積	7,000㎡
調査面積	2,048㎡

発掘調査協力者　及川昭、高橋忠太郎、川崎洋督、岸本正憲、小松輝男、高井勉、東松琢郎、熊谷恭子、斉藤知子、佐々木郁子（以上秋田大学学生）、大阪幸一、小野金蔵、小野庄治、小野廣世、木島賢一、木島利久、斎藤正志、佐藤銀一郎、佐藤隆、佐藤吉二、佐藤房蔵、佐藤満、千葉重喜、長谷山武美、長谷山義雄、畠山洋、畑山運治、村上作蔵、渡辺忠、渡辺忠一郎、渡辺房吉、渡辺与八、小野幸子、小野タケ、木島のりこ、小松ツルノ、佐藤金子、佐藤サカエ、佐藤節子、佐藤ルリ子、千葉ナツヨ、渡辺サキ、渡辺チヨ、渡辺ミチ、渡辺ユミ

遺物整理協力者　渡辺健太郎、鈴木秋良、花田幹雄、桑原隆、高橋浩樹、大石俊雄、鈴木功、天野恵子、荒沢孝子、石川静、石黒紀子、越智孝子、金子千賀子、神居トシ、熊谷恭子、小渕悌子、小町順子、佐藤昌子、佐藤連子、進藤ひとみ、諏訪節子、田松志津子、鶴谷左絵子、林ヒサコ、藤島アツ子、牧野一枝、山崎節子、山田文子



田代
畑中
住吉
田代
石高
地下沢
黒淵
黒淵
高瀬川
泡淵
向田
松台
智者鶴橋
智者鶴
落合
秋田市
子吉川
本荘市
東由利町
高瀬川
1
2
3
4
5
1：25,000
0
1
2km
1．片符沢遺跡Ⅰ
2．片符沢遺跡Ⅱ
3．野中遺跡
4．下松台遺跡
5．智者鶴遺跡

第1図　遺跡位置図

第２章　　遺跡の立地と環境

第１節　立地と環境

片符沢遺跡は、秋田県由利郡東由利町田代字石高８番地に所在する。東由利町は、秋田県の中央部から西南部に広がる出羽丘陵中にある山あいの町で、古くから由利海岸と内陸横手盆地を結ぶ中継点に位置し、現在は本荘と横手を結ぶ国道107号線がその中心的な役割をはたしている。

この東由利町を南東から北西に貫流する高瀬川は、蛇行しながら肥沃な沖積地を形成し、現在はその周囲のほとんどが水田で、すでに周知の湯出野遺跡を含め多くの遺跡が点在している。

雄勝郡羽後町に源を発し西流する高瀬川は、本町石高で急に北に流路を変える。本遺跡は、その屈曲部から約100ｍ上流の左岸最低位段丘上にある。又、西側に東由利町最高峰である八塩山（713ｍ）が近接し、四方を山に囲まれ、国道107号線と県道羽後・向田・館合線との分岐点から約４㎞南下した小盆地にある。遺跡のある河岸段丘は高瀬川が大きく東へ蛇行して形成されたもので、南側がやや高くなっている。遺跡の標高は、149～151ｍで高瀬川水面との比高は４～５ｍである。

第２節　歴史的環境と周辺遺跡

高瀬川流域には、確認されている縄文時代の遺跡が片符沢遺跡Ⅰの他７遺跡がある。そのほとんどが、高瀬川及びその支流が形成した河岸段丘上にある。時期的に見ると、縄文時代前期のものとして片符沢遺跡Ⅱ、縄文時代中期のものとしては大木７・８式土器が出土している向山遺跡、同じく大木ｂ式土器が出土している野中遺跡があり、縄文時代後期遺跡である片符沢遺跡Ⅰと同じ時代のものとして縄文時代中期から後期にわたっている台山遺跡Ⅱ、下松台遺跡等がある。縄文時代晩期のものとしては、晩期全般にわたっている湯出野遺跡、大洞C_2式土器が出土した智者鶴遺跡がある。これらの遺跡の立地を見ると、片符沢遺跡Ⅰ・智者鶴遺跡は川の流域のすぐそばの低位河岸段丘上にあり、野中遺跡・向山遺跡など、中期遺跡は河川から少し離れ、高い位置の洪積台地上に立地している。片符沢遺跡Ⅰと同時代の台山Ⅱ・下松台の遺跡はそれらの中間的高さをもつ台地上に存在している。

又、古代の遺跡としては、台山遺跡Ⅰ・岩井堂遺跡があり、中世のものとしては、下村城跡・玉米城跡・根城城跡・高建城跡があり、根城城跡・高建城跡は中世、下村城跡は中世末のも

のとされている。遺跡の所在する田代地区は、中世において矢島・雄勝方面への主要な交通路・文化の中継地点としての役割をはたしたものと思われる。

第３章　　発掘調査の概要

第１節　遺跡の概観

１、遺跡の層序

遺跡は子吉川の支流高瀬川の左岸の第一河岸段丘上に位置している。今回の調査対象地域はほとんどが水田であり、一部耕地整理等により破壊された箇所もある。遺跡の中心部における標準的層位は以下の通りである。

第Ⅰ層　暗褐色土　いわゆる表土できめの細かいくろぼく土。（20㎝）

第Ⅱ層　黒褐色土　炭化物、赤色粒子を含む粘性のある土。多量の礫を混入する。遺物包含層。（20㎝）

第Ⅲ層　黒褐色土　粘性のあるきめの細かい土で炭化物を含む。赤色粒子も混入するが、第Ⅱ層程多くない。第Ⅲ層上面にて土坑が検出された。遺物包含層。（10㎝）

第Ⅳ層　黄灰色土　段丘礫層、または粘質土のいわゆる地山。

２、遺構の分布

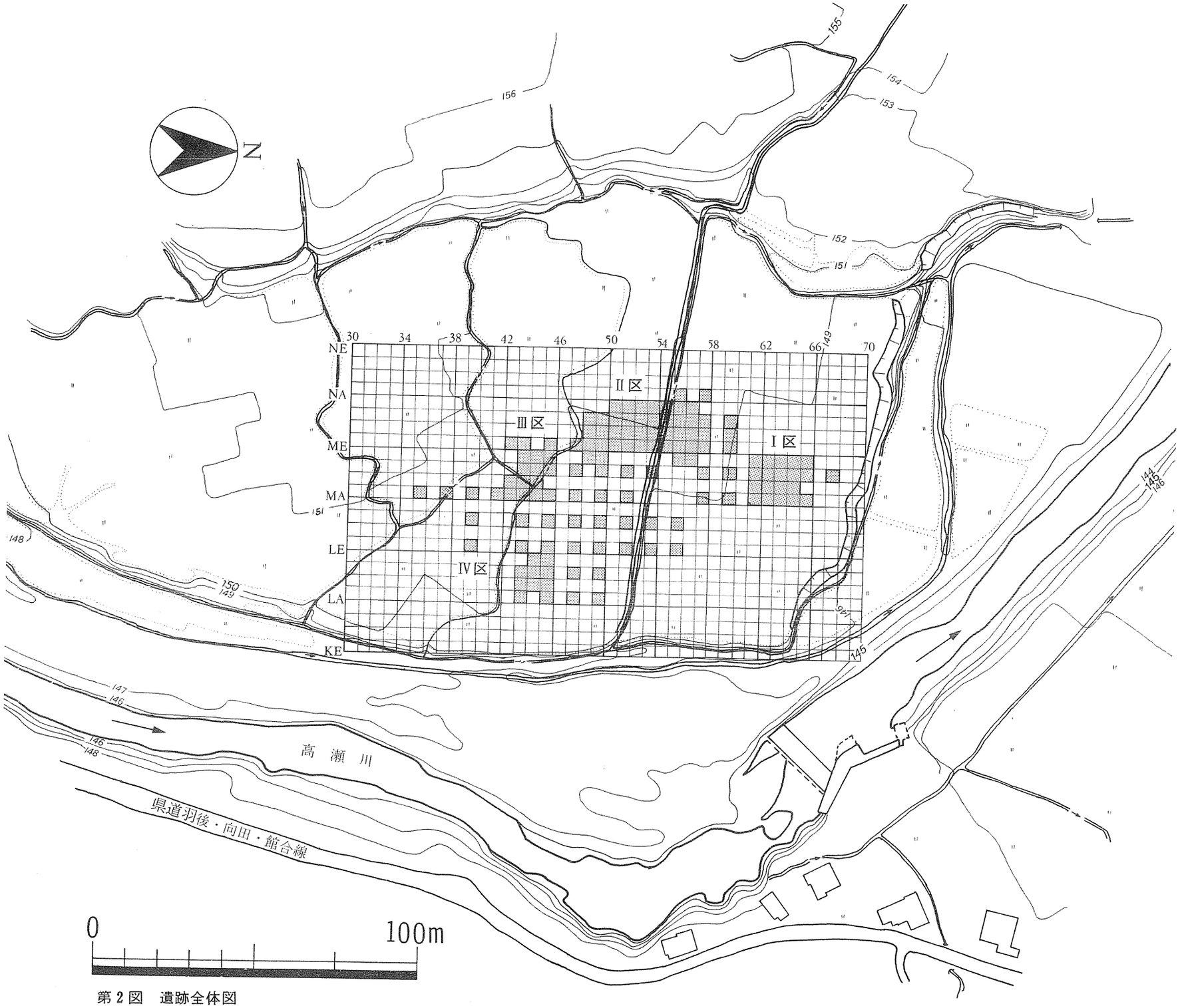
片符沢Ⅰ遺跡は遺跡西側北部（Ⅰ区）、西側中央（Ⅱ区）、西側南部（Ⅲ区）、東側（Ⅳ区）に分けられる。それぞれの区ごとに遺物の分布及び検出状況について述べてみる。

Ⅰ区において検出された遺構は土坑４基である。ＳＫ101～103はほぼ同タイプの土坑でまとまって検出された。ＳＫ106はそれらよりやや東側へ離れて位置し、形態も異なる。いずれの土坑も第Ⅲ層上面にて検出された。

Ⅱ区は、この遺跡の中心部とみられ、土坑41基、埋甕１基を検出した。遺構はＭＣ50付近に環状に配置されているようである。ＳＫ05は土坑のまわりを黄褐色土が環状に囲む形態をしており、他の土坑とは違う役割を持ったものであろう。第Ⅱ層中から礫を伴って大量の土器が出土した。

Ⅲ区にては土坑５基が検出された。ほぼ同様の広がりをもって分布しているが、形態的にはかなりの差異がみられた。Ⅲ区もⅡ区同様に第Ⅱ層上に礫を伴って土器が大量に出土し、その下に土坑がある。

Ⅳ区においては遺構は発見されなかった。


N
30
34
38
42
46
50
54
58
62
66
70
NE
NA
ME
MA
LE
LA
KE
Ⅱ区
Ⅲ区
Ⅰ区
Ⅳ区
155
154
153
152
151
156
149
148
150
147
146
145
144
高 瀬 川
県道羽後・向田・館合線
0
100m

第 2 図　遺跡全体図

3、遺物の検出状況

片符沢Ⅰ遺跡において出土した遺物の量は整理箱で50箱程度である。遺物は標準層位における第Ⅱ・Ⅲ層中からある程度まとまった状態で出土するものもあったが、投げ棄てられたものらしく、ほぼ完形として復元できるものは数個にすぎなかった。また遺物はⅡ層中から出土したものが最も多く、遺構埋土中からのものと第Ⅲ層出土のものは少ない。土坑間の遺物出土量はかなりの開きがある。概して、深く掘り込まれた比較的大きい土坑で遺物の出土が多い。

第2節　調査の方法

片符沢Ⅰ遺跡は周知の遺跡であり、台地部分約12,000㎡あったと推定されるが、数回にわたる耕地整理等のため段丘上の山側の約半分は削られて破壊されてしまっていた。そこで、河岸段丘の河川側で坪掘りを行い、北側に遺物が多く出土したので、北側のほぼ半分、約7,000㎡を調査対象として発掘調査を行うことにした。

遺跡中央部に任意の基準杭を打ち、これを原点（ＭＡ50）とした。トランシットにより磁北を定め、東西南北の基線を決定した。これから４ｍ毎に東西基線はアルファベット２文字の組み合わせ、南北基線は２桁の数字の組み合わせを用いた。すなわち、東西基線は８グリッド32ｍで２文字の前の方を替え、４ｍ毎に後の方を替えた（西へＭＡ、ＭＢ、ＭＣ、……、ＭＧ、ＭＨ、ＮＡ、……、ＮＨ、ＯＡ、……）。また南北基線の数字は４ｍ毎へ北に行くにつれ１ずつ増えることとした（北へ50、51、52、……、59、60、……）。各グリットの名称は東南隅の交点のアルファベット２文字と数字２文字からなる４個の組み合わせを用いることにした（ＭＡ50、ＭＢ51、……）。

発掘調査は前述したグリッド名称を用いて、４ｍ×４ｍのグリッド法により、随時拡張していくことにした。実測は16ｍ毎の基準杭を基にして間尺を用いて、原則として$\frac{1}{20}$の縮尺で行った。土色は「新版標準土色帳」によった。遺構番号は検出順に01から番号をふり、その後遺構でないと確認されたものはそのまま欠番とした。

第3節　調査の経過

片符沢遺跡Ⅰは周知の遺跡であるが、昭和54年度の圃場整備地域内となったため、昭和54年６月18日～８月11日までの間、発掘調査を行った。調査の全般的な経過は次のとおりである。

６月18日～21日に片符沢遺跡Ⅰの範囲確認調査を行い、遺跡面積を約7,000㎡と推定し、これを調査対象とし、25日から本格的発掘調査にはいった。最初に遺跡のほぼ中央部に任意の基

準杭を打ち、ＭＡ50と定めた。27日から、範囲確認調査の際に土器が多く出たＭＣ51周辺と、ＬＧ45周辺を中心にして掘り始めたが、連日の雨のため表土下を掘り下げることが困難だったため南北に表土剥ぎ区域を広げていった。

７月９日から第Ⅱ層の掘り下げにはいり、ＬＡ45、ＭＦ55等の第Ⅱ層中から多量の土器を確認した。16日からは第Ⅱ層中の土器を実測、写真撮影した後、取り上げて第Ⅲ層上面で精査し、遺構の確認に努めたところ、遺構らしきものは検出されたが、プランが明確でなかったため第Ⅲ層の掘り下げにはいった。その結果ＭＦ49付近で３つの土坑らしきものが確認された。その後はさらに北の地域を掘り下げてそれぞれＳＫ01～遺構番号を付した（この区域をⅡ区とした）。

７月24日からは遅れていた遺跡南側（Ⅲ区）の掘り下げを行い５基の土坑を確認し、ＳＫ09～14（ＳＫ10は精査したところ土坑でないことが判明したため欠番とした）とした。

７月30日にⅡ区のＳＫ05付近を掘り下げ、ＳＫ05を中心として、多数の土坑を検出した。それぞれ土坑を半截し、断面図を実測した後、すべて掘り下げた。

８月６日に遺跡北側（Ⅰ区）の拡張および掘り下げを行い、土坑を４基確認し、実測その他を行った。

11日に残るⅡ区北側の土坑の実測及び遺跡全体の写真撮影を行い、片符沢Ⅰ遺跡の発掘調査を終了した。

N
SK102
SK101
SK103
62
SK106
60
58
SK41
SK40
SK39
SK43
SK44
56
SK42
SK38
SK28
SK36
SK47
SK46
SK21
SK32
SK45
SK35
SK29
SK27
SK30
SK24
SK22
SK26
SK23
SK25
SK05
SK33
SK17
SK16
SK31
SK26
SK04
SK34
SK19
SK18
SK15
SK07
SK06
SK03
SK08
SK02
SK01
54
52
50
48
MG
ME
MC
46
SK11
SK14
SK12
44
SK13
SK09
0
2
4
8m

第3図　遺構配置図

第4章　調査の記録

第1節　遺構と遺物

1、遺構について

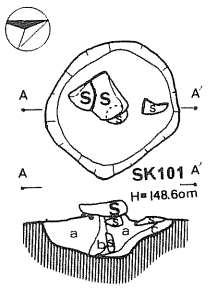
片符沢遺跡Ⅰにて検出された遺構は土坑51基 埋甕1基である。いずれの遺構も第Ⅲ層上面にて検出されるもののプランは極めて不明確だったので、この層を掘り下げ第Ⅳ層上面で平面観察を行った。また、第Ⅱ層中からは縄文時代後期前～中葉の遺物が多量に出土し、ある程度のまとまりをもって出土した箇所も多かった。土坑とその上面に位置する石及び土器の関連について考察を加えてみることとする。（付図1～3）

遺跡全体において、第Ⅱ層中から出土する土器のほとんどは、こぶし大～人頭大の礫を伴って棄てられた状態で出土した。特にⅢ区においては礫と礫の間に土器片が散在している傾向があ著しかった。土器と礫はほぼ同一レベルであるが、礫の方がやや高いレベルにある。土坑とその上面の礫との関係は、数個の礫が配されているものもあるものの、顕著な例はあまりない。わずかにＳＫ31・34に土坑上面に礫が集中する傾向がみられるのみである。土坑とその上面の土器との関係についても同様な事が言え、ＳＫ07・26・30・34の上部に土器が集中して存在するが、その他はむしろ土坑の上面の周囲に土器が集中してある傾向が強い。概していうと、土坑の上面には土器・礫ともにほとんどなく、その周囲に土器と礫がほぼ同一レベルで混在している傾向が強い。

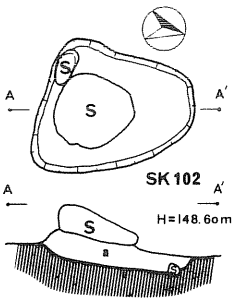
土坑は形態的にいくつかの違うタイプのものがあるので、これを次のタイプ別に分類した。後述する土坑の記述中の〝分類〟はこのことをさす。

第1に、平面形によりＡ－楕円形または不正楕円形、Ｂ－ほぼ円形の2種に分けた。第2に、断面形及び規模により1－深いもの、2－浅い小形のもの、3－浅い中形のもの、4－浅い大形のものの4種に分けた。第3に、埋土中及び坑底面にａ－石のあるもの、ｂ－石のないもの、ｃ－粘土をもつものの3種に分けた。以上3種の記号及び数字の組み合わせによって分類を試みた。その結果を個数でみると、A1*a*－3、A1b－1、A2*a*－7、A3*a*－12、A3b－2、A4*a*－6、A4b－1、B1*a*－5、B1c－1、B2*a*－7、B2b－2、B3*a*－1、B3b－1、B4*a*－1となり、概していうと、Ａタイプのものは1～2ｍの長径をもち浅いものが多く、Ｂタイプのものは中形で深いものと小形で浅いものが多い。これらの土坑の中でもＳＫ05はまったくタイプの異なる土坑である。ＳＫ03の粘質土の混入も変わったものといえよう。

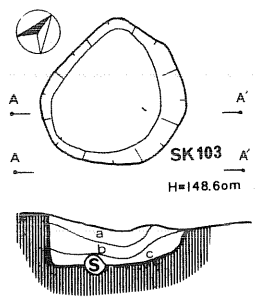
以下、それぞれの土坑について述べてみる。



a 赤　黒　色 (5YR1/2)	粘土質。木炭若干あり。
b 灰　褐　色 (7.5YR2/5)	粘質。少量砂を混入。
c 褐　色 (7.5YR3/4)	粘土質。



a 灰　褐　色 (7.5YR3/4)	



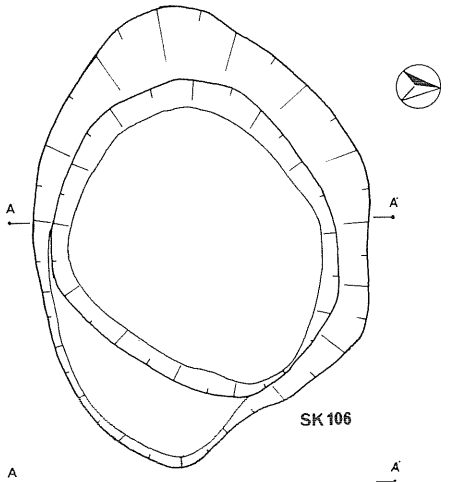
a 黒　褐　色 (7.5YR1/3)	粘土質。
b 黒　褐　色 (7.5YR1/3)	木炭まじり。
c 灰　褐　色 (7.5YR1/4)	粘土。

第4図　SK 101・102・103 土坑

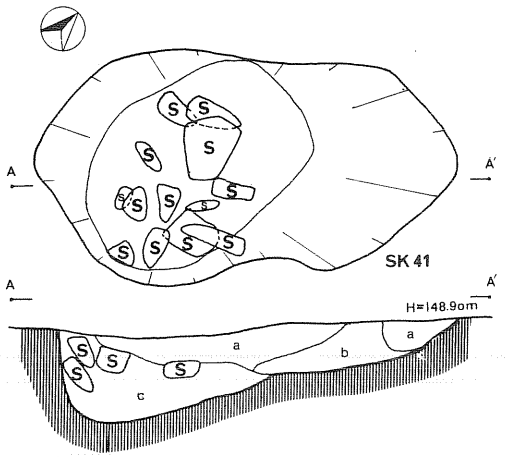
第101号　土坑	検出地点	Ⅰ区　MD62	主軸方位	円形
法量	長軸　0.70 m，　短軸　0.64 m，　最深の深さ　0.22 m		分類	B2aタイプ
形態	ほぼ円形を呈し、内部や上部に10～25cmの礫をもつU字状の浅い小土坑である。			
遺物出土状態	土器片が一片のみ出土した。			
遺物	P.79　第54図13に示される土器が出土した。			
時期	縄文時代後期前葉のものと思われる。	挿図番号	第4図	図版番号
備考				

第102号　土坑	検出地点	Ⅰ区　MD62	主軸方位	N15°W
法量	長軸　0.82 m，　短軸　0.56 m，　最深の深さ　0.12 m		分類	A2aタイプ
形態	中央部上面に径40cmの石を持つ、上縁が広がる浅い小土坑である。			
遺物出土状態	遺物は出土しなかった。			
遺物				
時期	縄文時代後期前葉のものと思われる。	挿図番号	第4図	図版番号
備考				

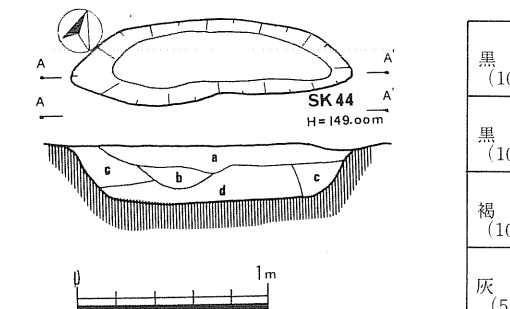
第103号　土坑	検出地点	Ⅰ区　MD62	主軸方位	円形
法量	長軸　0.77 m，　短軸　0.75 m，　最深の深さ　0.28 m		分類	B2aタイプ
形態	ほぼ円形を呈し、上縁が広がる浅い小土坑である。			
遺物出土状態	遺物は出土しなかった。			
遺物				
時期	縄文時代後期前葉のものと思われる。	挿図番号	第4図	図版番号
備考				



a 黒　褐　色 (2.5Y 3/1)	酸化鉄の赤い筋がはいり、炭化物・土器片も多い。こぶし大から半頭大の河原石もある。柔かい。
b 黒　褐　色 (7.5Y 3/1)	柔かく粘性がある。ブロック状にオリーブ灰の粘質土がはいる。炭化物・土器片ともに多い。
c オリーブ灰色 (10Y5/2)	オリーブ灰の独立したところ。



a 黒　褐　色 (10YR3/2)	パサパサ。褐鉄鉱粒、炭化物、遺物を含む。
b 暗　褐　色 (10YR3/3)	褐鉄鉱粒を多量に含む。炭化物も含む。遺物はaより少ない。
c 黒　褐　色 (2.5YR3/1)	粘性あり。均質。



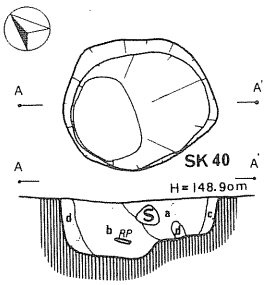
a 黒　褐　色 (10YR2/1)	褐鉄鉱粒、炭化物、遺物を含む。小礫を含む。
b 黒　色 (10YR2/1)	不純物を含まない。ベタベタしている。(粘性あり)小礫を含む。
c 褐　色 (10YR4/6)	地山。砂質。小礫を含む。
d 灰　色 (5YR4/1)	地山、砂層。

第5図　SK 106・41・44 土坑

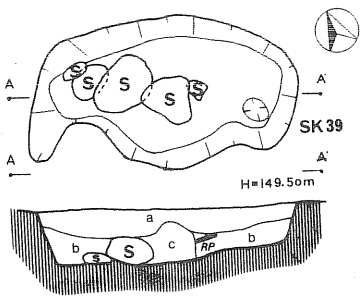
第106号　土坑	検出地点	Ⅰ区　MA61	主軸方位	円形
法量	長軸　2.42 m，　短軸 1.75 m，　最深の深さ 1.17 m		分類	Ｂ１ａタイプ
形態	不整楕円形を呈し、直角に近く掘り込まれた深さのある土坑である。			
遺物出土状態	遺物出土量は中間である（多少の判断は本遺跡における相対的評価に基づき、以下の土坑についても同様である。）			
遺物	P.79　第54図１～12に示される土器が出土した。			
時期	縄文時代後期前葉と思われる。	挿図番号	第５図	図版番号
備考	第54図10・11に示した網代痕を持つ土器底部が出土した。また12に示した耳栓も出土した。			

第41号　土坑	検出地点	Ⅱ区　MG57	主軸方位	Ｎ１°Ｅ
法量	長軸　2.21 m，短軸　1.23 m，　最深の深さ　0.49 m		分類	Ａ４ａタイプ
形態	下面は上面より主軸が偏東しており、北東側の上縁がゆるく広がる。			
遺物出土状態	遺物出土量は中間的である。遺物はａ・ｂ層から出土するが、ｂ層中に多く含まれている。遺物はまとまりなく、土坑埋土の上半分から出土した。			
遺物	P.76　第51図に示される土器と、Ｐ．95第70図４に示される凹石が出土した。			
時期	縄文時代後期前～中葉と思われる。	挿図番号	第５図	図版番号
備考	第51図11に示した網代痕を持つ土器が出土した。			

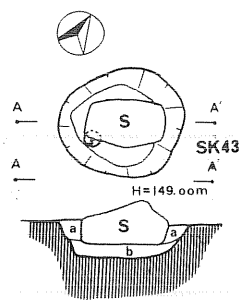
第44号　土坑	検出地点	Ⅱ区　ＭＦ56	主軸方位	Ｎ75°Ｅ
法量	長軸　1.49 m，　短軸 0.42 m，　最深の深さ　0.30 m		分類	Ａ３ｂタイプ
形態	上縁が広がる不整長楕円形を呈する。			
遺物出土状況	遺物は出土しなかった。			
遺物				
時期	縄文時代後期前葉のものと思われる。	挿図番号	第５図	図版番号
備考				



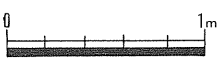
a 黒　褐　色 (10YR3/2)	砂質で固い。炭化物褐鉄鉱粒、遺物を含む。
b 黒　褐　色 (10YR2/2)	粘質で柔かい。炭化物褐鉄鉱粒、遺物を含む。
c にぶい黄褐色 (10YR5/4)	地山のブロック。粘性が強い。遺物は含まない。
d 黄　灰　色 (2.5YR5/1)	粘土、不純物を含まず均質。



a 黒　褐　色 (10YR3/2)	パサパサ。炭化物遺物、褐鉄鉱粒を含む。
b 暗　褐　色 (10YR3/3)	aより粘性あり。遺物、炭化物、褐鉄鉱粘を含む。
c 明オリーブ灰 (5GY5/1)	均質な粘土。特殊な土で、ブロック状にはいる。不純物なし。(SK06(b)に同様な物が見られる)



a 黒　褐　色 (10YR3/2)	パサパサ。遺物が多い。炭化物、褐鉄鉱粒を含む。
b 暗　褐　色 (10YR3/3)	aより粘性あり。炭化物、褐鉄鉱粒を含む。

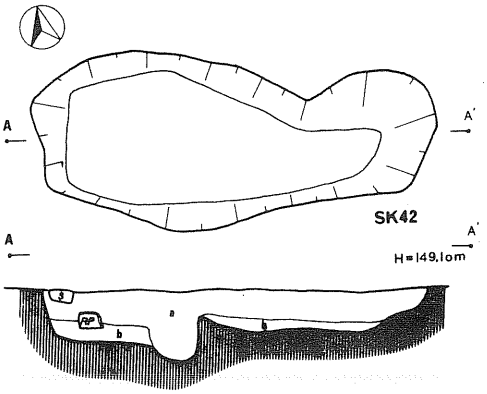


第6図　SK 40・39・43 土坑

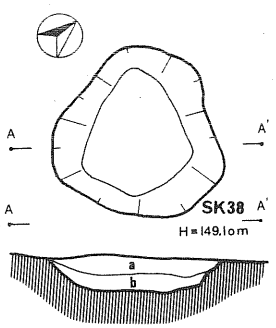
第40号　土坑	検出地点	Ⅱ区　MH56	主軸方位	円形
法量	長軸 0.77 m，　短軸　0.71 m，　最深の深さ　0.32 m		分類	B 2 a タイプ
形態	不整楕円形。断面形はU字状を呈する。西方がやや深くなっている。			
遺物出土状況	遺物出土量は少ない方に属する。ほとんどの遺物はａ、ｂ層のやや底面よりからまとまりなく出土した。			
遺物	P.74　第48図５～８に示される土器が出土した。			
時期	縄文時代後期前葉のものと思われる。	挿図番号	第６図	図版番号　図版５
備考				

第39号　土坑	検出地点	Ⅱ区　MH56	主軸方位	N72°W
法量	長軸 1.35 m，　短軸　0.81 m，　最深の深さ　0.28 m		分類	A 3 a タイプ
形態	不整楕円形を呈し、底面には礫がはいる。断面形は逆台形を呈する。			
遺物出土状況	遺物は土器が数片出土したのみである。いずれの遺物もａ・ｂ層からまとまりなく出土した。			
遺物	P.74　第48図４に示される土器が出土した。			
時期	縄文時代後期前葉のものと思われる。	挿図番号	第６図	図版番号　図版５
備考				

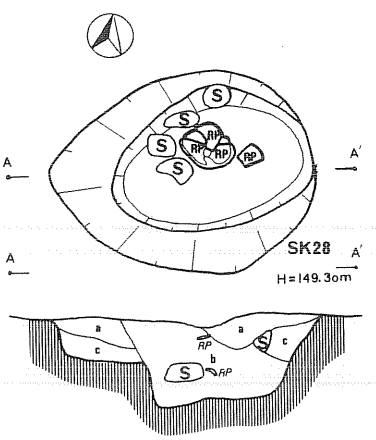
第43号　土坑	検出地点	Ⅱ区　MG56	主軸方位	円形
法量	長軸　0.61 m，　短軸　0.59 m，　最深の深さ　0.19 m		分類	B 2 a タイプ
形態	ほぼ円形を呈し、土坑中央上部に39×26㎝、厚さ24㎝の石がある小土坑である。			
遺物出土状況	遺物出土量は少ない方である。ほとんどの土器は中央の石と同レベルのａ層中からまとまりなく出土した。			
遺物	P．74第49図１～６に示される土器が出土した。			
時期	縄文時代後期前葉のものと思われる。	挿図番号	第６図	図版番号　図版６
備考				



a 黒　褐　色 (10YR3/2)	パサパサ。褐鉄鉱粒、炭化物を含む。遺物あり。
b 暗　褐　色 (10YR3/3)	褐鉄鉱粒を多量に含む。遺物あり。礫が混入。



a 黒　褐　色 (10YR2/3)	炭化物を含む。褐鉄鉱粒を若干含む。
b 暗　褐　色 (10YR3/3)	褐鉄鉱粒を多量に含む。



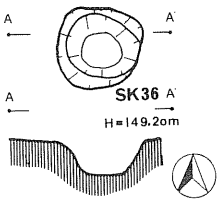
a 黒　褐　色 (10YR3/2)	炭化物、褐鉄鉱粒、遺物を含む。粘性あり
b 黒　色 (10YR2/1)	均質で、不純物はほとんど含まない。遺物が多い。下部にいくと砂っぽくなり砂利を含む。
c 褐　色 (10YR4/4)	地山ブロック。遺物は含まない。粘性強い。

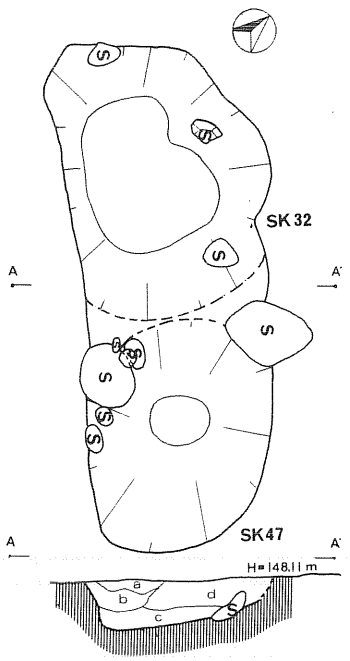
第7図　SK 42・38・28 土坑

第42号　土坑	検出地点	Ⅱ区　MF55	主軸方位	N68° E
法量	長軸　2.04 m，　短軸　0.89 m，　最深の深さ　0.37 m		分類	A 4 a タイプ
形態	不整楕円形を呈する。　土坑中央部に30cm程の掘り込みが見られる。			
遺物出土状況	遺物出土量は、やや多い方に属する。円盤状土製品も1個出土している。いずれもaとb層の中間付近からまとまりなく出土した。			
遺物	P. 77　第52図に示される土器が出土した。			
時期	縄文時代後期前葉のものと思われる。	挿図番号	第7図	図版番号　図版6
備考	第52図12に示した網代痕を持つ土器底部が出土した。			

第38号　土坑	検出地点	Ⅱ区　MG55	主軸方位	円形
法量	長軸　0.90 m，　短軸　0.86 m，　最深の深さ　0.20 m		分類	B 2 a タイプ
形態	ほぼ円形を呈する。断面形は鍋底状である。			
遺物出土状況	遺物出土量は少ない方である。遺物はb層中からまとまりなく出土した。			
遺物	P. 75　第50図に示される土器が出土した。			
時期	縄文時代後期前葉のものと思われる。	挿図番号	第7図	図版番号　図版6
備考				

第28号　土坑	検出地点	Ⅱ区　MH54	主軸方位	N48° E
法量	長軸　1.05 m，　短軸　0.74 m，　最深の深さ　0.48 m		分類	A 3 a タイプ
形態	不整楕円形を呈し、断面形は鍋底状である。			
遺物出土状況	第43図1に示した土器が土坑のほぼ中央部のb層中から棄てられたような状態で出土した。他の遺物はa・b層から出土したがほとんどがb層中である。			
遺物	P. 69・70第43・44図に示される土器片が出土した。第43図17に示した舟形土器が出土している。			
時期	縄文時代後期前葉のものと思われる。	挿図番号	第7図	図版番号　図版7
備考	SK28の西側に浅い土坑が重複している。これをSK28′とする。SK28′は長軸1.38 m、短軸1.09 m、深さ0.24 m、主軸方位N87° Eの、浅い鍋底状の土坑でSK28よりも古いものである。遺物は出土しなかった。			





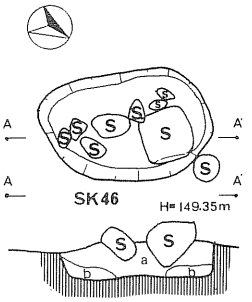
a 黒　色 (7.5YR1/2)	
b 黒　色 (7.5YR1/2)	
c 黒　色 (10YR1/2)	
d 黒　褐　色 (10YR1/2)	土器を多く含む。やや黒味が強い。

第8図　SK 36・32・47 土坑

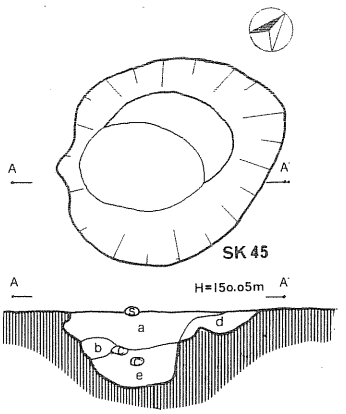
第36号　土坑	検出地点	Ⅱ区　MH54	主軸方位	円形
法量	長軸　0.48 m，　短軸　0.42 m，　最深の深さ　0.19 m		分類	B2bタイプ
形態	ほぼ円形を呈する浅い小土坑である。			
遺物出土状況	遺物は1片が出土したのみであった。			
遺物	P.74 第48図1に示される土器が出土した。			
時期	縄文時代後期前葉のものと思われる。	挿図番号	第8図	図版番号
備考				

第32号　土坑	検出地点	Ⅱ区　MG53	主軸方位	N6°E
法量	長軸　1.51 m，　短軸　1.08 m，　最深の深さ　0.26 m		分類	A3aタイプ
形態	不整楕円形を呈し、上縁の広がった土坑である。			
遺物出土状況	遺物は数片が出土したのみであった。ほとんどの遺物は上面のd層中からまとまりなく出土した。			
遺物	P.71 第45図6・7に示される土器が出土した。			
時期	縄文時代後期中葉のものと思われる。	挿図番号	第8図	図版番号
備考	東南のSK47と一部重なっているが、土の色が不明確なため新旧の判断はつかない。			

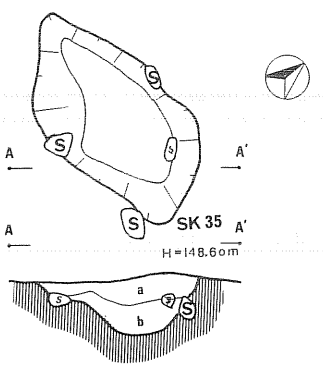
第47号　土坑	検出地点	Ⅱ区　MG53	手軸方位	N42°E
法量	長軸　1.22 m，　短軸　0.92 m，　最深の深さ　0.37 m		分類	A3aタイプ
形態	不整楕円形を呈し、上縁が広がる土坑である。			
遺物出土状況	遺物出土量は少ない方である。ほとんどの土器は上半分から出土した。			
遺物	P.78 第53図に示される土器が出土した。			
時期	縄文時代後期前葉のものと思われる。	挿図番号	第8図	図版番号
備考	SK32と重なっているが既述したように新旧の判断はつかなかった。第53図6・7に示した土器はSK23出土のものと酷似するが接合はしなかった。			



a 黒　褐　色 (7.5YR 2/2)	褐鉄鉱少量含む。遺物を含む。しまりなし。
b 褐　色 (7.5YR4/3)	褐鉄鉱、やや多量に含む。粘性ややあり。



a 黒　褐　色 (7.5YR2/1)	炭化物含む。褐鉄鉱小量含む 粒が荒い。しまりなし。 遺物、礫を包含。
b 黒　褐　色 (10YR2/2)	褐鉄鉱含む。粘性あり。小礫を小量含む。
c 暗　褐　色 (10YR3/4)	均質。粘質あり。
c' 暗　褐　色 (10YR3/4)	均質。粘質あり。
d 黒　褐　色 (10YR3/2)	褐鉄鉱、多量に含む。しまりよし。
e 黒　色 (10YR2/1)	粘性あり。小礫を少量含む。しまりなし。



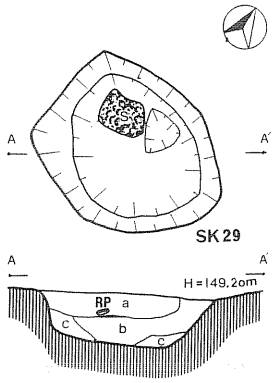
a 黒　褐　色 (10YR3/2)	粒子が粗く砂っぽい。小礫を含む。炭化物を含む。
b オリーブ黒 (7.5Y 3/1)	a に比して柔かい。粘質

第9図　SK 46・45・35 土坑

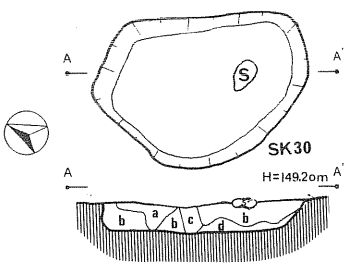
第46号　土坑	検出地点	Ⅱ区　MH53	主軸方位	N30°W
法量	長軸　0.88 m，　短軸　0.61 m，　最深の深さ　0.18 m		分類	A2aタイプ
形態	不整楕円形を呈し、上半に礫を混入する小土坑である。			
遺物出土状況	遺物は出土しなかった。			
遺物				
時期		挿図番号	第9図	図版番号　図版7
備考				

第45号　土坑	検出地点	Ⅱ区　MG53	主軸方位	N23°E
法量	長軸　1.23 m，　短軸　1.01 m，　最深の深さ　0.39 m		分類	A1bタイプ
形態	不整楕円形を呈し、南側が深く掘り込まれている土坑である。			
遺物出土状況	遺物は出土しなかった。			
遺物				
時期		挿図番号	第9図	図版番号　図版8
備考				

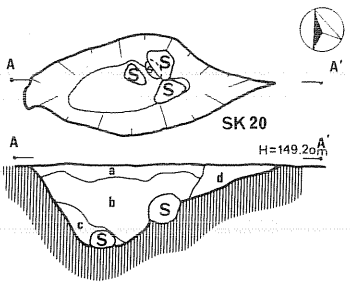
第35号　土坑	検出地点	Ⅱ区　MG53	主軸方位	N83°W
法量	長軸　1.25 m，　短軸　0.64 m，　最深の深さ　0.32 m		分類	A3aタイプ
形態	不整長楕円形を呈し、下面が比較的小さい土坑である。			
遺物出土状況	遺物出土量は中間的である。いずれの土器もa層中からまとまりなく出土した。			
遺物	P.73　第47図に示される土器が出土した。			
時期	縄文時代後期前葉のものと思われる。	挿図番号	第9図	図版番号　図版8
備考				



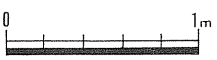
a 黒　褐　色 (10YR3/2)	遺物包含層。赤色粒子を多量に含む。
b 黒　褐　色 (10YR3/1)	遺物包含層。礫、炭化物粒子を含む。
c 黒　褐　色 (10YR2/2)	bと地山の中間層。粘性が強い。



a 黒　　色 (10YR2/1)	炭化物を含む。遺物包含層。
b 黒　褐　色 (10YR3/2)	炭化物微粒子を少々含む。
c にぶい黄褐色 (10YR4/3)	粘性が強い。黄褐色微粒子を含む。
d 灰黄褐色 (10YR4/2)	しまり良い。細かい粒子状。



a 黒　褐　色 (10YR2/2)	赤色粒子を含む。
b 黒　褐　色 (10YR2/1)	遺物包含層。炭化物粒子を含む。
c 黒　褐　色 (2.5Y3/2)	地山との中間層。礫が多い。
d 黒　褐　色 (10YR2/3)	赤色粒子を大量に含む。炭化物微粒子を含む。

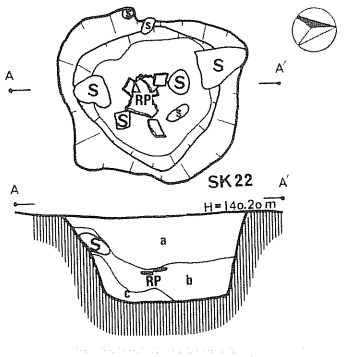


第10図　ＳＫ 29・30・20 土坑

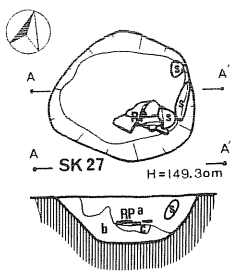
第29号　土坑	検出地点	Ⅱ区　MG52	主軸方位	N65°E
法量	長軸　0.98 m，　短軸　0.83 m，　最深の深さ　0.31 m		分類	A2aタイプ
形態	平面形は不整楕円形を呈し、上縁が広がる土坑である。			
遺物出土状況	遺物出土量は少ない方に属する。ほとんどの遺物はb層からまとまりなく出土した。			
遺物	P.71　第45図1～3に示される土器が出土した。			
時期	縄文時代後期中葉のものと思われる。	挿図番号	第10図	図版番号　図版8
備考	土坑の中央やや北西寄りの、遺構検出面から約20cm低いレベルで朱塗の石があった。石は長さ26cm、幅18cm、厚さ10cm程である。第29図3に示した笹の葉状の痕跡をもつ土器底部が出土した。			

第30号　土坑	検出地点	Ⅱ区　MG52	主軸方位	N35°W
法量	長軸　1.14 m，　短軸　0.78 m，　最深の深さ　0.15 m		分類	A3aタイプ
形態	不整楕円形を呈し、上縁が広がる土坑である。			
遺物出土状況	遺物は数片が出土したにすぎなかった。ほとんどの遺物はa層中からまとまりなく出土した。			
遺物	P.71　第45図4・5に示される土器が出土した。			
時期	縄文時代後期前葉のものと思われる。	挿図番号	第10図	図版番号　図版8
備考				

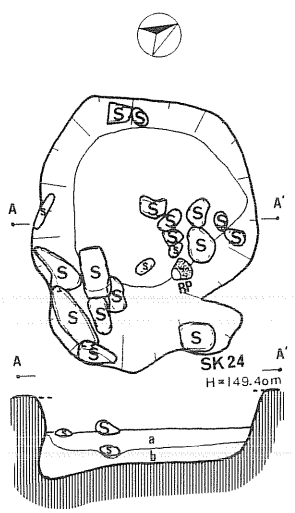
第20号　土坑	検出地点	Ⅱ区　MG52	主軸方位	N77°W
法量	長軸　1.29 m，　短軸　0.51 m，　最深の深さ　0.42 m		分類	A3bタイプ
形態	東側に長く、円弧を2つ重ねたような形状を呈する。			
遺物出土状況	遺物出土量は少ない方に属する。ほとんどの遺物はb層中からまとまりなく出土した。			
遺物	P.62　第36図14～16に示される土器が出土した。			
時期	縄文時代後期前葉のものと思われる。	挿図番号	第10図	図版番号　図版
備考				



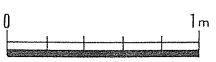
a 黒　褐　色 (10YR2/2)	遺物包含層。炭化物粒子、赤色粒子を含む。
b 黒　　色 (10YR1.7/1)	遺物包含層。炭化物粒子、赤色粒子を含む。a層と酷似。
c 黒　褐　色 (10YR3/1)	bと地山の中間層。



a 黒　褐　色 (7.5YR2/2)	赤色粒子を帯状に大量に含む。遺物包含層。小礫を含む。
b 黒　褐　色 (10YR2/3)	赤色粒子を含む。小礫を含む。
c にぶい黄褐色 (10YR4/3)	ブロック状に混入。砂状。



a 黒　褐　色 (10YR2/3)	粘性ややあり。粒子はやや荒く、赤褐色の粒子が含まれる。
b 黒　褐　色 (10YR3/2)	aより粘性があり、粒子も細かい。赤褐色の粒子が含まれる。

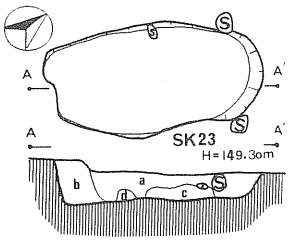


第11図　ＳＫ 22・27・24 土坑

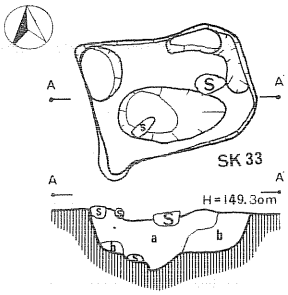
第22号　土坑	検出地点	Ⅱ区　MG52	主軸方位	円形
法量	長軸　0.91 m，　短軸　0.86 m，　最深の深さ　0.45 m		分類	B2aタイプ
形態	ほぼ円形を呈するやや深さのある土坑である。			
遺物出土状況	遺物出土数は中間的である。ほとんどの土器はa・b層から出土したが、特にb層において多かった。			
遺物	P.64　第38図に示される土器と、P．95第70図2に示される掻器が出土した。			
時期	縄文時代後期前葉のものと思われる。	挿図番号	第11図	図版番号　図版9
備考				

第27号　土坑	検出地点	Ⅱ区　MF52	主軸方位	N62°E
法量	長軸　0.76 m，　短軸　0.69 m，　最深の深さ　0.24 m		分類	A2aタイプ
形態	ゆるやかな不整楕円形を呈する小土坑である。			
遺物出土状況	遺物出土量は多い方に属する。第42図1に示される土器はa層中から底部を欠いてほぼ1個体分が押しつぶされたようになってあった。その他の土器もa層中から出土した。			
遺物	P.68　第42図に示される土器が出土した。			
時期	縄文時代後期前葉のものと思われる。	挿図番号	第11図	図版番号　図版9
備考	図版17が遺構内の土器出土状態である。第42図1に示した土器は内面黒～茶褐色、外面茶褐色を呈する焼成良好な深鉢形土器である。口縁部に2本の沈線によって区画された幅3cm程の間を磨消してある。			

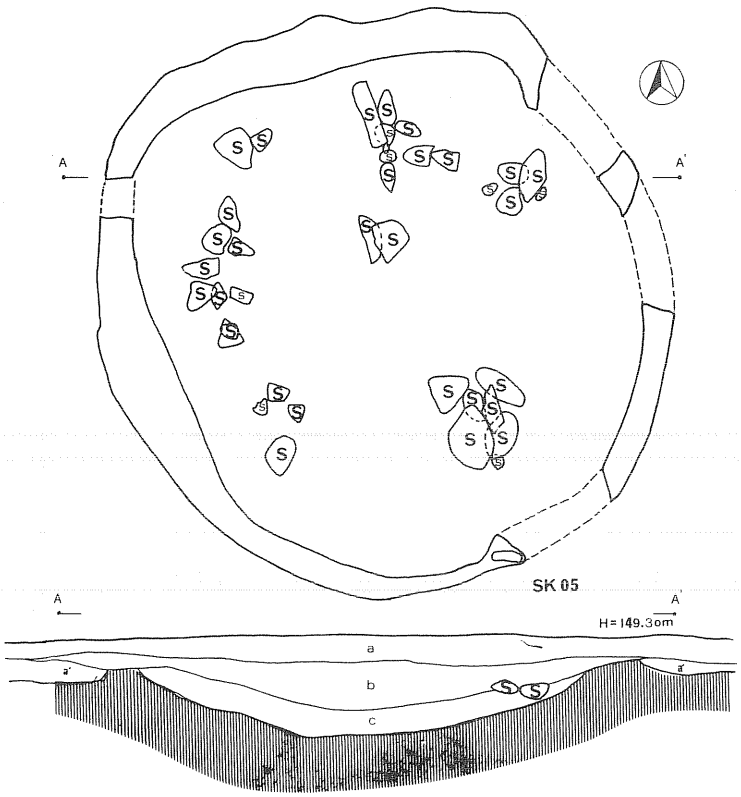
第24号　土坑	検出地点	Ⅱ区　MF52	主軸方位	円形
法量	長軸　1.43 m，　短軸　1.14 m，　最深の深さ　0.44 m		分類	B1aタイプ
形態	下面はほぼ円形を呈し、南東側はややえぐれている土坑である。			
遺物出土状況	遺物出土量は中間的である。ほとんどの遺物はa層中からまとまりなく出土した。			
遺物	P.66　第40図1～11に示される土器が出土した。			
時期	縄文時代後期前葉のものと思われる。	挿図番号	第11図	図版番号　図版9
備考				



a 黒　褐　色 （10YR3/2）	粘性ややあり。粒子の中に赤褐色のものも含まれている。
b 黒　褐　色 （10YR2/2）	a に比べ粒子がやや荒い。同じく、赤褐色の粒子を含む。
c にぶい黄褐色 （10YR4/3）	a 、b に比べ、粒子も細かく、粘性もある。
d 暗　褐　色 （10YR3/4）	a 、b 、c より、さらに粒子が細かく粘性がある。



a 黒　褐　色 （7.5YR2/2）	粒子はやや荒く、小石や、赤褐色の粒子も含む。粘性がある。
b 褐　色 （7.5YR4/3）	a に比べ、粒子は細かいが、同じく赤褐色の粒子も含んでいる。a より粘性がある。



a 黒　褐　色 （10YR2/3）	礫層。木炭を多量に含む。
b 黒　褐　色 （10YR1/3）	木炭を含む。砂質。
c 黒　褐　色 （10YR2/2）	木炭を含む。鉄分多し。

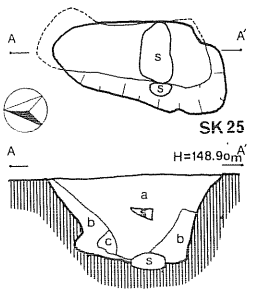
0　1m

第12図　ＳＫ 23・33・05 土坑

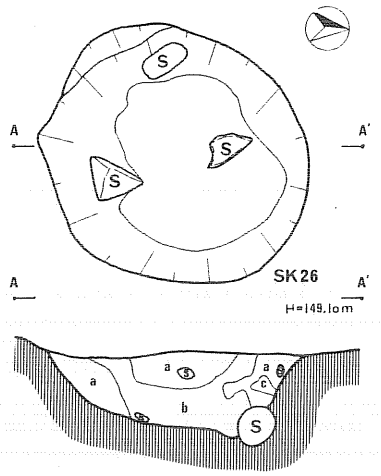
第23号　土坑	検出地点	Ⅱ区　MF52	主軸方位	N38°E
法量	長軸　1.09 m，　短軸　0.56 m，　最深の深さ　0.23 m		分類	A3aタイプ
形態	長楕円形を呈し、上縁が広がる土坑である。			
遺物出土状況	遺物出土量は少ない方に属する。ほとんどの遺物はa層中からまとまりなく出土した。			
遺物	P.65　第39図に示される土器が出土している。			
時期	縄文時代後期前葉のものと思われる。	挿図番号	第12図	図版番号　図版10
備考	SK25、33とともにSK05を切っており、これらの土坑はSK05より新しいことがわかる。第39図5～7の土器はかなり厚手の土器で外面は無文で、内面に0.3～0.5 cm の沈線を施している。SK47にも同種のものが出土しているが、接合できなかった。			

第33号　土坑	検出地点	Ⅱ区　MF51	主軸方位	N82°W
法量	長軸　0.84 m，　短軸　0.52 m，　最深の深さ　0.32 m		分類	A2aタイプ
形態	方形に近い平面形を呈し、底面はかなり凹凸がある。			
遺物出土状況	遺物出土量は少ない方に属する。ほとんどの土器はa層中からまとまりなく出土した。			
遺物	P.71　第45図8～16に示される土器が出土した。			
時期	縄文時代後期前葉のものと思われる。	挿図番号	第12図	図版番号　図版10
備考	SK23・25とともにSK05を切っている。			

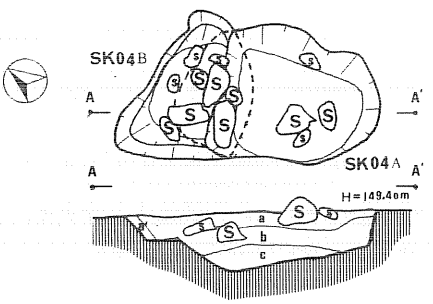
第05号　土坑	検出地点	Ⅱ区　MF51	主軸方位	円形
法量	長軸　3.05 m，　短軸　2.92 m，　最深の深さ　0.51 m		分類	B4aタイプ
形態	ほぼ円形を呈し、環状に黄褐色土が存在する。断面形はゆるやかな鍋底状を呈する。			
遺物出土状態	遺物出土量は多い方に属する。ほとんどの土器がb層中からまとまりなく出土した。			
遺物	P.53　第25図に示される土器と、P．94第69図4に示される凹石が出土した。			
時期	縄文時代後期前葉のものと思われる。	挿図番号	第12図	図版番号　図版10
備考	SK23・25・33によって切られており、これらの土坑より古いものである。また黄褐色土が環状になる変わった形態を持っており、他の土坑と違う役割を持っていたものであろう。第25図16～19に示した網代痕等を持つ土器底部、20に示した円盤状土製品が出土した。			



a 黒　褐　色 (10YR3/2)	木炭、遺物を含む。しまりなし。若干bより柔かい。褐鉄鉱多し。礫が多くはいり込む。
b 黒　褐　色 (10YR2/2)	木炭、遺物、褐鉄鉱を若干含む。若干の礫を含む。
c 明　褐　色 (10YR6/6)	地山ブロック。粘性あり。均質



a 黒　褐　色 (10YR2/2)	粘性なし。パサパサ。木炭粒、遺物を含む。若干の褐鉄鉱を含む。
b 褐　色 (10YR4/4)	粘性中。硬い。木炭粒、遺物を含む。褐鉄鉱を多く含み、小礫がはいり込む。
c 明　褐　色 (10YR6/6)	粘性あり。地山ブロック。均質



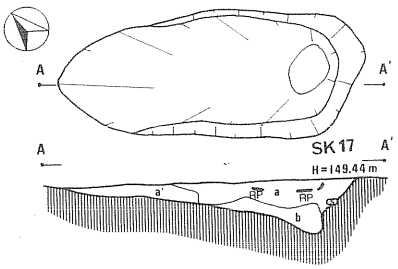
a 黒　褐　色 (7.5YR3/2)	赤色粒子含む。しまり良し。標準層位の第II層。
a' 黒　褐　色 (7.5YR3/2)	a層に赤色粒子を多量に含む層。
b 黒　褐　色 (10YR3/2)	赤色粒子含む。小礫多し。
c 黒　褐　色 (10YR2/2)	しまり悪し。炭化物微粒子含む。遺物包含層。

第13図　ＳＫ 25・26・04Ａ・04Ｂ土坑

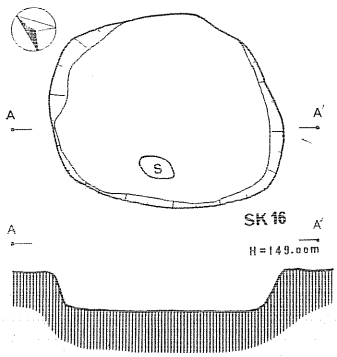
第25号　土坑	検出地点	Ⅱ区　MF51	主軸方位	N0°
法量	長軸　0.88 m，　短軸　0.48 m，　最深の深さ　0.46 m		分類	A2aタイプ
形態	不整楕円形を呈し北と東側がえぐれている土坑である。			
遺物出土状況	遺物出土量は少ない方である。ほとんどの遺物はa・b層中からまとまりなく出土した。			
遺物	P.66　第40図12～16に示される土器が出土した。			
時期	縄文時代後期前葉のものと思われる。	挿図番号	第13図	図版番号　図版11
備考	SK23・33とともにSK05　を切っている。			

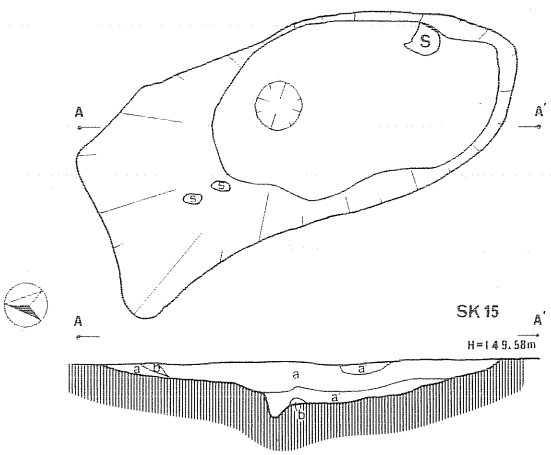
第26号　土坑	検出地点	Ⅱ区　MF51	主軸方位	円形
法量	長軸　1.44 m，　短軸　1.26 m，　最深の深さ　0.45 m		分類	B3aタイプ
形態	ほぼ円形を呈し、深さのある土坑である。			
遺物出土状況	遺物出土量は中間的である。ほとんどの遺物はa・b層からまとまりなく出土した。			
遺物	P.67　第41図に示された土器が出土した。			
時期	縄文時代後期前葉と思われる。	挿図番号	第13図	図版番号
備考	第41図13・14に示した網代痕を持つ土器底部が出土した。			

第04号4・B　土坑	検出地点	Ⅱ区　ME51	主軸方位	(A) N23°W (B) N69°E
法量	A，長軸　1.03 m，　短軸　0.69 m，　最深の深さ　0.32 m		分類	(A) A3bタイプ (B) A2aタイプ
形態	AはBを切っており、A・Bともに不整楕円形を呈する。			
遺物出土状況	遺物は出土しなかった。			
遺物				
時期	縄文時代後期前葉のものと思われる。	挿図番号	第13図	図版番号　図版11
備考	AはBより新しい。SK04Bは長軸80cm、短軸60cm、深さ15～20cmの土坑である。			

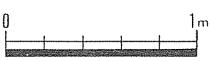


a 黒色 (10YR2/1)	粘性がややあり。粒子はやや荒い。赤褐色の土を混入。
a' 黒褐色 (10YR3/1)	a に比べ、粘性があり。粒子が細かい。
b 黒色 (7.5YR2/1)	a、a'に比べ粘性がかなりあり。粒子も細かい。





a 黒色 (7.5YR2/1)	粘性、ややあり。粒子は細かい。遺物を包含している。
a' 黒褐色 (10YR2/2)	a に比べ、粘性あり。2～5mmの小石が粒子の中に混じっている。
b にぶい黄褐色 (10YR4/3)	a、a'より、やや粒子が荒い。粘性あり。

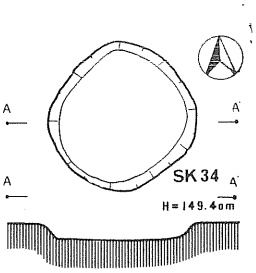


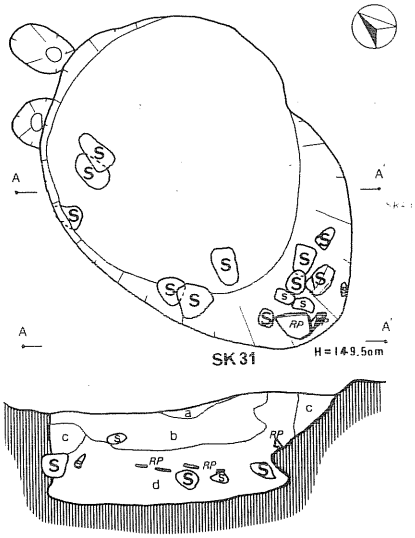
第14図　ＳＫ 17・16・15 土坑

第17号　土坑	検出地点	Ⅱ区　MG51	主軸方位	N55°W
法量	長軸　1.59 m，　短軸　0.68 m，　最深の深さ　0.27 m		分類	A3aタイプ
形態	北西側がゆるく広がる土坑で、南東部には径21cm、深さ12cmの落ちこみがある。			
遺物出土状況	遺物出土量は少ない方に属する。ほとんどの遺物はa層からまとまりなく出土した。			
遺物	P.63　第37図に示される土器が出土した。			
時期	縄文時代後期前葉のものと思われる。	挿図番号	第14図	図版番号　図版11
備考				

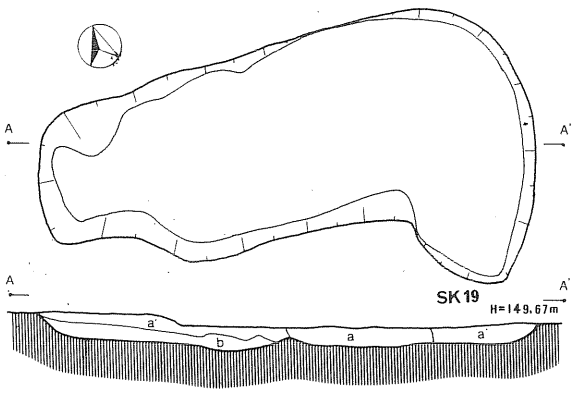
第16号　土坑	検出地点	Ⅱ区　MG51	主軸方位	円形
法量	長軸　1.19 m，　短軸　1.01 m，　最深の深さ　0.22 m		分類	B3bタイプ
形態	ほぼ円形で、上縁が広がる土坑である。			
遺物出土状況	遺物出土量は少ない方に属する。遺物は底面付近からまとまりなく出土した。			
遺物	P.62　第36図1・2に示される土器が出土している。			
時期	縄文時代後期前葉のものと思われる。	挿図番号	第14図	図版番号　図版11
備考				

第15号　土坑	検出地点	Ⅱ区　MH50	主軸方位	N26°W
法量	長軸　2.34 m，　短軸　0.98 m，　最深の深さ　0.29 m		分類	A4aタイプ
形態	上縁がゆるやかに広がる大土坑である。			
遺物出土状況	遺物出土量は中間に属する。ほとんどの遺物はa層中からまとまりなく出土した。			
遺物	P.61　第35図に示される土器が出土している。			
時期	縄文時代後期前葉のものと思われる。	挿図番号	第14図	図版番号　図版12
備考	土坑中央部に径24cm、深さ14cmの落ち込みを持つが、その点でSK17と似た形態を持っている。			





a 黒　褐　色 (10YR3/2)	粘性あり。褐鉄鉱粒を含む。
b にぶい黄褐色 (10YR5/4)	多量に地山のブロックを含む。褐鉄鉱粒を含む。無遺物。
c 黒　　色 (10YR2/1)	均質。しまり、粘性あり。炭化物を多量に含む。褐鉄鉱粒を含む。
d 黒　褐　色 (10YR3/3)	砂質。しまりなし。遺物、炭化物、褐鉄鉱粒を多量に含む。礫を含む。



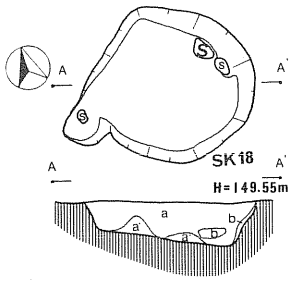
a 黒　褐　色 (10YR2/2)	粘性なし。粒子はやや荒い。遺物、小さな石を包含している。
a' 黒　褐　色 (10YR2/3)	aに比べ、粘性があり、粒子は細かい。遺物は包含していないが、炭化物を包含している。
b にぶい黒褐色 (5YR4/3)	a、a'に比べ粘性があり、粒子は細かい。遺物、炭化物は包含していない。

第15図　ＳＫ 34・31・19 土坑

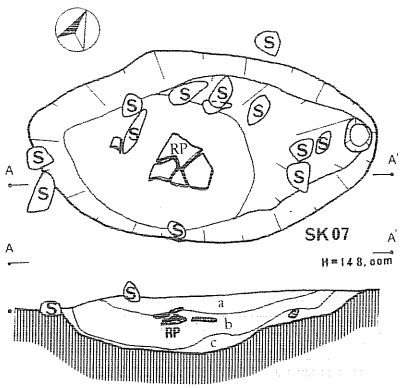
第34号　土坑	検出地点	Ⅱ区　MF50	主軸方位	円形
法量	長軸　0.75 m，　短軸　0.72 m，　最深の深さ　0.11 m		分類	Ｂ２ｂ タイプ
形態	上縁が広がる浅い小土坑である。底面はほぼ平らである。			
遺物出土状況	遺物は少量まとまりなく出土した。			
遺物				
時期	縄文時代後期前葉のものと思われる。	挿図番号	第15図	図版番号　図版12
備考				

第31号　土坑	検出地点	Ⅱ区　MG50	主軸方位	円形
法量	長軸　1.96 m，　短軸　1.38 m，　最深の深さ　0.65 m		分類	Ｂ１ａ タイプ
形態	北西側はほぼ直上、南東側が一度くびれてゆるやかに広がる土坑である。			
遺物出土状況	遺物は大量に出土した。いずれもｄ層の中央部付近からのものが多く、礫を伴なって出土した。			
遺物	P.72第46図に示される土器が出土した。			
時期	縄文時代後期前葉のものと思われる。	挿図番号	第15図	図版番号　図版12
備考	第46図13は方形の土器である。色調は灰白～黄褐色を呈し、焼成は良好である。口縁部一辺 6.2 cm，底辺 2.9 cm，高さ 4.2 cm である。			

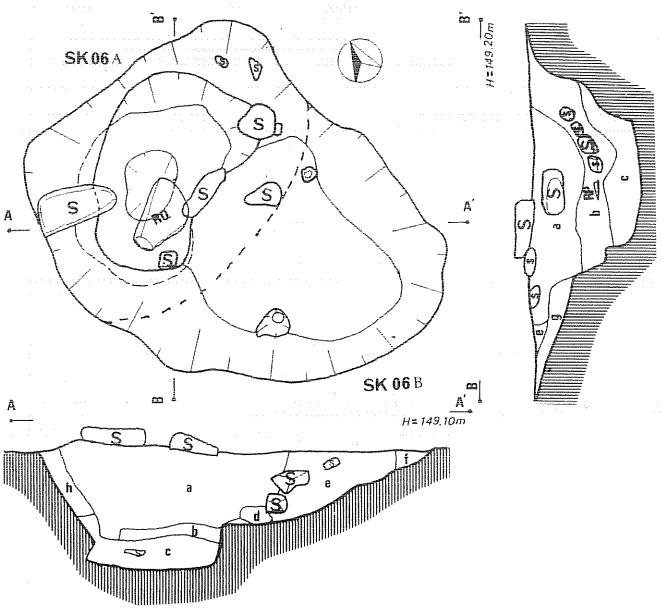
第19号　土坑	検出地点	Ⅱ区　MG50	主軸方位	N88°W
法量	長軸　2.58 m，　短軸　1.01 m，　最深の深さ　0.12 m		分類	Ａ４ｂ タイプ
形態	上縁が広がる浅い大土坑である。			
遺物出土状況	遺物出土量はやや少ない方である。遺物はいずれもａ層中からまとまりなく出土した。			
遺物	P.62　第36図７～10に示される土器が出土した。			
時期	縄文時代後期前葉のものと思われる。	挿図番号	第15図	図版番号　図版13
備考	第36図12に示した笹の葉状の痕跡を持つ土器底部が出土した。			



a 黒色 (7.5YR2/1)	粘性あり。粒子は細かい。遺物を包含している。
a' 黒褐色 (10YR2/2)	aより粘性あり。粒子はaより細かい。
b 暗赤褐色 (5YR2/3)	a'より粘性あり。粒子は、a、a'と比べかなり細かい。



a 黒色 (10YR2/1)	しまり良し。炭化物を含む。赤色粒子を若干含む。
b 黒褐色 (10YR2/2)	しまり悪し。a層より、やや多量の炭化物を含む。礫多し。遺物包含層。やや粘性あり。赤色粒子を若干含む。
c 黒褐色 (10YR2/3)	最も粘性が強い。炭化物微粒子を少量含む。赤色粒子を若干含む。



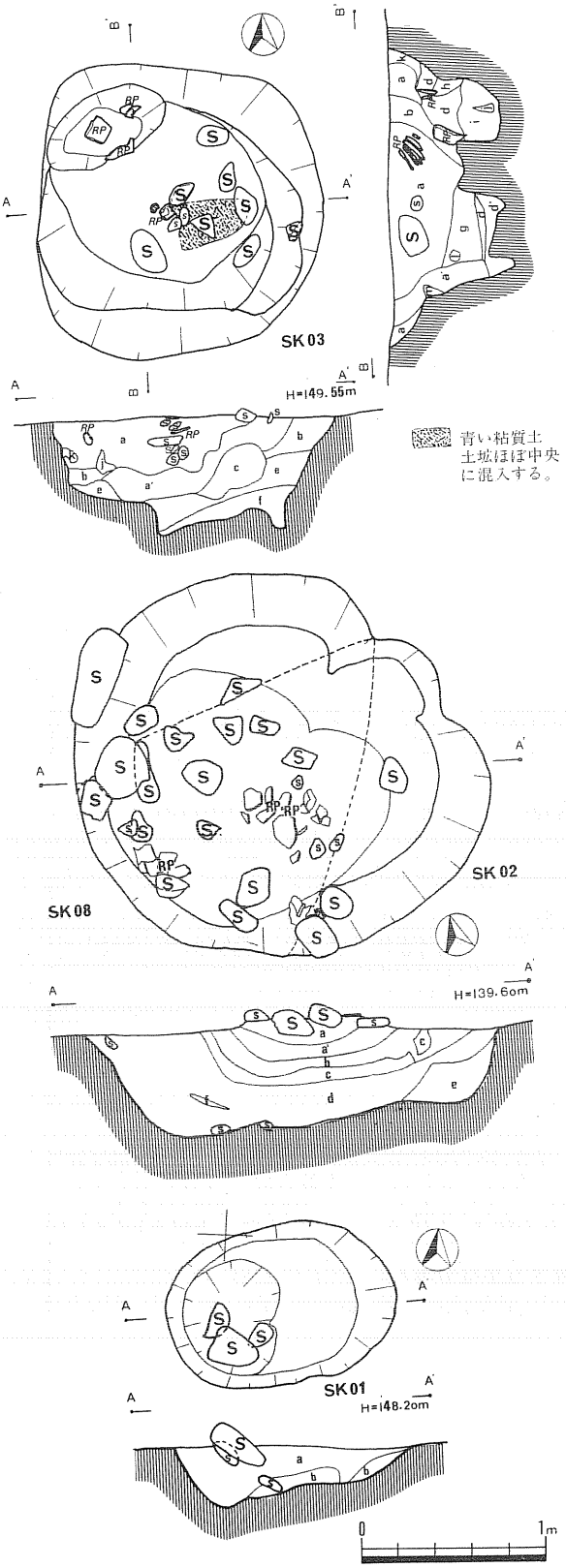
a 暗褐色 (10YR3/3)	小礫を含む。砂質。まんべんなく遺物出土。
b 暗褐色 (10YR3/4)	柔かく不純物を含まない。まんべんなく遺物出土。
c 黒褐色 (10YR2/3)	炭化物多し。小礫を多量に含む。シルト質褐鉄鉱の影響大。まんべんなく遺物出土。
d にぶい黄褐色 (10YR4/3)	褐鉄鉱を多量に含む。遺物の包含層遺跡全体に広がるものと考えられる。
e 灰黄褐色 (10YR4/2)	炭化物、褐鉄鉱を多量に含む。遺物含有。
f 明オリーブ灰色 (2.5GY7/2)	均質な粘土層。しまりあり固い。褐鉄鉱を含む。
g 暗褐色 (10YR3/3)	均質で粘性が強い。不純物はほとんど含まない。地山の流れ込みの可能性あり。
h にぶい黄褐色 (10YR5/3)	柔かく不純物は少ない。地山がはいり込んでいる。

第16図　ＳＫ 18・07・06Ａ・06Ｂ・土坑

第18号　土坑	検出地点	Ⅱ区　MF50	主軸方位	円形
法量	長軸　0.91 m，　短軸　0.86 m，　最深の深さ　0.22 m		分類	B2aタイプ
形態	ほぼ円形を呈し、上縁が広がる土坑である。			
遺物出土状況	遺物出土量は少ない方に属する。ほとんどの遺物はa層中からまとまりなく出土した。			
遺物	P.62　第36図3～6に示される土器が出土した。			
時期	縄文時代後期前葉のものと思われる。	挿図番号	第16図	図版番号　図　版
備考				

第07号　土坑	検出地点	Ⅱ区　MG50	主軸方位	N52°E
法量	長軸　1.72 m，　短軸　0.98 m，　最深の深さ　0.30 m		分類	A3aタイプ
形態	平面形は不整長楕円形を呈し、断面はゆるやかな鍋底状を呈する。			
遺物出土状況	遺物出土量は中間的である。遺物はほとんどのものが、b層中から出土した。			
遺物	P.56　第28図に示される土器が出土した。			
時期	縄文時代後期前葉のものと思われる。	挿図番号	第16図	図版番号　図版13
備考				

第06号　A/B　土坑	検出地点	Ⅱ区　MF49	主軸方位	(A) N55°E (B) N15°W
法量	A/B長軸 1.73/1.50 m，　短軸 1.20/1.44 m，　最深の深さ 0.65/0.38 m		分類	A・BともにA1aタイプ
形態	A・Bともに不整楕円形を呈し、Aは深さもかなりある。			
遺物出土状況	遺物はかなり大量に出土しているが、ほとんどがSK06　Aから出土したものである。遺物はa～e層中より出土したが、a～c層中が特に多かった。			
遺物	P.54・55　第26・27図に示される土器と、P．第　図5に示される磨製石斧が出土した。			
時期	縄文時代後期前葉のものと思われる。	挿図番号	第16図	図版番号　図版13
備考	SK06 Aが06 Bを切っており、06 Aの方が新しい。第16図中のRQは第69図5に示した磨製石斧で、SK06の遺構検出面とほぼ同レベルから出土している。他に第26図20～23に示した網代痕や笹の葉の痕跡を持つ土器も出土している。			



第17図　ＳＫ 03・02・08・01 土坑

a 黒褐色 (10YR3/2)	粘性なし。土器片を多量に含む。赤褐色土を含む。
a' 黒色 (10YR2/1)	他層より木炭を多く含み、赤褐色土、土器片を含む。粒子は荒く、粘性はなし。
b 黒褐色 (10YR2/2)	粘性なし。赤褐色土を含み、白い砂を少量含む。
c 灰オリーブ (7.5Y 6/2)	粒子が細かく強い粘性をもつ。赤褐色粘土を含む。
d 黒褐色 (10YR2/3)	粒子は細かいが、粘度は低い。白っぽい粘土木炭を含む。
d' 暗褐色 (10YR3/3)	dより粒子は荒くなくなるが、粘性は出てくる。赤褐色土、木炭粒を含む。
e 黒褐色 (7.5YR3/1)	やや粘性あるが、粒子は荒い。炭化物、赤褐色土を含む。
f 暗褐色 (10YR3/3)	粒子が荒く砂状。粘性なし。炭化物を多量に含む。
g 黒褐色 (10YR3/2)	a'に似ているが、やや色がうすく、土器片を含まない。
h 黒褐色 (10YR3/1)	土器包含層。粒子が荒く、やや粘性あり。赤褐色土を含む。
i 黒褐色 (10YR2/2)	粒子がやや細かく、粘性、少しあり。土器片を含む。
j 褐色 (7.5YR4/3)	粒子がやや細かく、粘性なし。赤褐色土を含む。
k 暗褐色 (10YR3/4)	粒子が荒く粘性なし。赤褐色、黒褐色土が混入。
l にぶい黄色 (2.5Y6/3)	地山のブロック。黒褐色土、赤褐色土がはいり、混じっている。
m 褐色 (7.5Y 4/3)	粒子が荒く、粘度なし。砂状の赤褐色粒子を多量に混入。

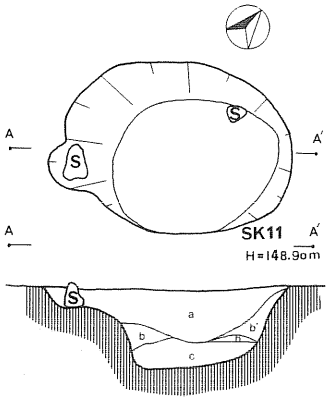
a 黒褐色 (7.5YR2/2)	礫が少ない。
a' 黒褐色 (7.5YR2/2)	礫層。
b 黒褐色 (7.5YR1/3)	木炭を含む。
c 灰褐色 (7.5YR2/4)	粘土。
d 黒褐色 (7.5YR2/2)	木炭、土器を多量に含む。
e 黒褐色 (7.5YR3/2)	
f 暗褐色 (7.5YR4/3)	砂質。

a 黒色 (10YR2/1)	炭化物粒子、赤色粒子を含む。小さい(2～3cm)礫を含む。
b 黒褐色 (10YR2/2)	a層に擬し、しまっている。

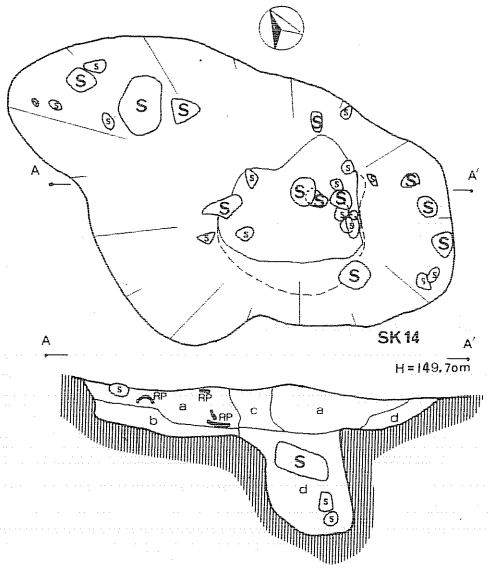
第03号　土坑	検出地点	Ⅱ区　MG49	主軸方位	円形
法量	長軸　1.72 m，　短軸　1.70 m，　最深の深さ　0.61 m		分類	B1c タイプ
形態	上縁がやや広がる深い土坑である。東側と北西側が深くなっている。			
遺物出土状況	遺物は多量に出土している。ほとんどがa層中から出土した。土偶も1個出土しているが、やはりa層のほぼ中央部から出土した。			
遺物	P.51・52第23・24図に示される土器と、P.94第69図3に示される凹石が出土した。			
時期	縄文時代後期前葉のものと思われる。	挿図番号	第17図	図版番号　図版13
備考	土坑中央やや東寄りに青い粘質土が混入している。第24図27に示した四脚土製品が出土している。もともとは胴部があった土器を底部で削って再利用したものと思われる。同様のものがSK08からも出土している。他に土偶や網代痕を持つ土器底部が出土している。			

第02/08号　土坑	検出地点	Ⅱ区　MF49	主軸方位	(02) N78°E (08) N39°E
法量	長軸　2.15/1.96 m，　短軸　1.70/1.40 m，　最深の深さ　0.36/0.56 m		分類	02－A4a タイプ 08－A1a タイプ
形態	SK02は上縁が広がる浅い土坑で、その上にSK08が位置する。			
遺物出土状況	遺物はかなり大量に出土している。遺物はほとんどd層からまとまりなく出土した。			
遺物	P.49・50・57第21・22・29図の土器と、P.94第69図1・2の掻器と磨製石斧が出土した。			
時期	縄文時代後期前葉のものと思われる。	挿図番号	第17図	図版番号　図版14
備考	底面はしっかりしているが、埋土は極めて不明瞭である。東南寄りにSK02がありSK08を切っている。さらにその下に土坑があるようでこれをSK02′とすると、新←02・08・02′→古となるようである。しかし02′は極めて不明瞭で規模等をつかむことはできなかった。			

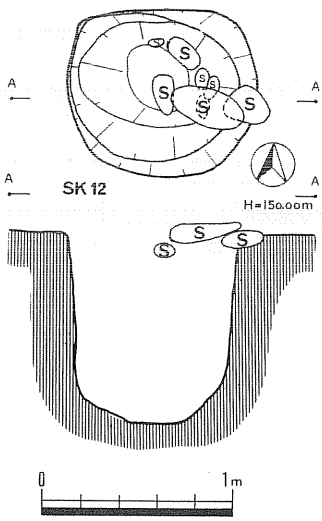
第01号　土坑	検出地点	Ⅱ区　ME48	主軸方位	N84°E
法量	長軸　1.24 m，　短軸　0.86 m，　最深の深さ　0.27 m		分類	A3a タイプ
形態	東側上縁が西側に比してゆるく広がるU字状の土坑である。			
遺物出土状況	遺物出土量はこの遺跡においては中間でいずれもa層から出土した。			
遺物	P.48　第20図に示される土器が出土した。			
時期	縄文時代後期前葉のものと思われる。	挿図番号	第17図	図版番号　図版14
備考	第20図9に示した円盤状土製品、10・11に示した網代痕を持つ土器底部も出土している。			



a 黒　褐　色 (10YR3/2)	遺物包含層。炭化物を混入している。粘性あり。しまり悪い。
b 暗　褐　色 (10YR3/4)	炭化物、ローム粒子を混入している。しまり悪い。
b' 暗　褐　色 (10YR3/4)	a層とb層の中間層。
c 黒　褐　色 (10YR2/2)	ローム粒子を混入。炭化物を少量混入している。しまり良い。



a 黒　褐　色 (10YR3/2)	炭化物、遺物を多量に含む。粘性あり。褐鉄鉱粒を多量に含むためにかなり赤っぽい。
b 暗　褐　色 (10YR3/3)	砂質でザラザラである。均質で不純物を含まない。
c 黒　褐　色 (2.5YR3/1)	地山を混入している。粘性が強く遺物はほとんど含まない。
d 灰　色 (5YR5/1)	砂質、不純物を含まず、遺物もほとんど含まない。

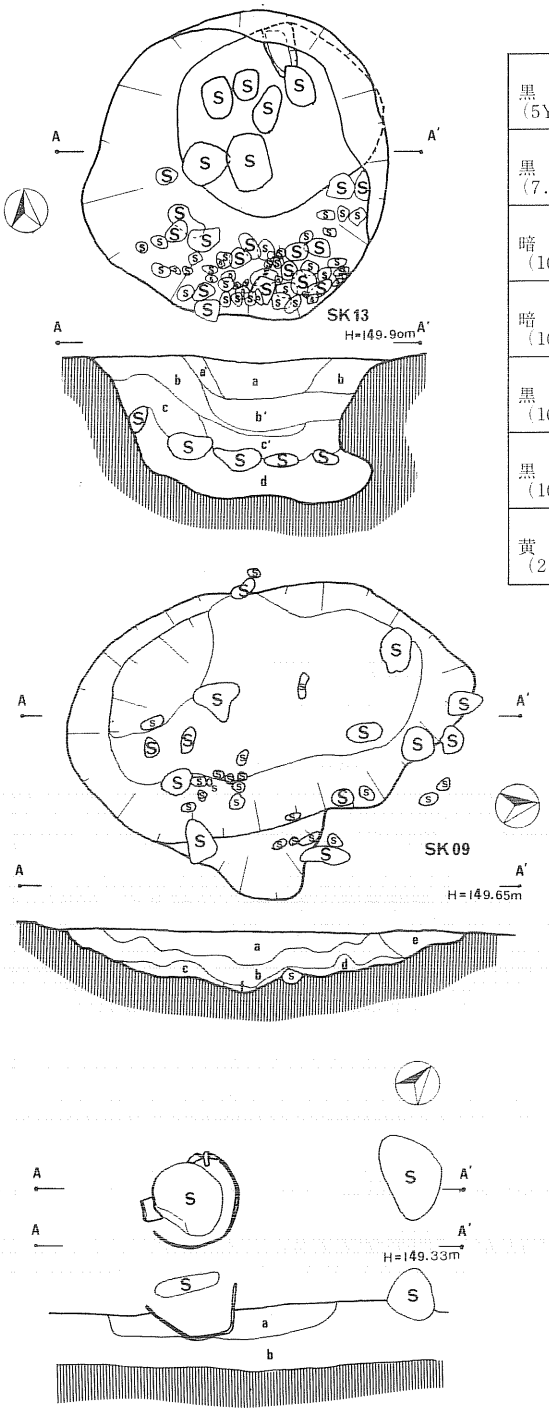


第18図　ＳＫ 11･14･12 土坑

第11号　土坑	検出地点	Ⅲ区　MD44	主軸方位	N54°E
法量	長軸　1.27 m，　短軸　0.86 m，　最深の深さ　0.42 m		分類	A3aタイプ
形態	ほぼ楕円形で、上縁が広がる土坑である。			
遺物出土状況	遺物出土量は少ない方に属する。ほとんどの遺物はa層中からまとまりなく出土した。			
遺物	P.58　第31図に示される土器が出土した。			
時期	縄文時代後期前葉のものと思われる。	挿図番号	第18図	図版番号　図版14
備考	第31図4・5に示した綱代痕を持つ土器底部6の笹の葉状の痕跡を持つ土器底部が出土した。			

第14号　土坑	検出地点	Ⅲ区　MC44	主軸方位	N54°E
法量	長軸　2.47 m，　短軸　1.23 m，　最深の深さ　0.78 m		分類	A4aタイプ
形態	上縁が広がる土坑で中央部に径40cm、深さ55cmの落ち込みがある。			
遺物出土状況	遺物出土量はやや多い方に属する。ほとんどの遺物はa層中からまとまりなく出土した。			
遺物	P.60　第34図に示される土器が出土した。			
時期	縄文時代後期前葉のものと思われる。	挿図番号	第18図	図版番号　図版15
備考	落ち込み中の埋土d層中からはほとんど遺物が出土しない。かなり大きめの礫が混入している。第34図12に示した円盤状土製品、13～15に示した木葉痕や綱代痕を持つ土器底部が出土している。			

第12号　土坑	検出地点	Ⅲ区　MB44	主軸方位	円形
法量	長軸　1.03 m，　短軸　0.87 m，　最深の深さ　1.00 m		分類	B1aタイプ
形態	ほぼ直上し、深さもある土坑である。平面はほぼ円形を呈する。			
遺物出土状況	遺物の出土量は少ない方である。いずれの土器も底部付近からはあまり出土せず、土坑検出面とほぼ同レベルかやや下面から出土した。			
遺物	P.59　第32図に示される土器が出土した。			
時期	縄文時代後期前葉のものと思われる。	挿図番号	第18図	図版番号　図版15
備考	第32図3に示した綱代痕を持つ土器底部が出土した。			



a 黒色 (5YR1.7/1)	粘性がなく、砂状に近い。赤褐色の粘土が含まれている。遺物の包含層である。
a′ 黒褐色 (7.5YR3/2)	a と同質で似ている。
b 暗褐色 (10YR3/4)	砂状でほとんど粘質はなく、炭化物、赤褐色の粘土が、わずかに包含している。遺物が包含している。
b′ 暗褐色 (10YR2/3)	赤褐色の粘土が、まばらに混入しているが、粘性は少なく、微量ながら炭化物が、見られる。
c 黒褐色 (10YR3/2)	粒子が細かくなるが、粘性は少ない。木炭片かく含まれている。
c′ 黒褐色 (10YR3/1)	粘性が高く、粒子状の木炭片が混入している。
d 黄灰色 (2.5Y4/1)	粘性が高く、細かい砂が混入している。粒子が細かい。

a 黒褐色 (10YR2/3)	
b 黒色 (10YR2/4)	
c 褐色 (7.5YR4/4)	砂質。
d 黒褐色 (10YR2/3)	
e 黒褐色 (7.5YR3/1)	砂質。粘質あり。
f 灰褐色 (7.5YR4/1)	砂質。

第19図　ＳＫ 13・09 土坑Ｓ×21埋甕

第13号　土坑	検出地点	Ⅲ区　MC43	主軸方位	円形
法量	長軸　1.65 m，　短軸　1.54 m，　最深の深さ　0.71 m		分類	B 1 a タイプ
形態	北東側がえぐれて深さもある土坑である。北側に小ピットが検出された。			
遺物出土状況	遺物は少ない方に属する。ほとんどの遺物はb 層中からまとまりなく出土した。			
遺物	P.59 第33図に示される土器が出土した。			
時期	縄文時代後期前葉のものと思われる。	挿図番号	第19図	図版番号　図版15
備考	北側の大きめの石はすべてc及びc'層とd層の中間にあった。また南側には直径約3～10cmの礫が底面一面に敷きつめられたようにあった。第33図5に示した網代痕を持つ土器底部が出土した。			

第09号　土坑	検出地点	Ⅲ区　MC44	主軸方位	N 6°W
法量	長軸　2.16 m，　短軸　1.23 m，　最深の深さ　0.33 m		分類	A 4 a タイプ
形態	不整楕円形を呈し、上縁がゆるやかに広がる大土坑である。			
遺物出土状況	遺物出土量はやや少ない方に属する。ほとんどの遺物はa及びb層からまとまりなく出土した。			
遺物	P.57 第30図に示される土器が出土した。			
時期	縄文時代後期前葉のものと思われる。	挿図番号	第19図	図版番号　図版15
備考	第30図3・4に示した円盤状土製品、5・6に示した土偶が出土している。また、この土坑は検出面における平面観察で、暗褐色土が変形C字状に土坑のまわりを囲んでいることが確認された。			

第21号　埋甕	検出地点	Ⅱ区　MG53	実測図	第55図
出土状況	Ⅱ区中央部やや北側の第Ⅲ層上面にて検出された。長さ40×幅20×厚さ10cm程の自然石が蓋のようにかぶせてあった。本来は第Ⅱ層上面まであったものと思われるが、胴部は発見されなかった。埋甕の約2倍の大きさに掘り込んで埋めたものであろう。土器内の埋土中からの遺物はなかった。			
土器	出土した埋甕は底径15cm、残存する高さ10cmであったが、本来は器高40～50cmで胴部上半に最大径を持つ、深鉢形土器であったと思われる。焼成は良好で、色調は内面茶褐色、外面黄～茶褐色を呈する。文様は5 cm程のＬＲ原体の単節縄文を斜位または横位に回転施文しており、その後に幅5～7 mmの沈線で区画した内側を磨消して文様体を構成する。縄文時代後期のものと思われる。			

2. 出土遺物について

調査で発見された遺構及びその周辺からは多くの遺物が出土した。遺構内から出土したものは図示したとおりである。それらをもあわせて記述するものとする。

土器 縄文時代後期初頭から中葉頃までの土器が発見された。主体をなす土器は地文に縄文を施し、それにいろいろな沈線文で幾可学的な文様を構成するものである。それらを大別すると次のようになる。器形は深鉢・浅鉢・注口土器・壺・ミニチュア土器などがある。口縁部に突起の付くもの、波状口縁をなすものが多い。第56図に突起の主なものを示した。

1. 縄文を主体とするもの。器面全体に縄文が施されるもので、器形は深鉢形をなし、頸部でくびれるものが多い。(1)口縁部に2～3㎝の無文帯を持つもの。(2)頸部に無文帯をもつもの。さらに①無文帯との境界に沈線をほどこすもの。（これには上だけ・下だけ・上下両方にあるものがある。）②縄線文をほどこすもの。（①と同種の種類がある。）③沈線　他

2. 地文に縄文、撚糸文を施し、その上に沈線を施すもの。沈線は(1)棒状の工具で巾広の沈線文で構成するもの。(2)半截竹管による平行沈線文で構成するもの。(3)細く浅い沈線で構成するものなどがある。(1)の沈線で構成される土器は①口縁部に文様帯（模式図）を持つもので、器形は胴部から口縁部にかけて直線的に立ち上り、胴部には幾可学的な文様を施すもの。②口縁は平・波状をなし、少し内湾する深鉢形で8字あるいはS字状の文様が縦につけられるもの。あるいは列点文などを施すものなどがある。③口縁部に①と類似の文様帯をもち、頸部がくびれ（無文帯）それ以下に沈線文の施されるもの。比較的大形のものに多い。(2)口縁は平で、口縁部に広い文様帯を構成し、頸部に平行沈線、胴部には①同様の幾可学的な文様を施すもの。(3)は地文に撚糸文が施されるものが多い。

3. 磨消縄文のあるもの。(1)地文に縄文を施した後、沈線で区画し、その後で磨消するもの。(2)沈線で区画した後に縄文を施すものとがある。本遺跡で出土したものは前者のものが多い。後期前葉のものは、地文の縄文原体が太く、中葉のものは細い。第43図1のように、巾広く帯状に縄文を残し、その中に沈線で文様を施すもの。平行・三角形・菱形・孤形・台形に区画して帯状に磨消し、その部分が少ないもの。第25図1のように大きく磨消するものなどがあり、文様にも種類が多い。第23図12のように、残った縄文の上に刺突文を施すものがあり、この土器のように三重に施すものもめずらしく、普通沈線に沿って1列に刺突されるものが多い。

4. 沈線だけのもの。第57図16のように口縁が内湾する鉢形土器に多い。口縁部には、円形刺突文を間に平行沈線を数本施し、その下に孤状に沈線を施すものが多い。第57図14のようなものもある。その他の土器で注目されるのは、第53図の土器がある。器壁が厚く、器表面は無文、内面下半部に図のような太い沈線で文様が施されているものがあり、遺構外からも数個ある。

5. 土製品。四脚・三脚土器（第29図4）底部は平に作った後に十字（U字状）に切り取り、四脚の底部にしたもので、この他に第60図43など、同38・40のように三脚のものもある。43を除いた他は小形の土器である。器台（第　図18）1点出土。四脚の付いた器台である。

土偶（第61図・62図12）。14点出土した。中には同一個体のものもある可能性がある。頭部が前に突き出た独特の形をなす。第62図52の頸・55の左肩の部分にアスファルトが付着している。

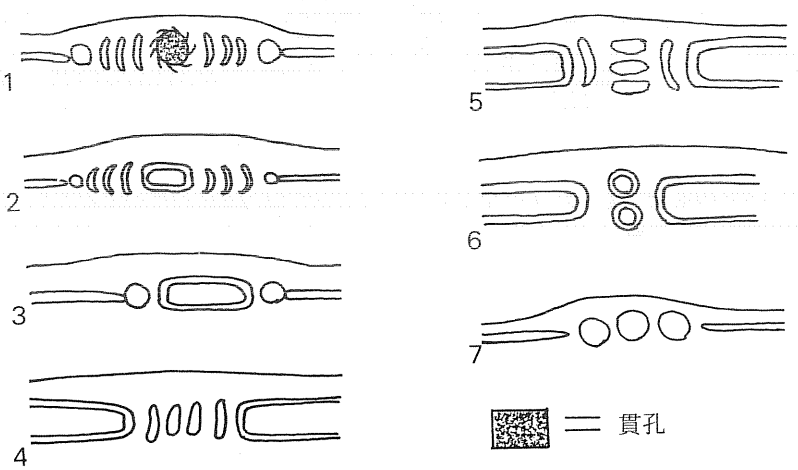
円盤状土製品（第63図）。円盤状土製品は130余点出土している。すべて土器片を利用したものである。他に石製品も4点ある。

船形土器（第48図17）。SK28土坑から発見された土器である。船形をなし、両側に沈線で文様を施している。

この他に環状土製品、耳栓（第54図12）などがある。

石器（図版18～20）　遺構内及び遺構の包含層から多くの石器が出土した。その主なものは、石鏃・石錐・石匙・石篦・磨製石斧・凹石・石錘・石棒・石皿・石刀・などがある。

石鏃は12点あり、柄のあるもの、基部に抉り込みのあるものである。基部が少しふくらみのあるものなどがある。石錐は26点あり、刃部の長い物5点、剝片の一部に加工を施して錐としたものとがある。石匙は18点あり、縦長のもの・横長のものと二種あり、前者が多い。磨製石斧は36点あり、小型のものは、長さ5㎝・巾2㎝から大きいもので欠損して14㎝・巾7.5㎝のものまである。欠損しているものが多い。全て蛤歯である。凹石は18点で一つ凹むものと二つ凹むものとがある。石錘は3点ある。いずれも楕円形で扁平な礫を用い、長径の両端を磨いて溝をつくり石錘としたものである。石棒は2点ある。2点とも欠損していて現存する長さは24



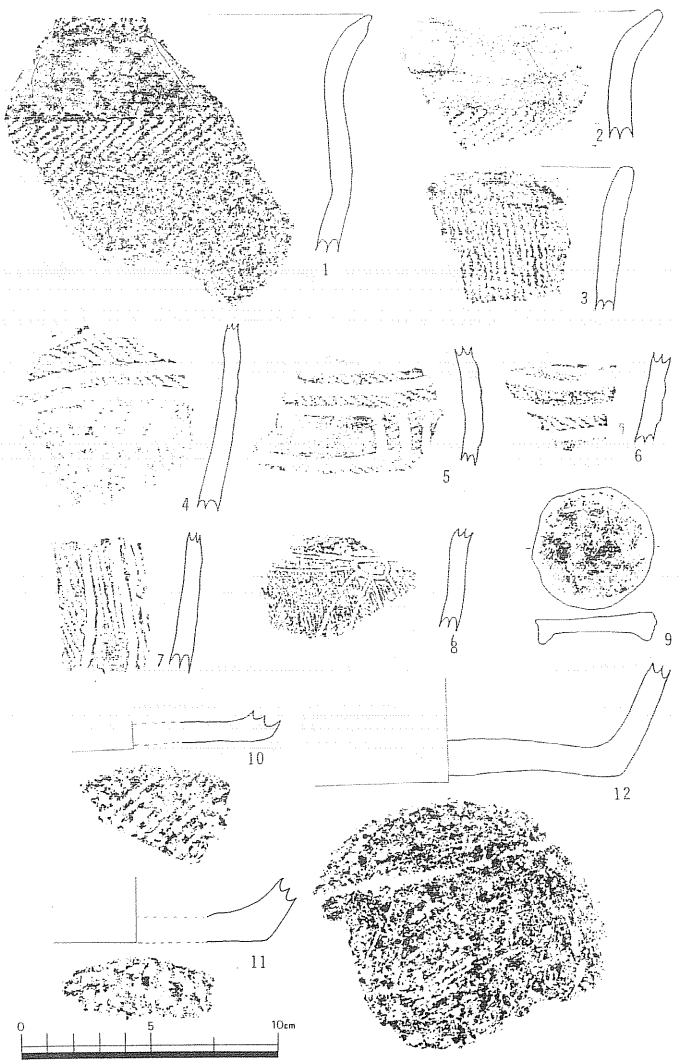
土器口縁部文様帯模式図

cm（径4.5cm）14cm（径2.5cm）にある。大きな方の石棒の先端部が少し凹んでいる。石皿は1点あり、欠損部分が多く、全体の形は不明。石刀は1点あり、欠損しており現存する長さは14.5cmで先端部が残っている。巾3.2cm・長さ1.5cmである。

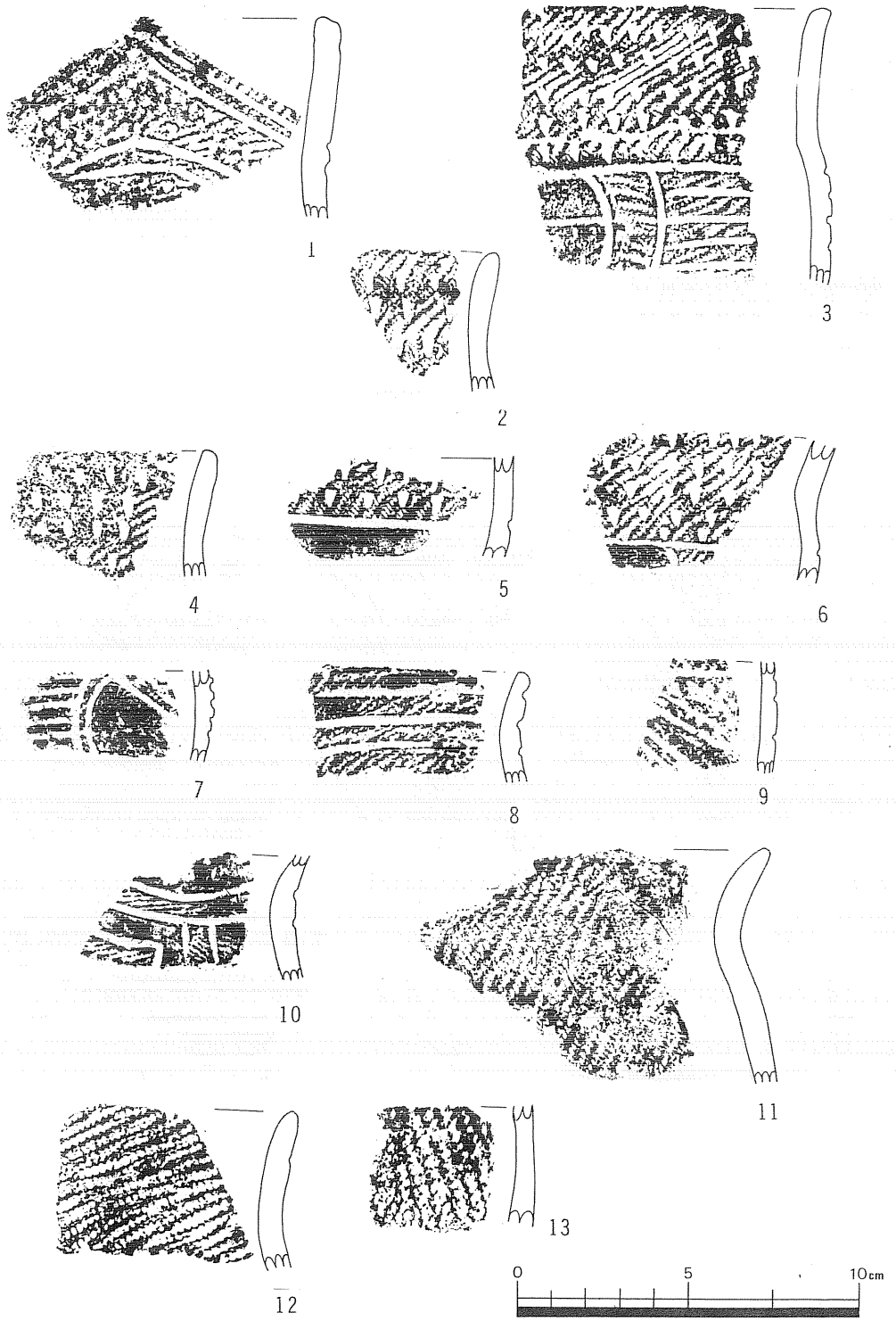
この他に多くの剥片石器が多く発見されている。

注　網代痕等を持つ土器底部についてはP89に記した。

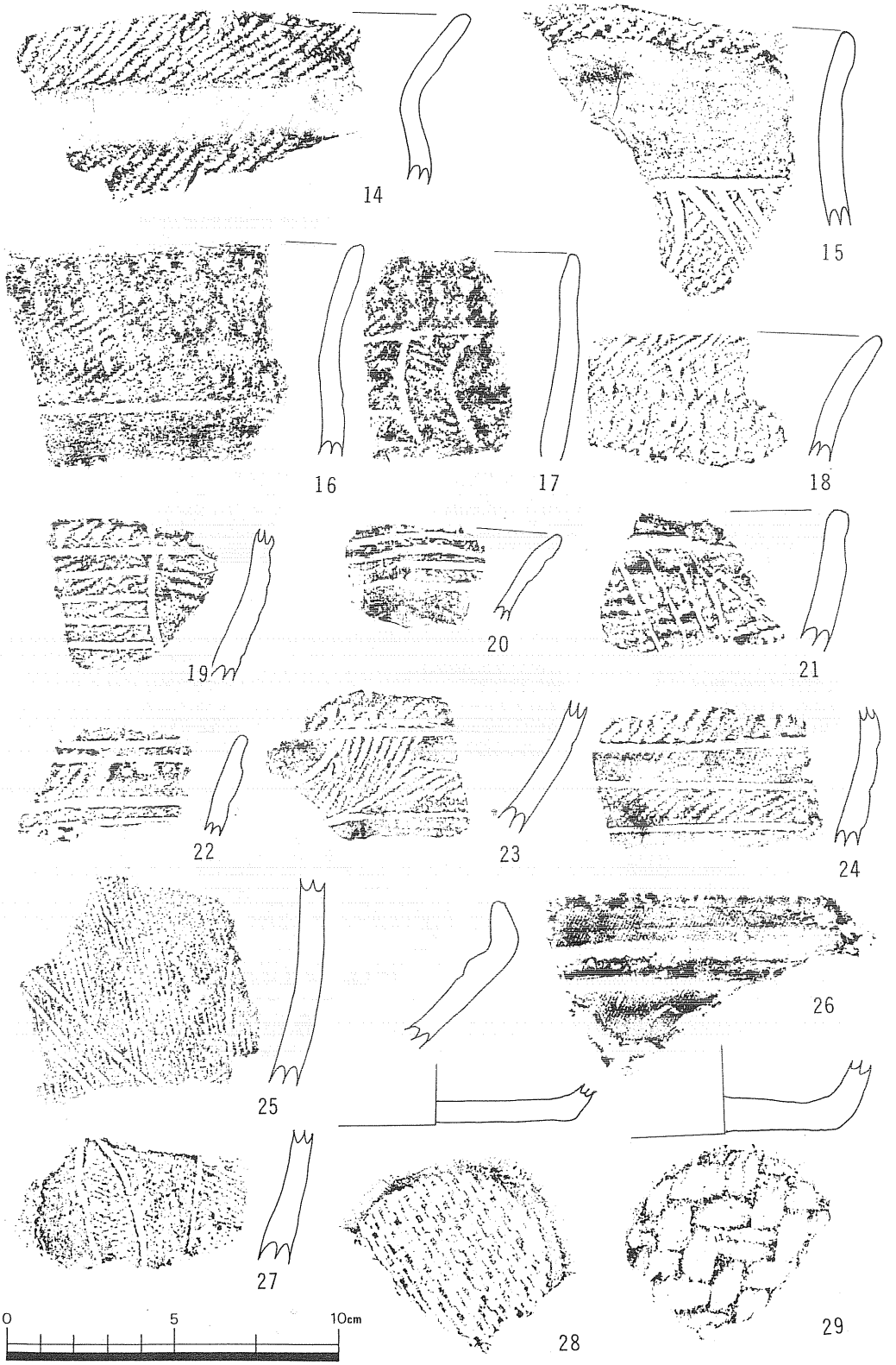
土器・石器の拓影・実測図を49図ほど用意し作成したが、事情により割愛せざるを得なかったため、このような紹介になった。遺構外からは多くの土器が出土した。それらは別の機会を利用して紹介したい。



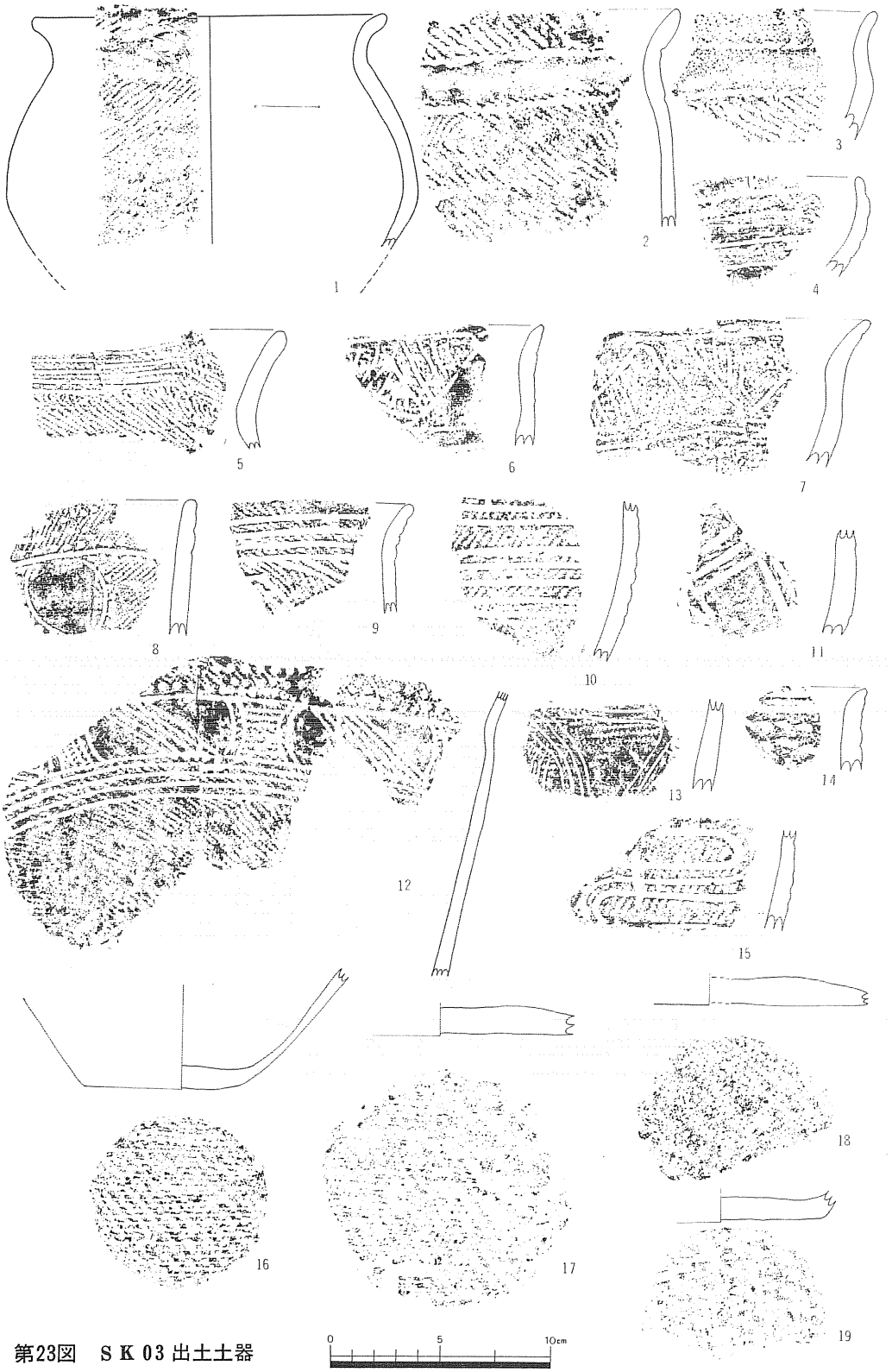
第20図　ＳＫ01出土土器



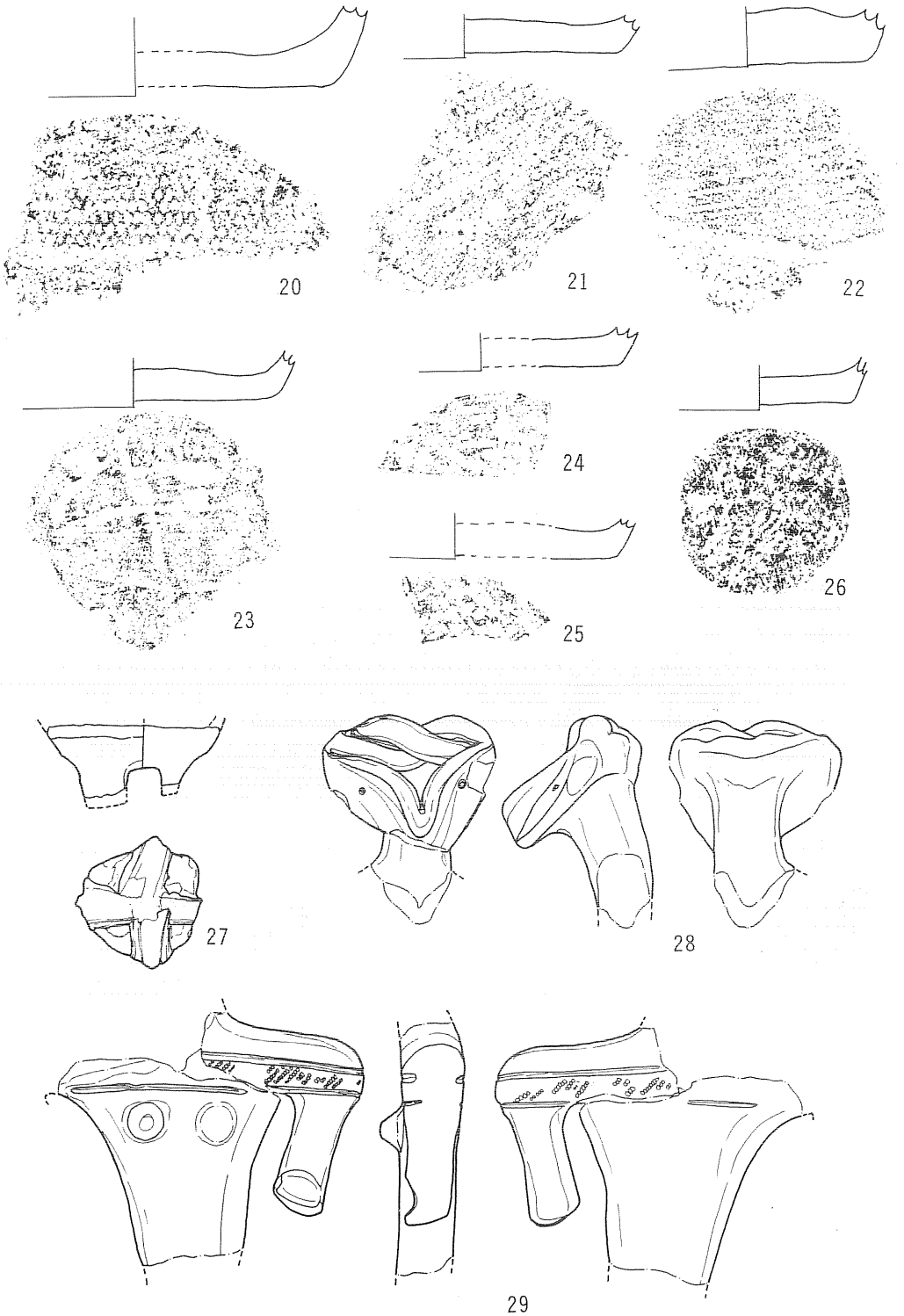
第21図　ＳＫ02出土土器



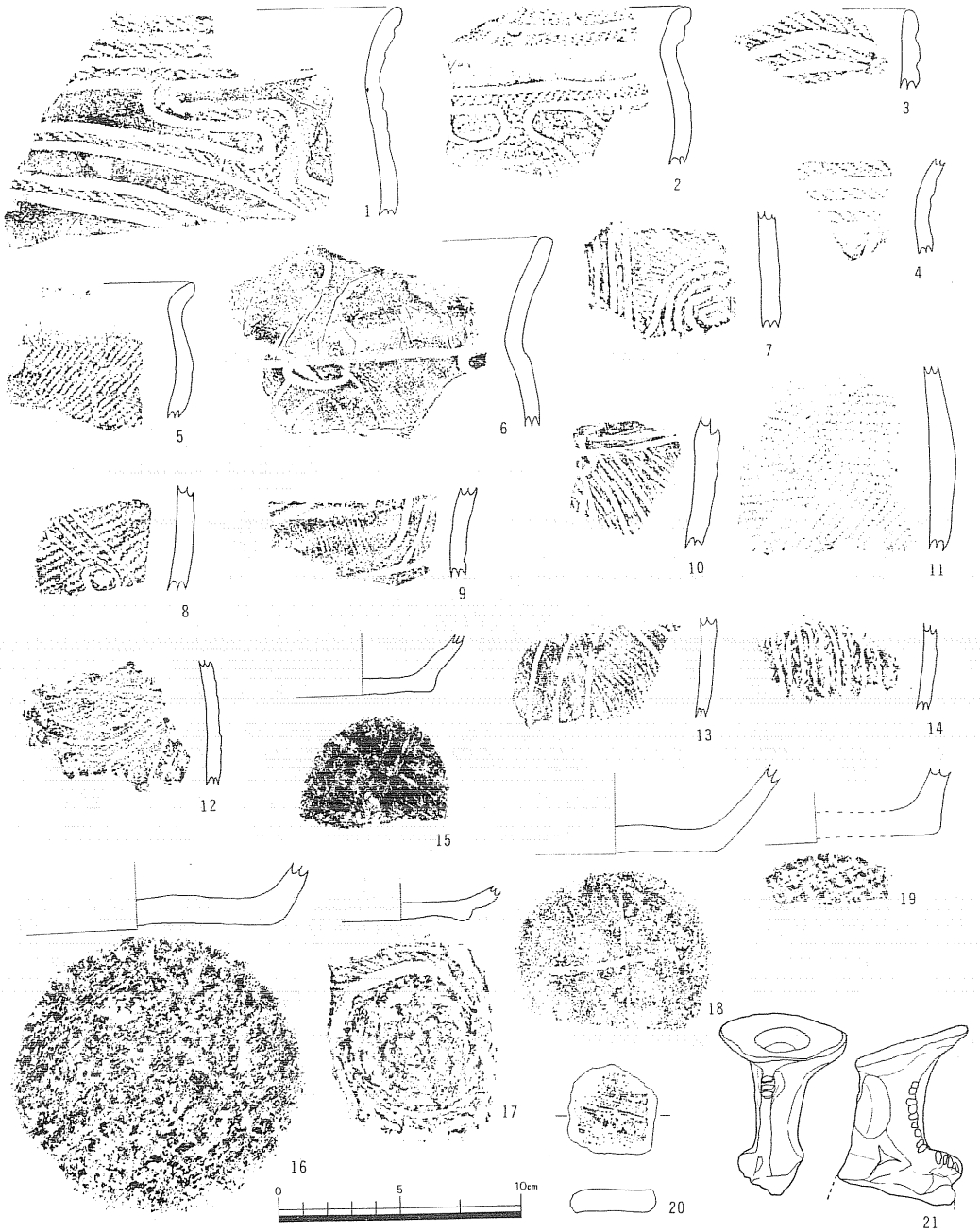
第22図　ＳＫ02出土土器



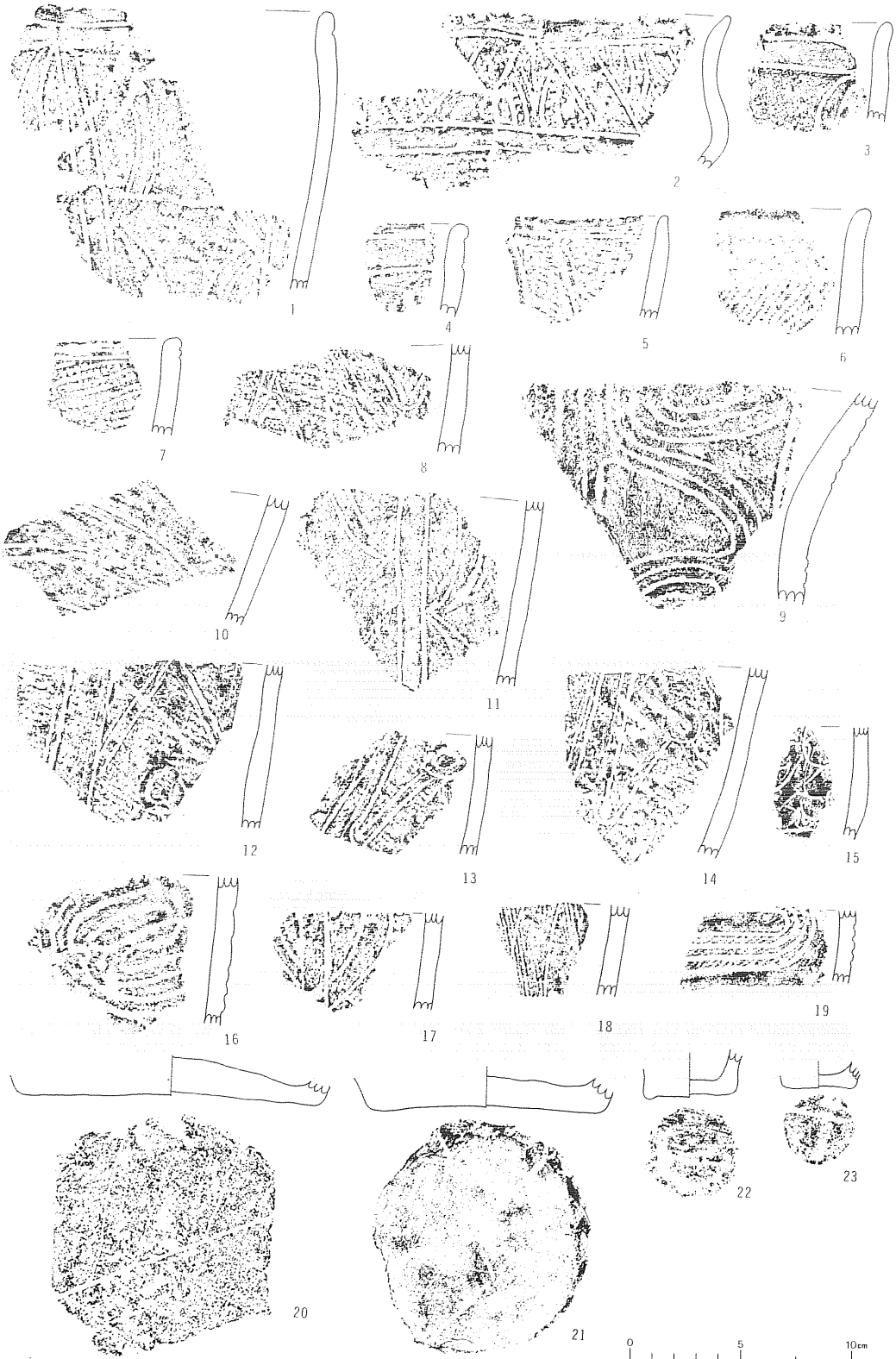
第23図　ＳＫ03出土土器



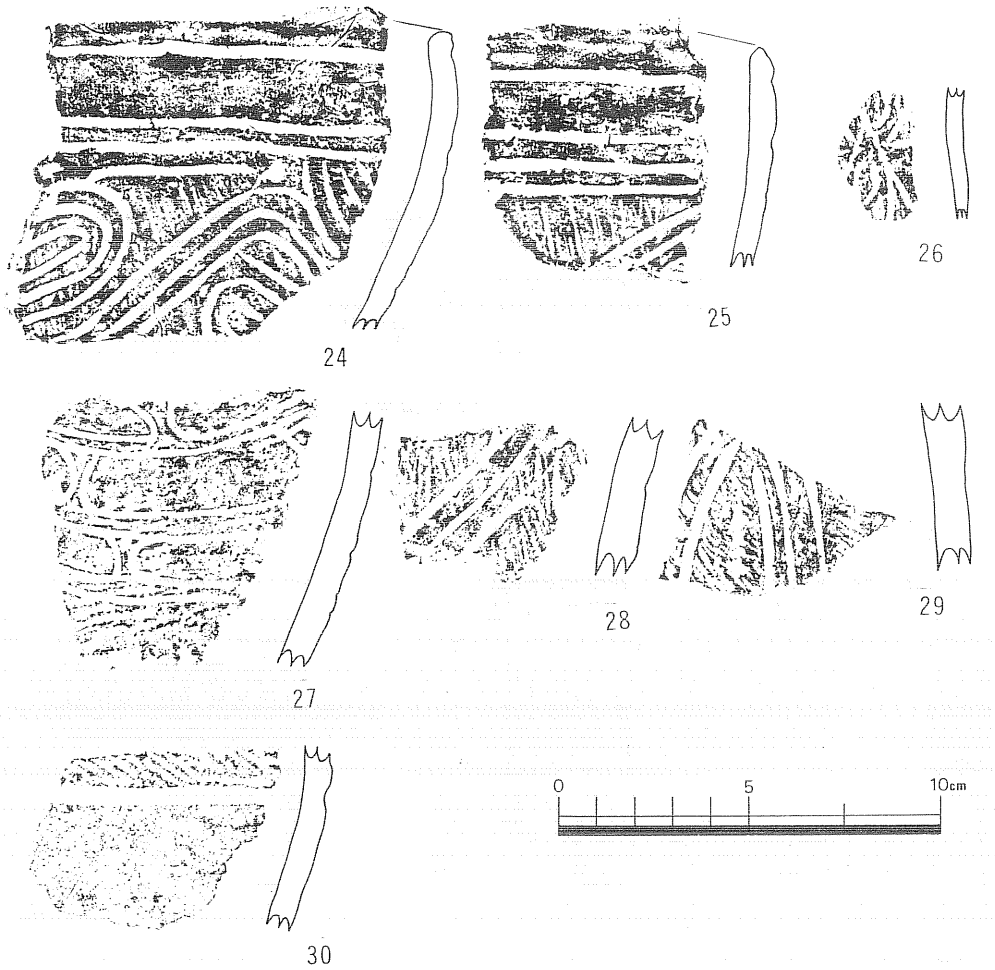
第24図　ＳＫ03出土土器



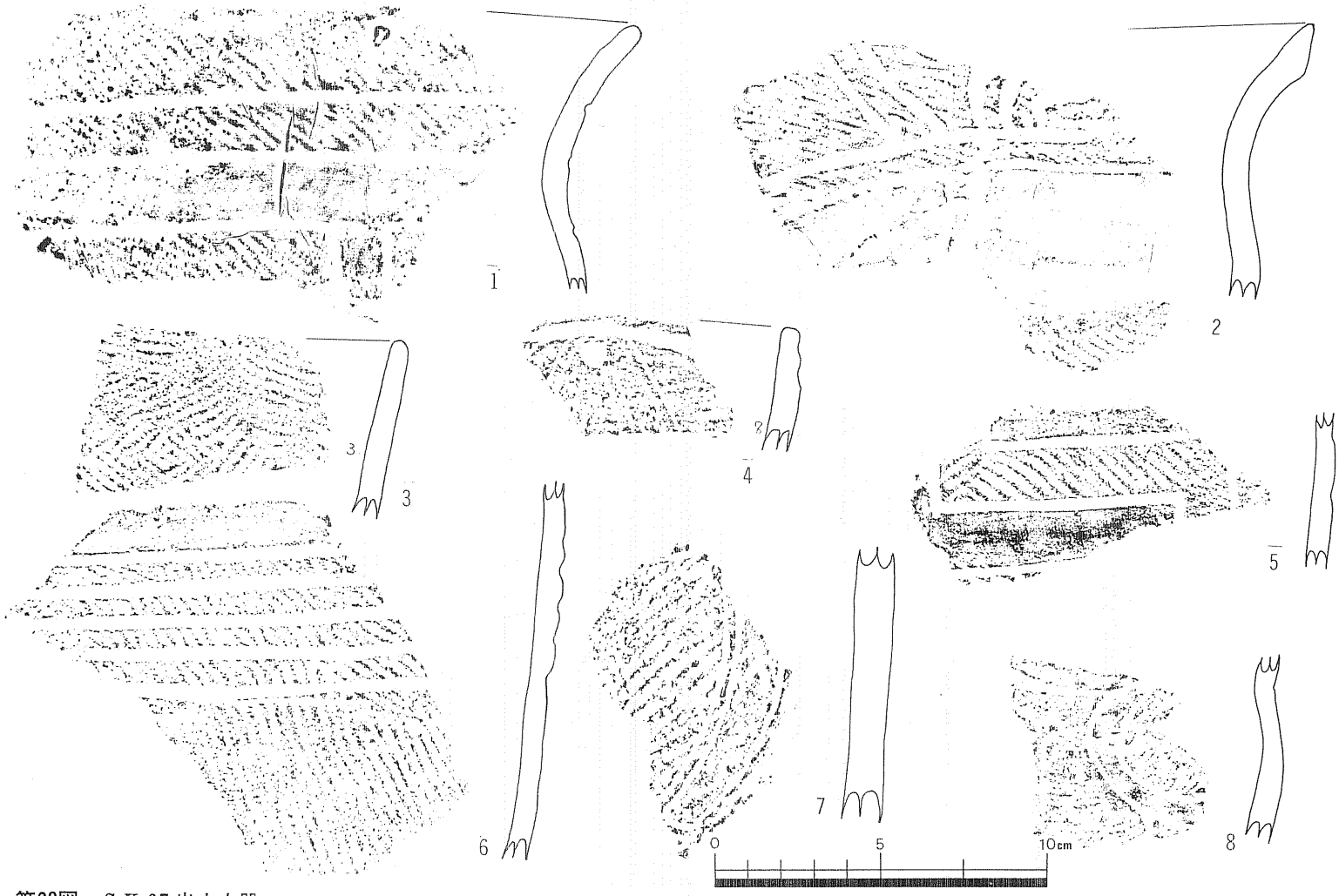
第25図　ＳＫ05出土土器



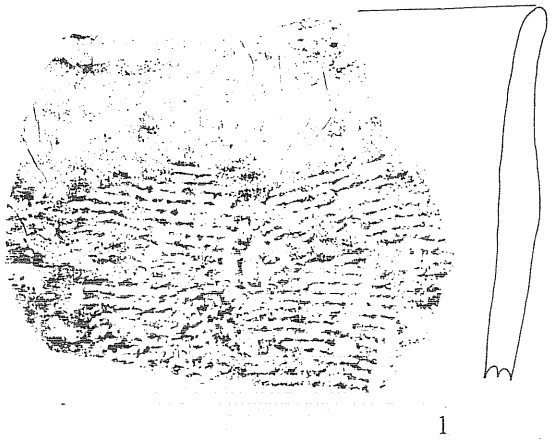
第26図　ＳＫ06出土土器

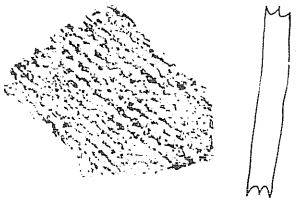


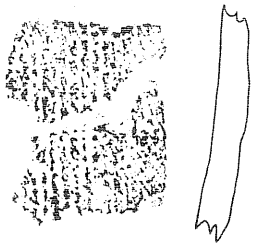
第27図　ＳＫ06出土土器

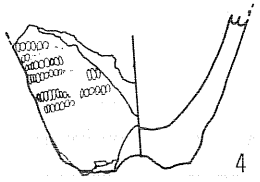


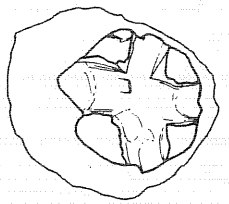
第28図　ＳＫ07出土土器

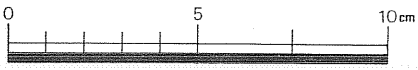




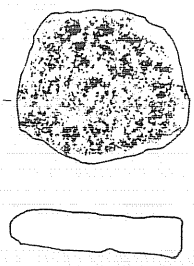


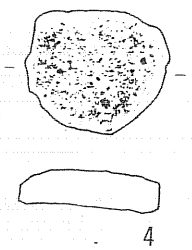


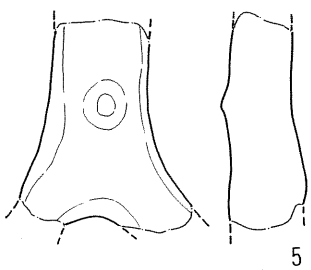


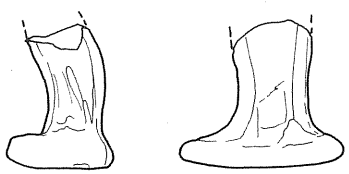


第29図　ＳＫ０８出土土器

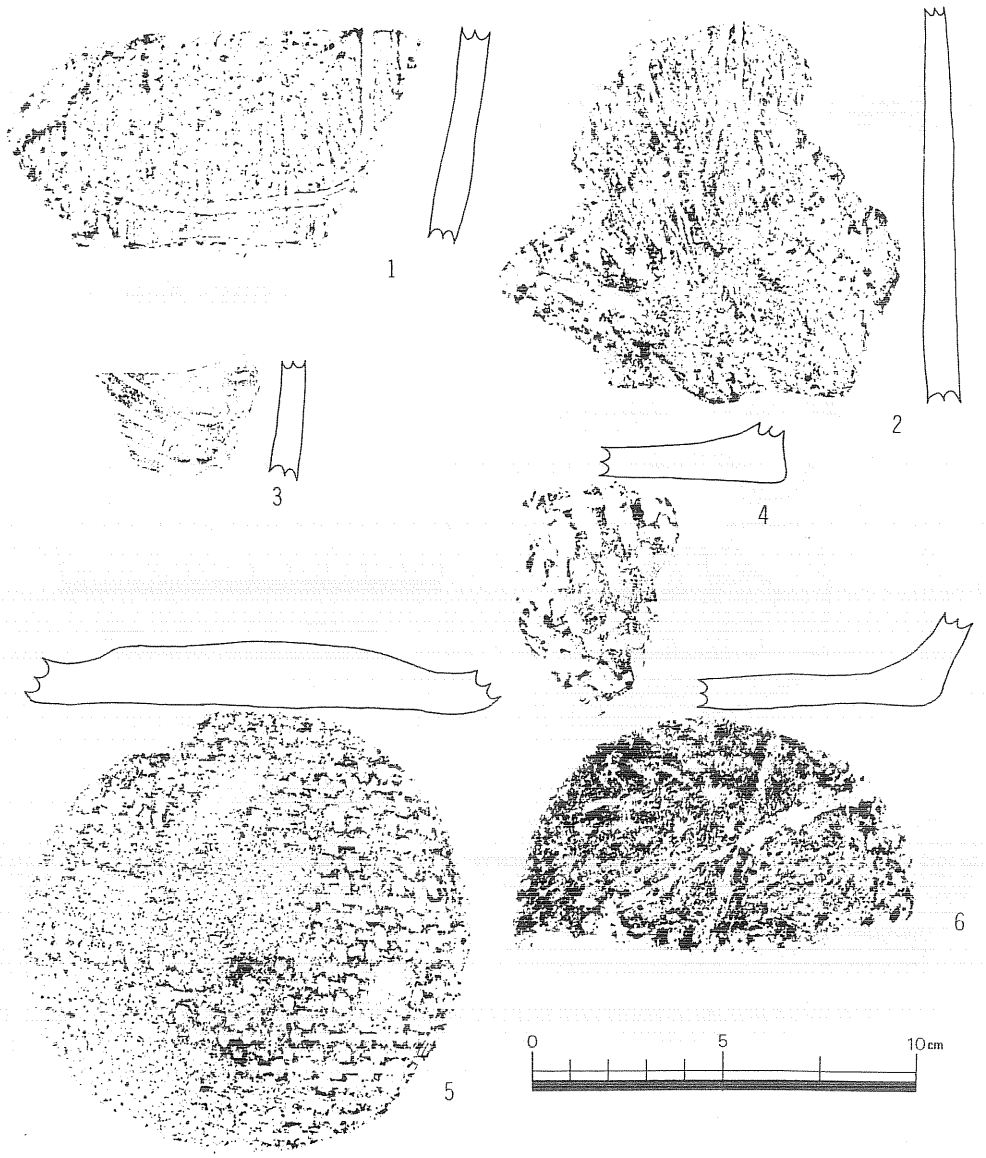




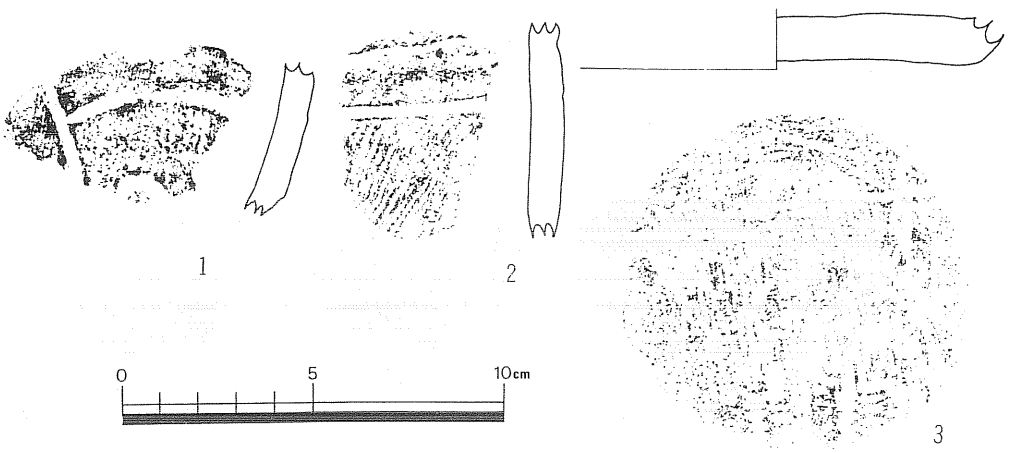




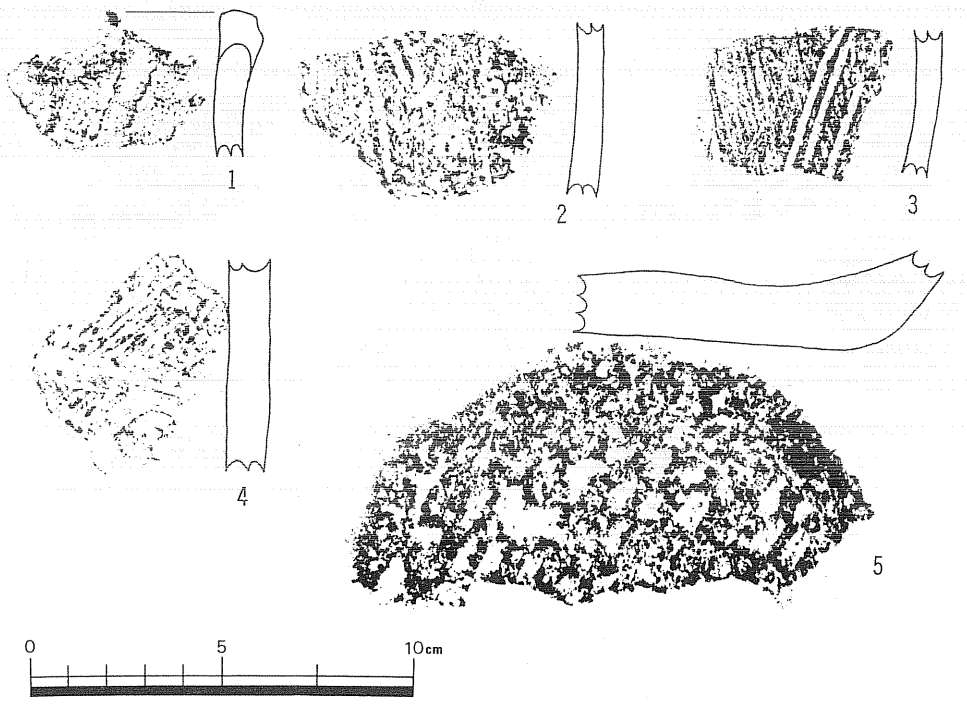
第30図　ＳＫ０９出土土器



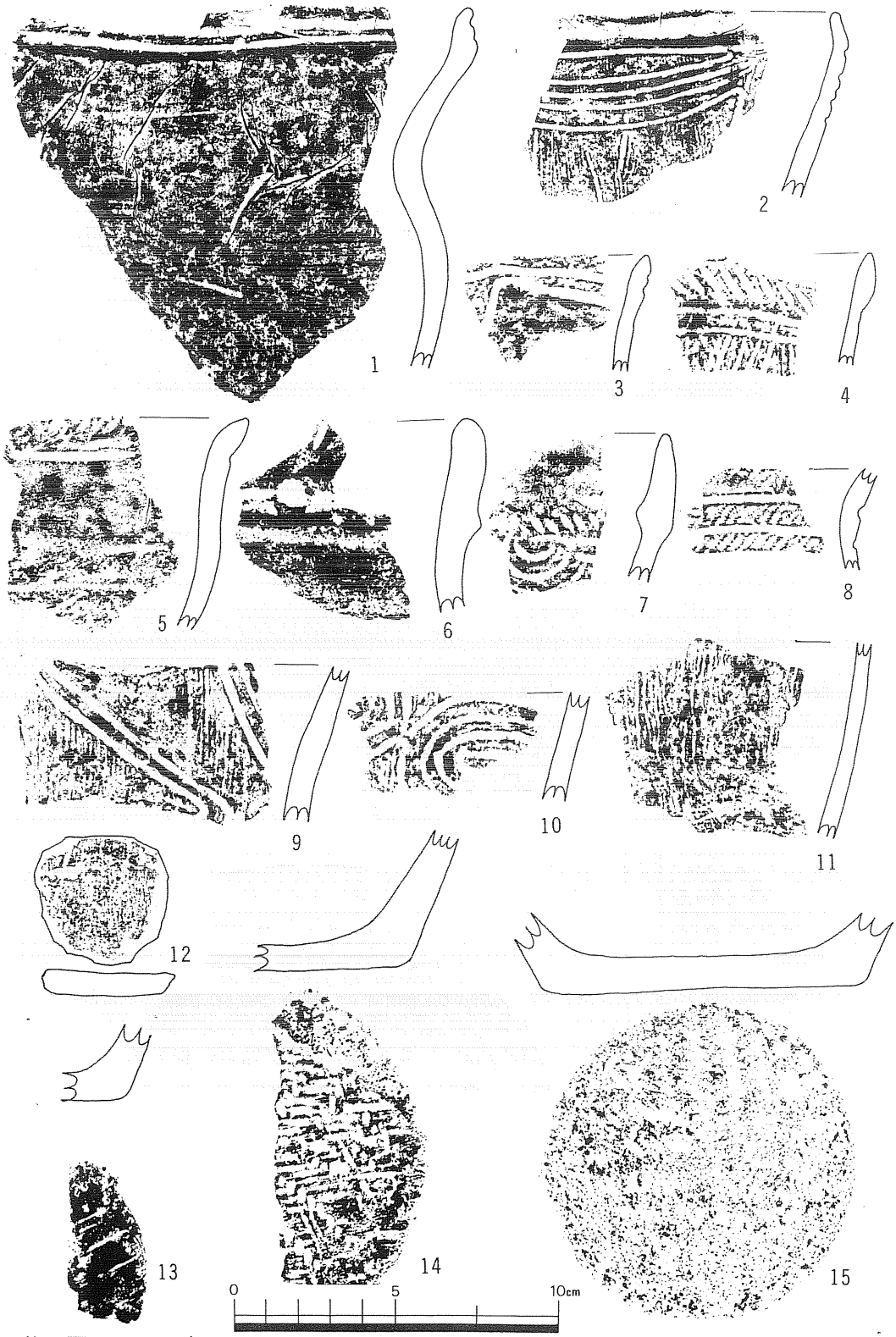
第31図　ＳＫ11出土土器



第32図　ＳＫ１２出土土器

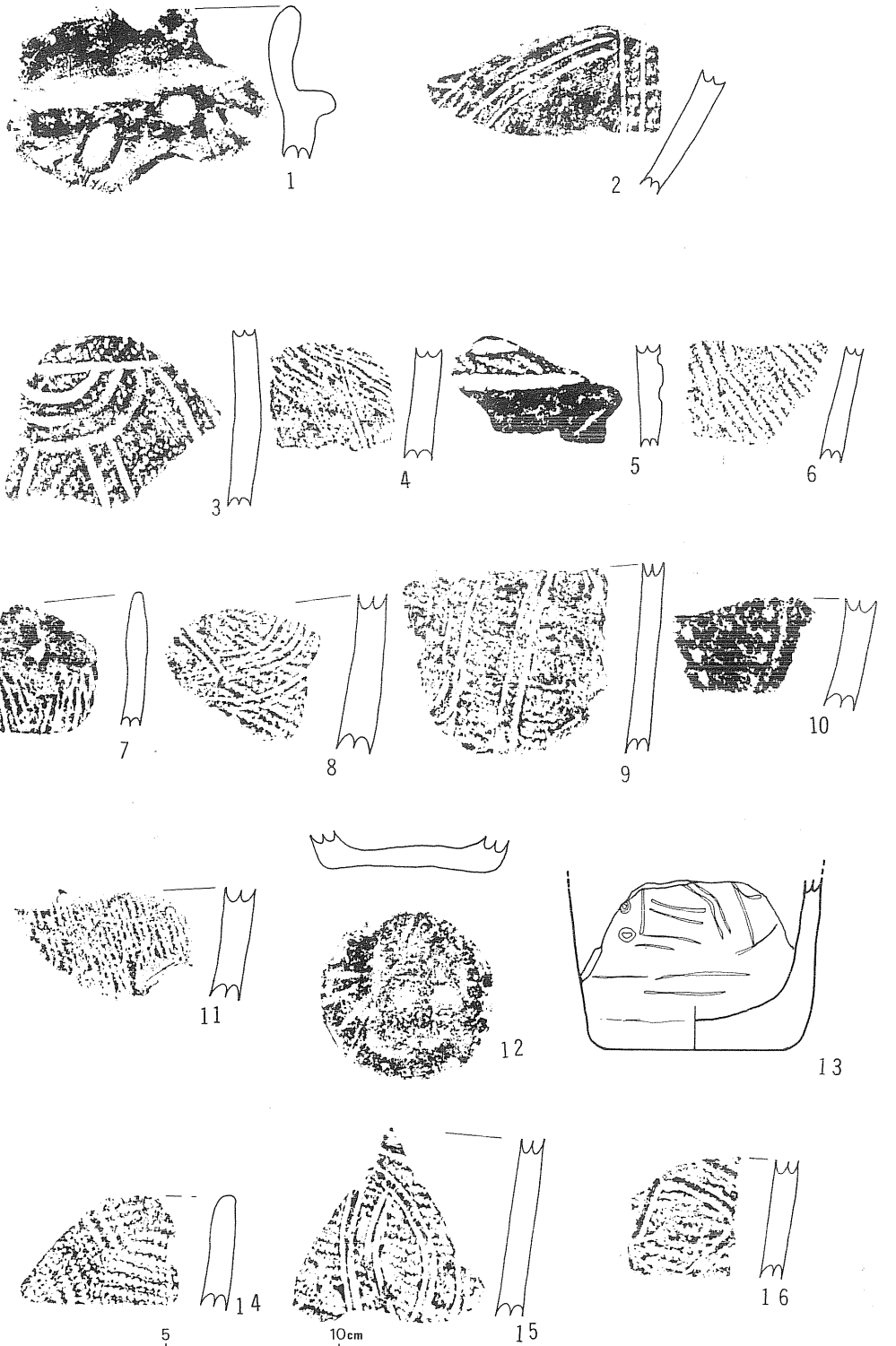


第33図　ＳＫ１３出土土器

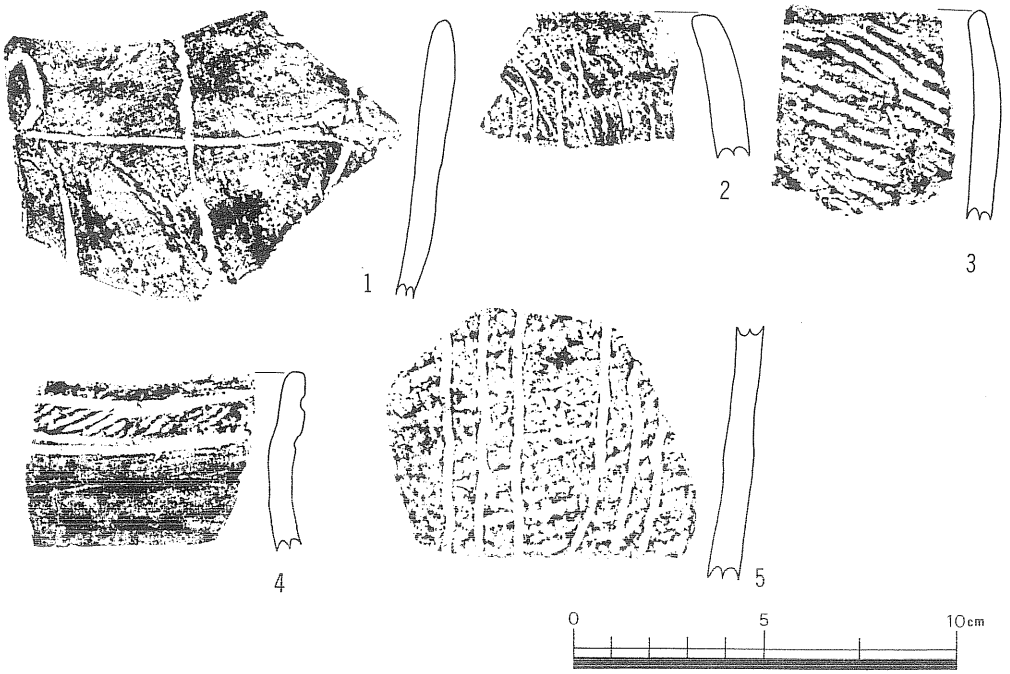


第34図　ＳＫ１４出土土器

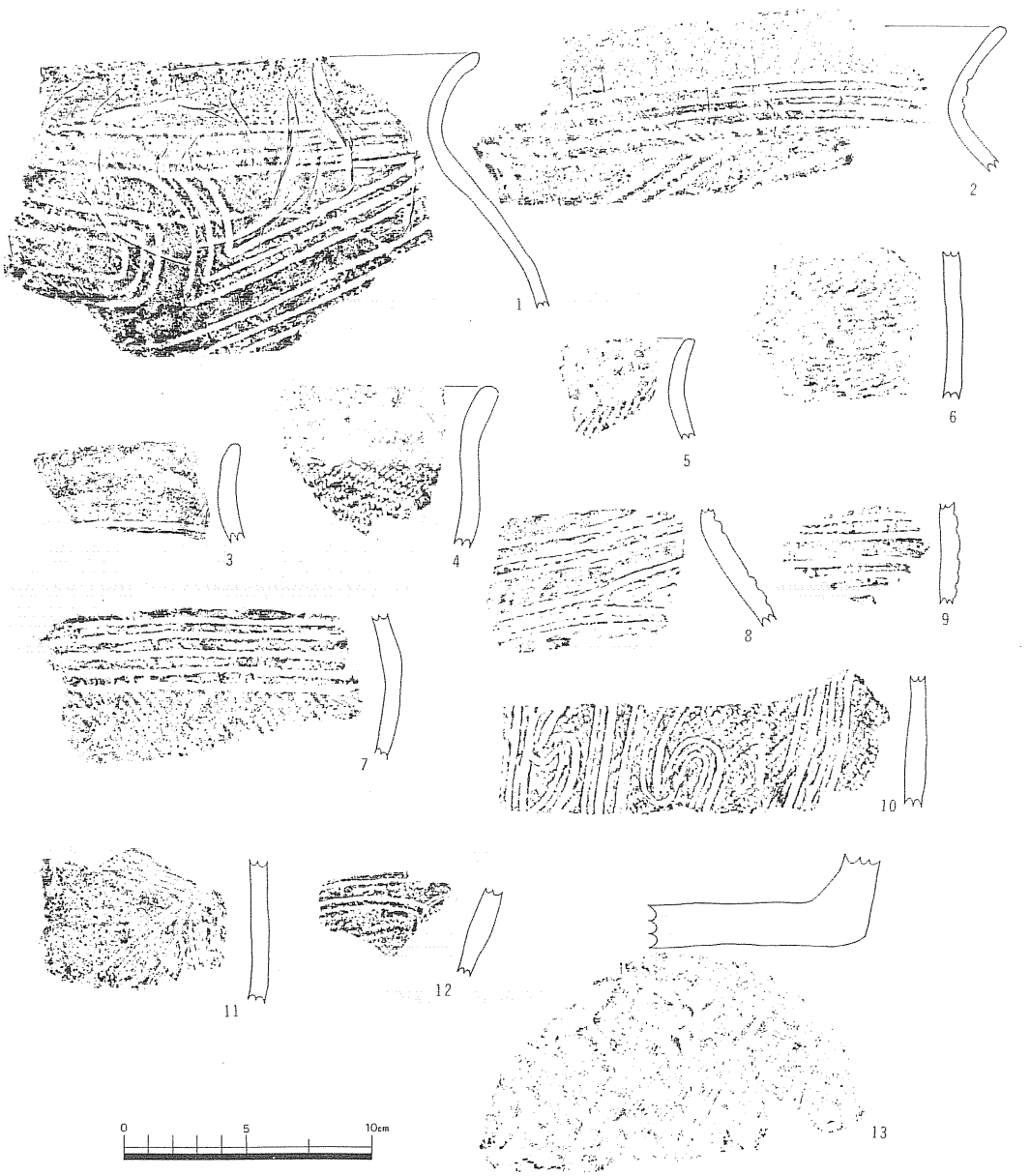
第35図　ＳＫ15出土土器



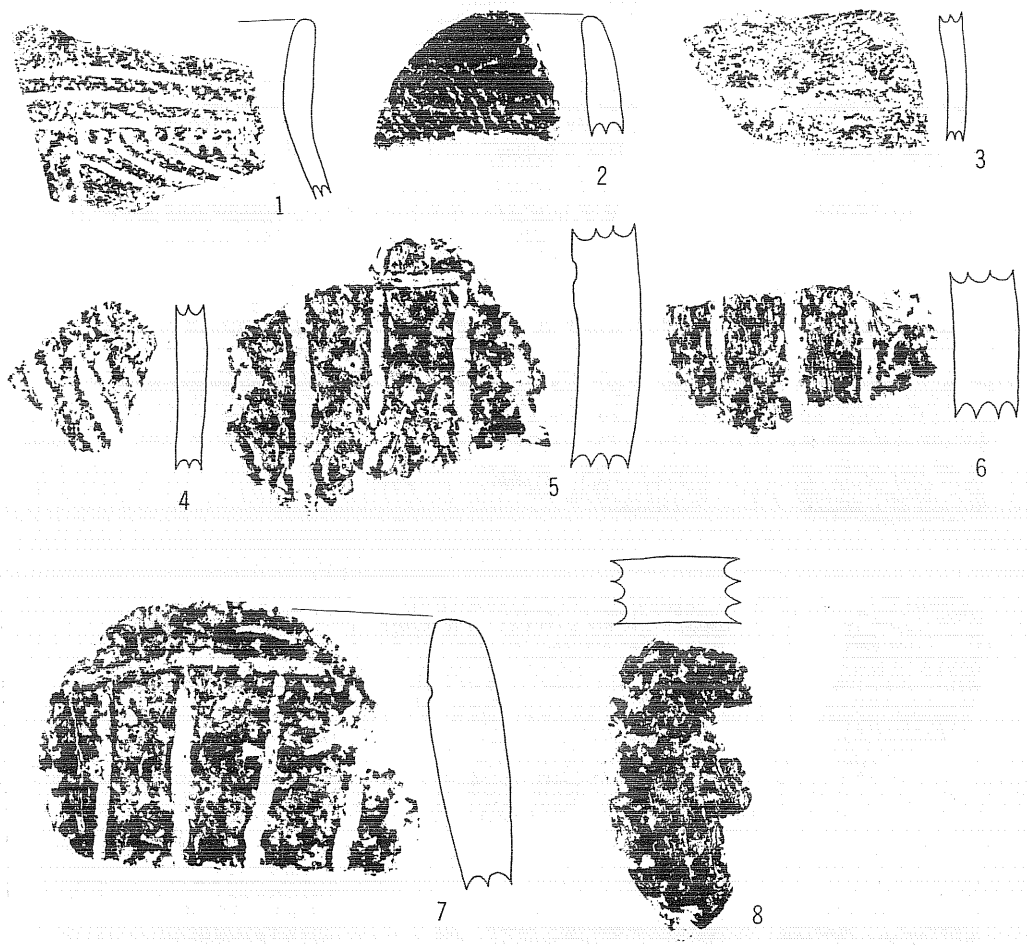
第36図　ＳＫ16・ＳＫ18・ＳＫ19・ＳＫ20出土土器



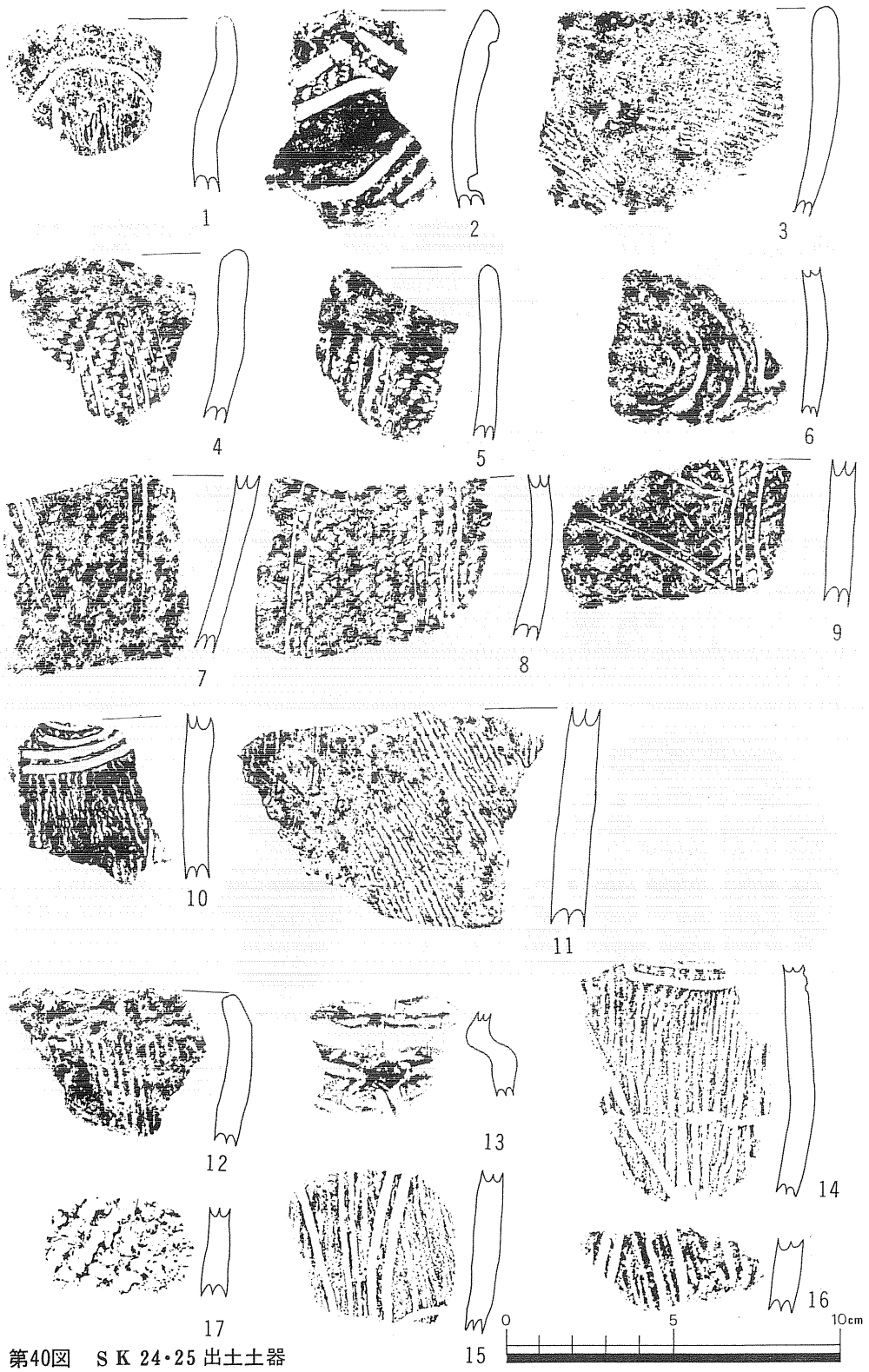
第37図　ＳＫ17出土土器



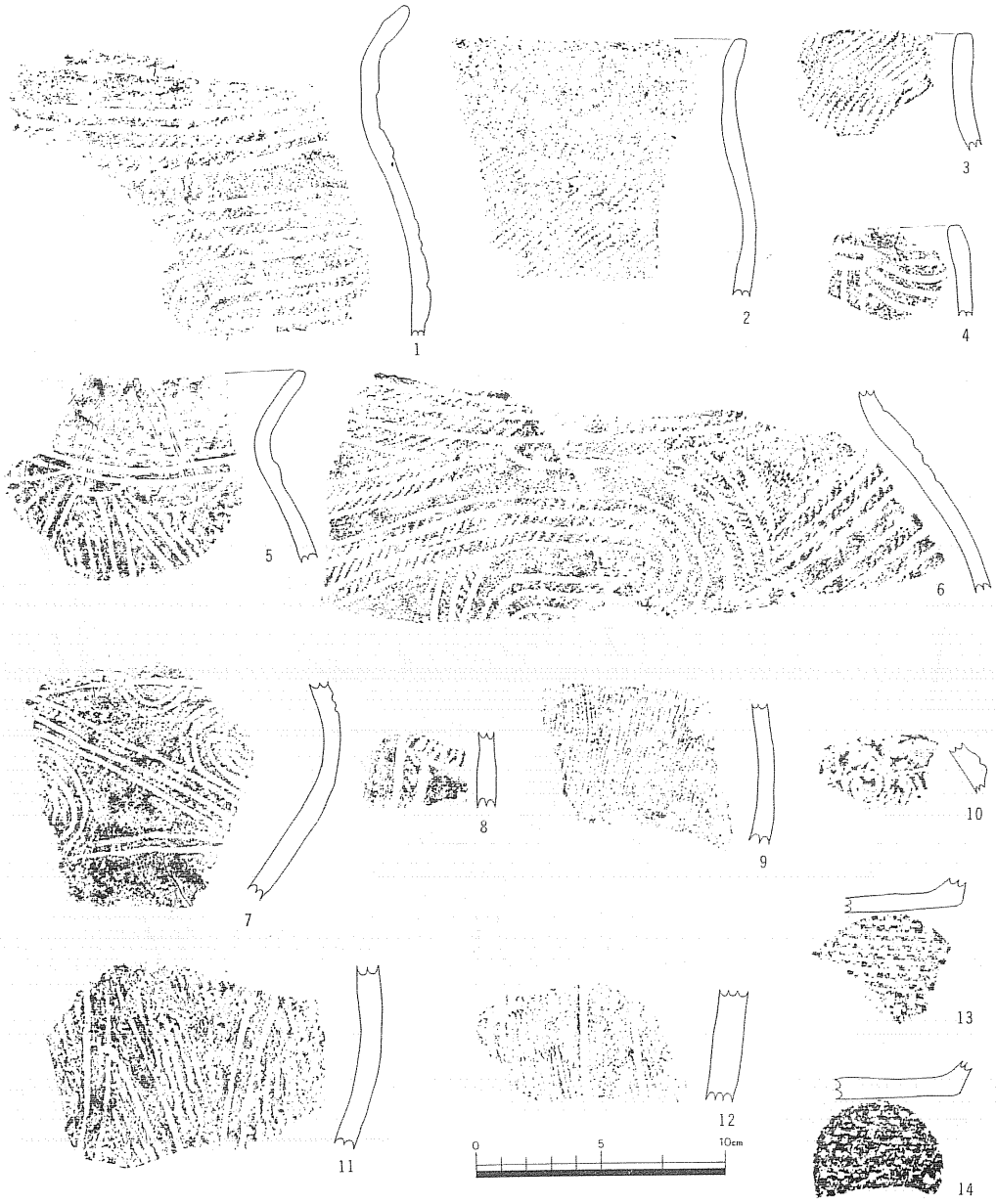
第38図　ＳＫ22出土土器



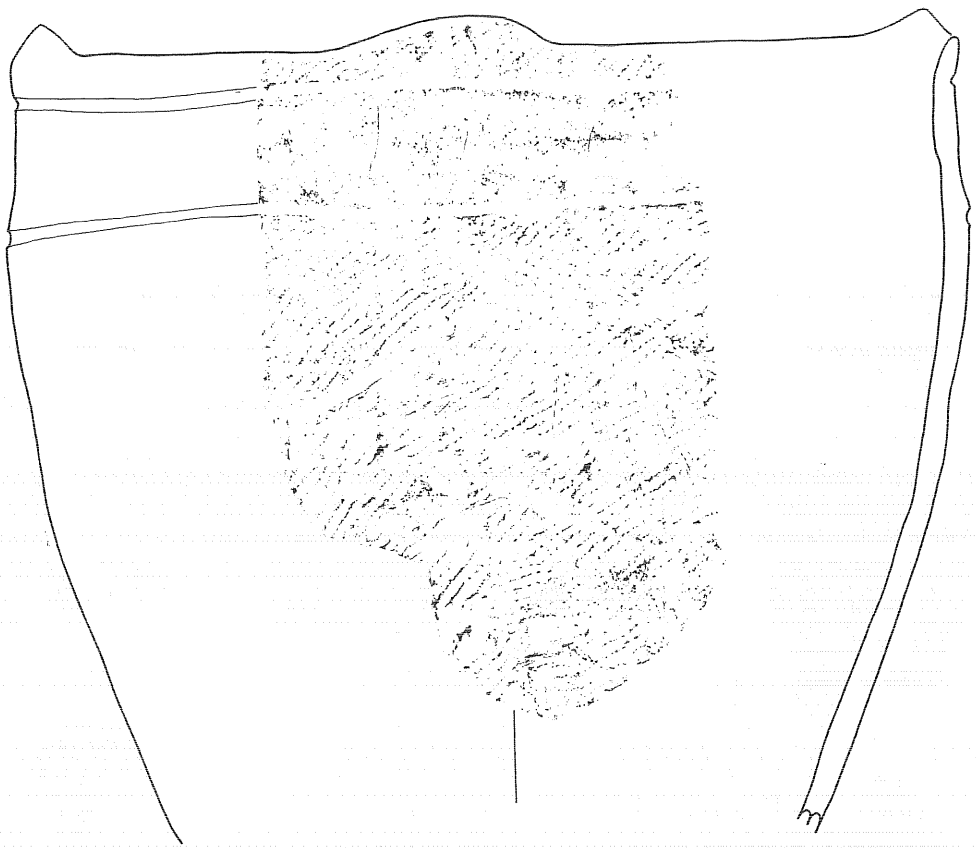
第39図　ＳＫ 23 出土土器



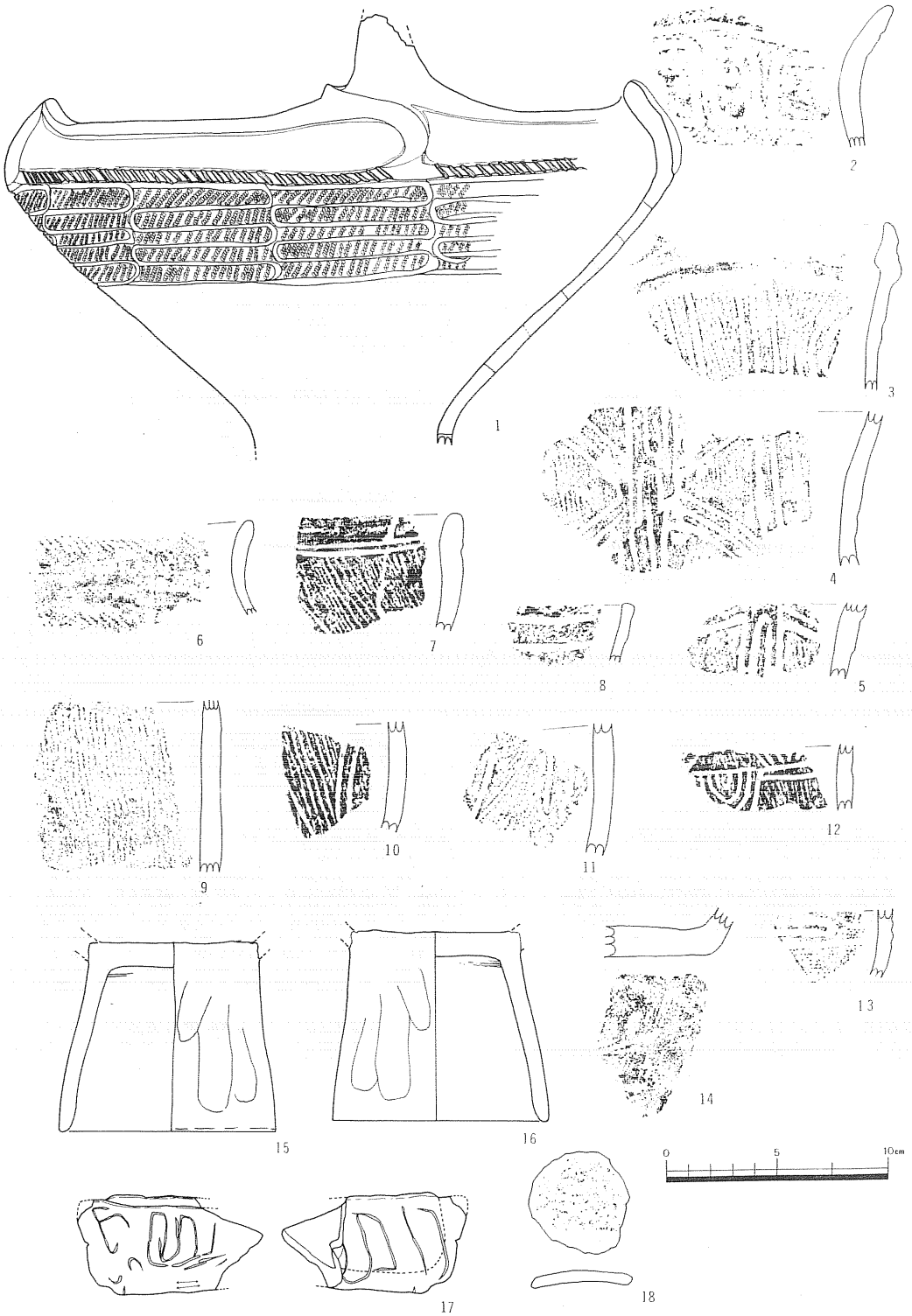
第40図　ＳＫ 24･25 出土土器



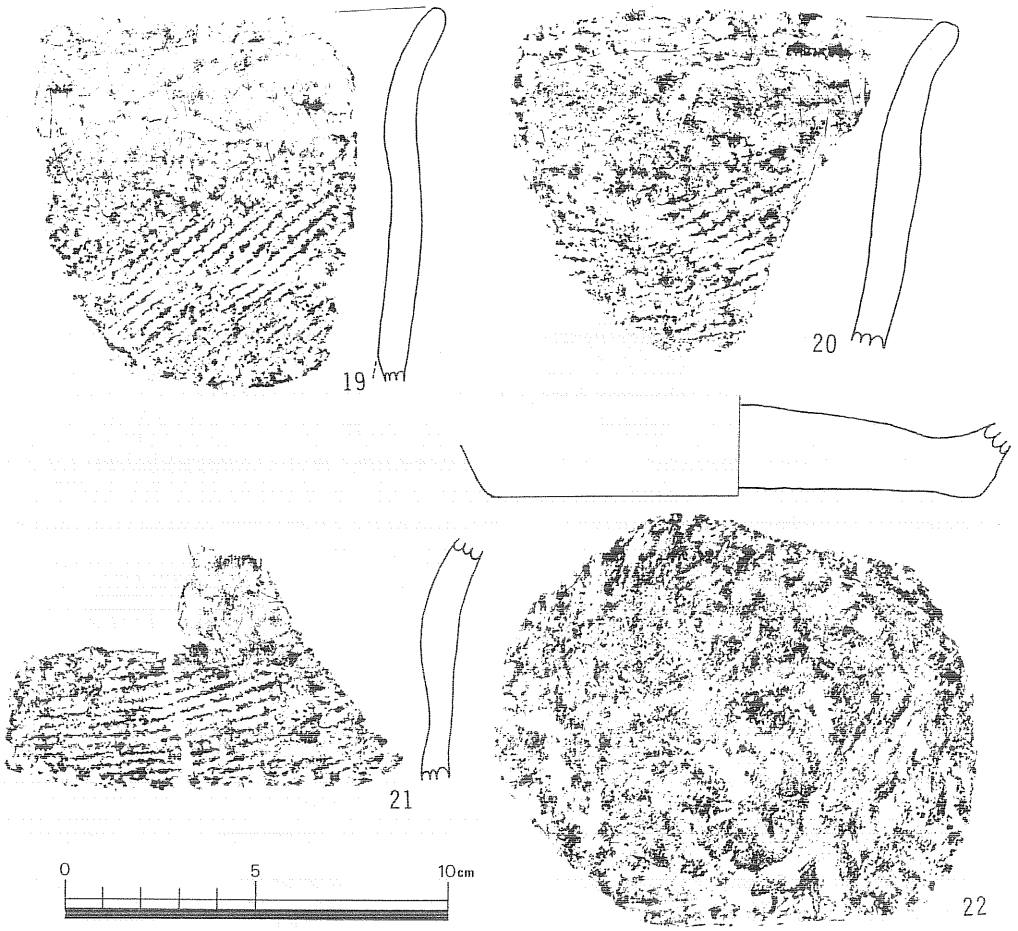
第41図　ＳＫ26出土土器



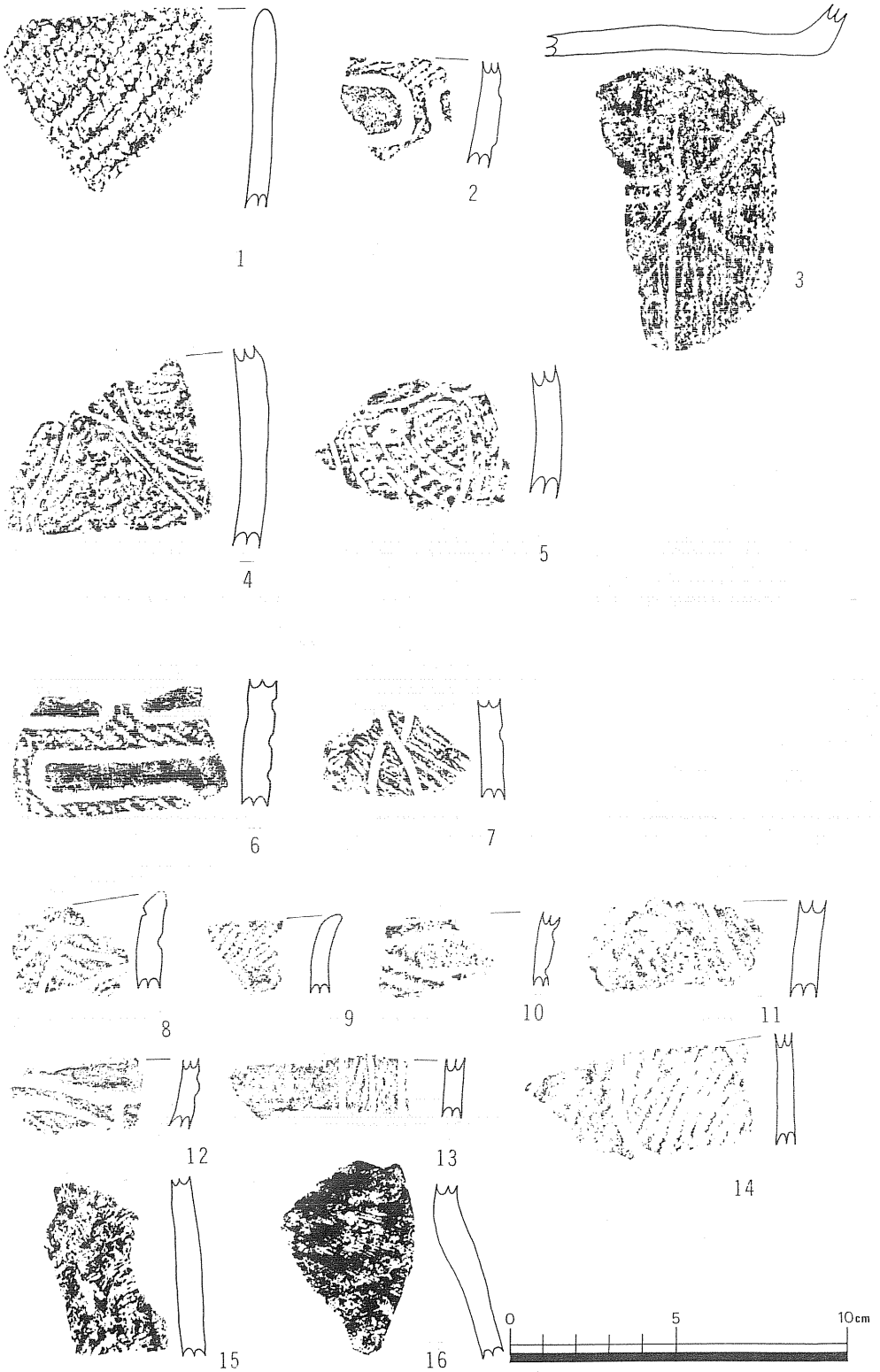
第42図　ＳＫ 27 出土土器



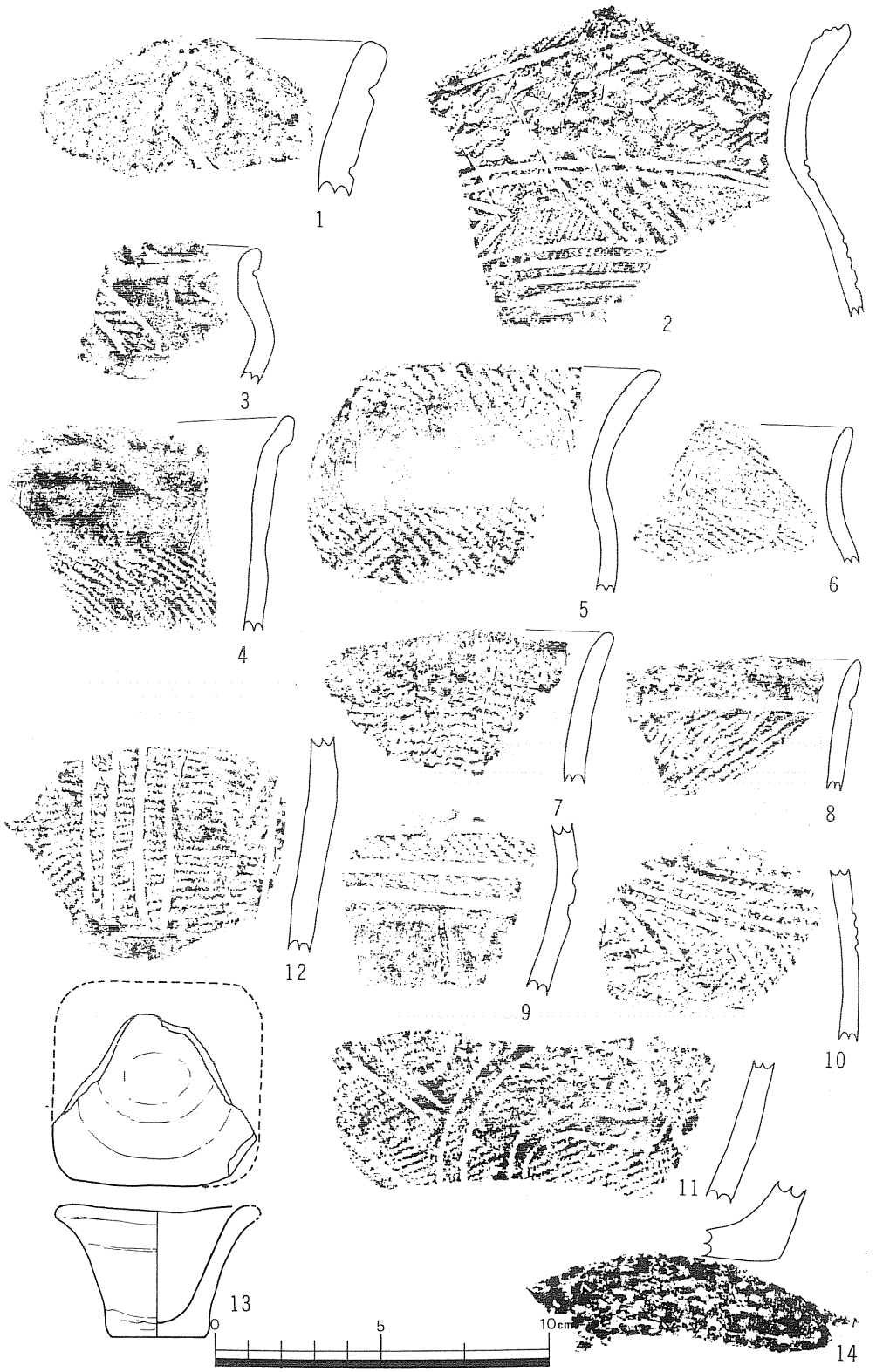
第43図　ＳＫ 28 出土土器



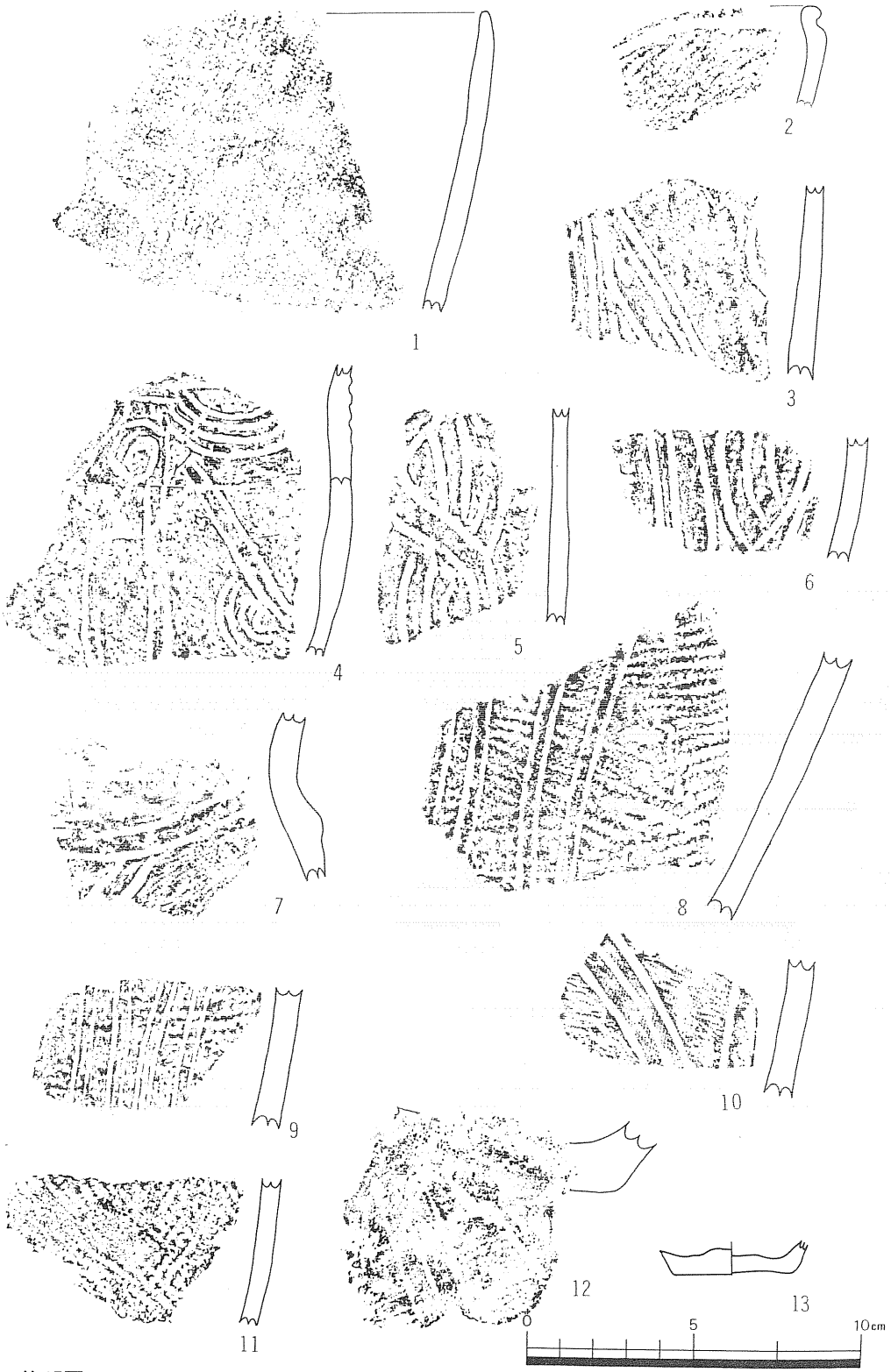
第44図　ＳＫ 28 出土土器



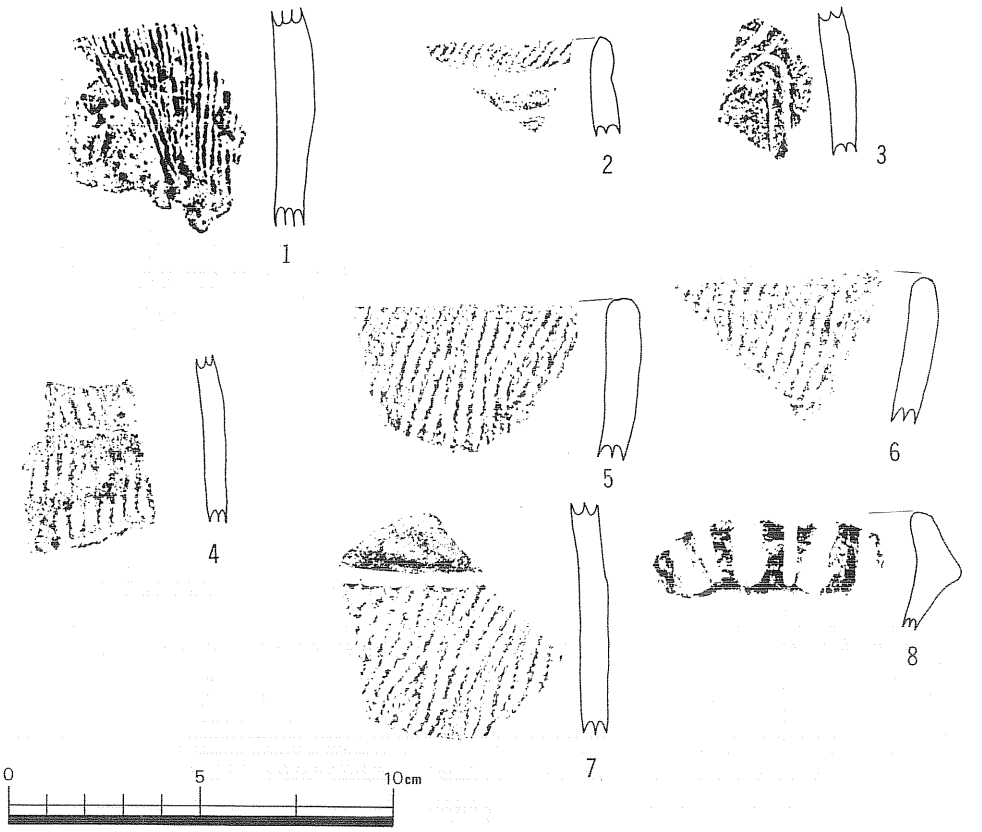
第45図　ＳＫ 29・30・32・33 出土土器



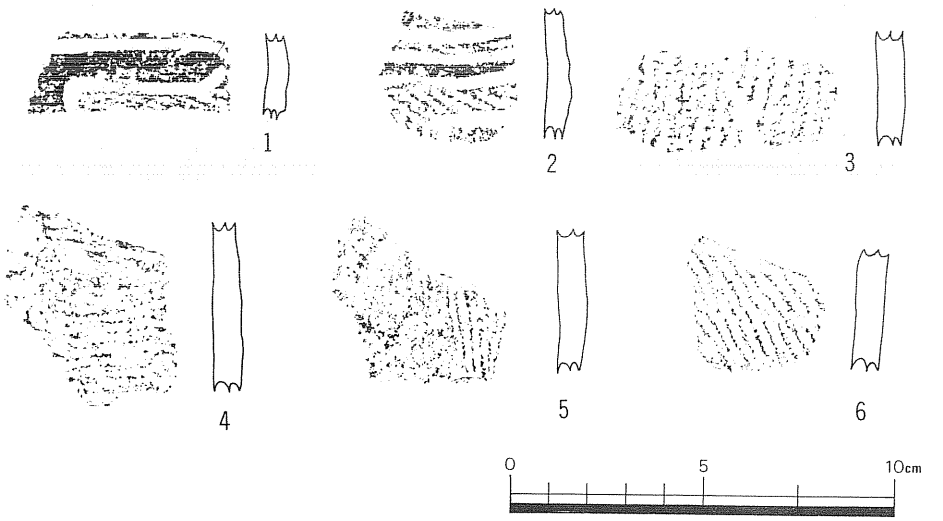
第46図　ＳＫ 31 出土土器



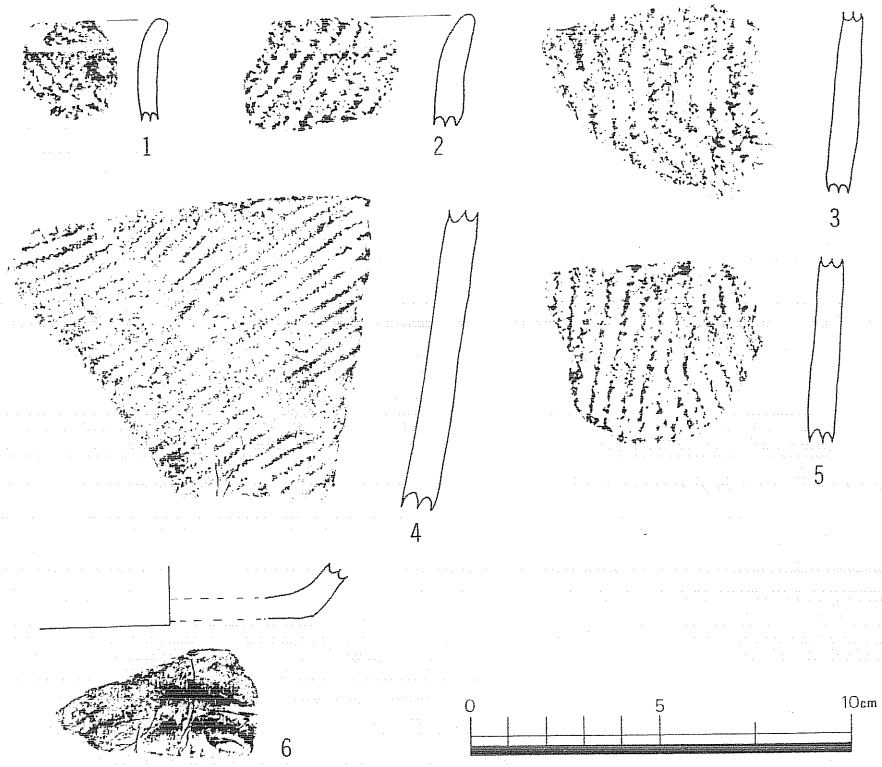
第47図　ＳＫ 35 出土土器



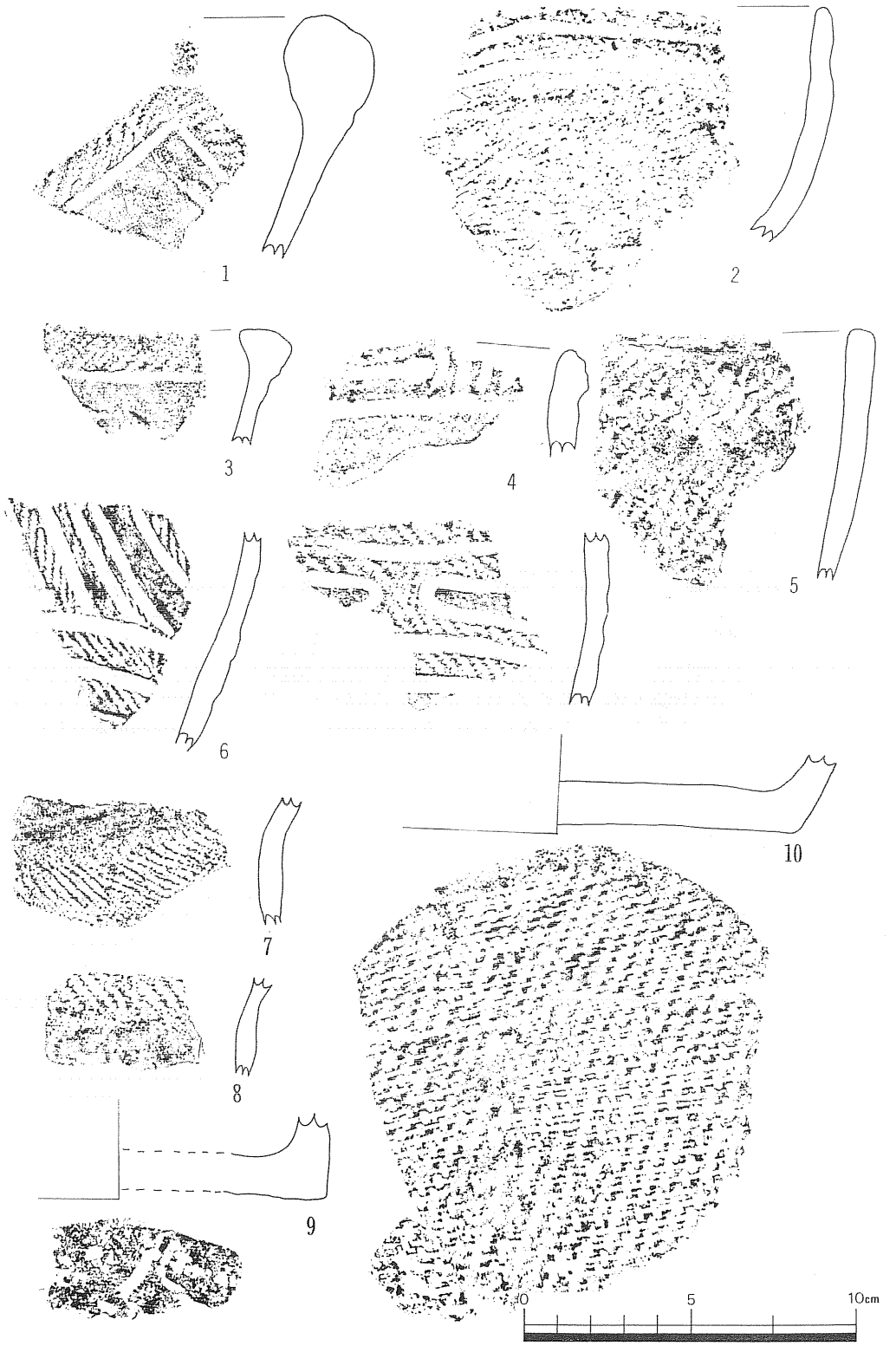
第48図　ＳＫ 36・37・39・40 出土土器



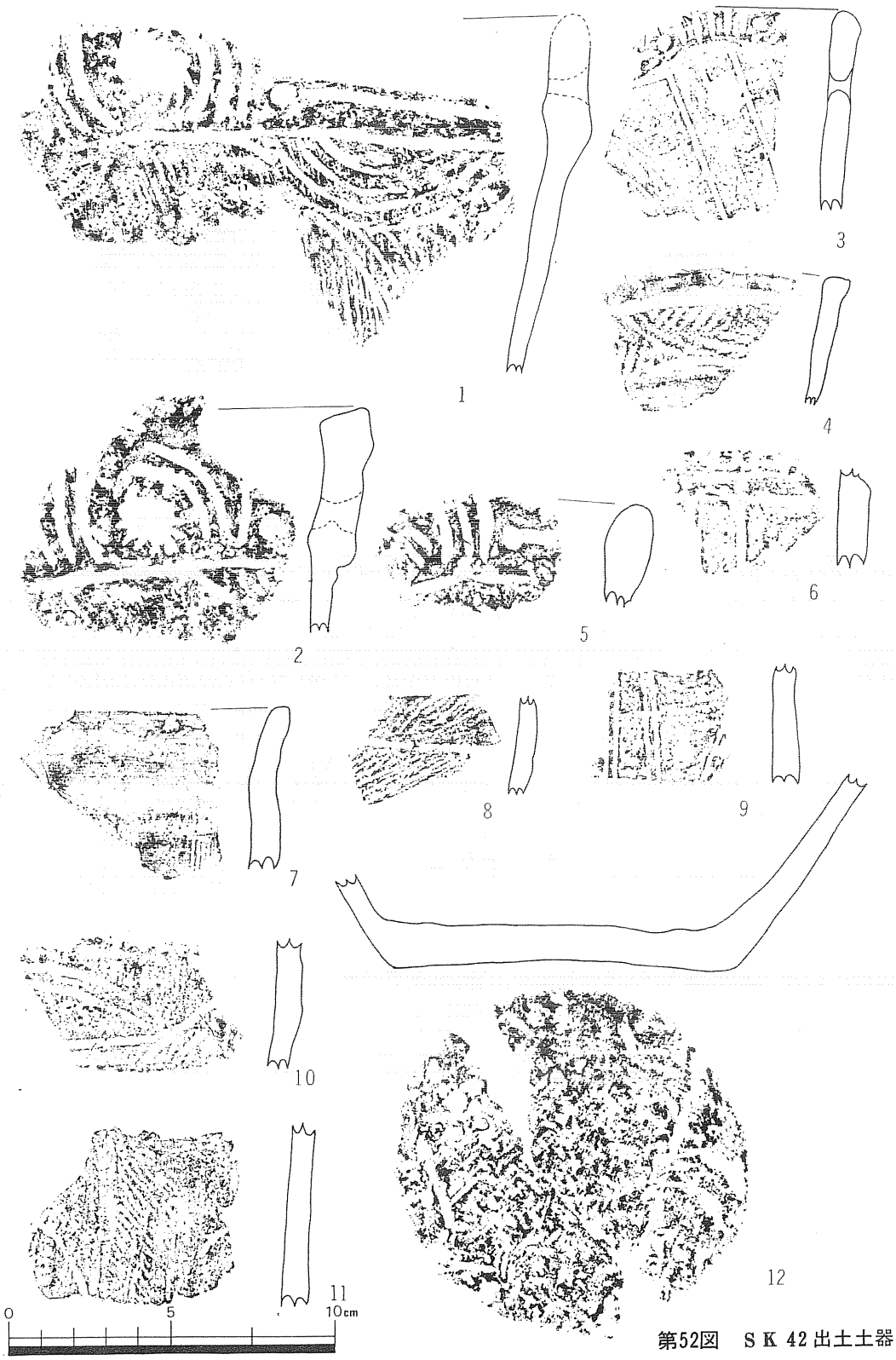
第49図　ＳＫ 43 出土土器



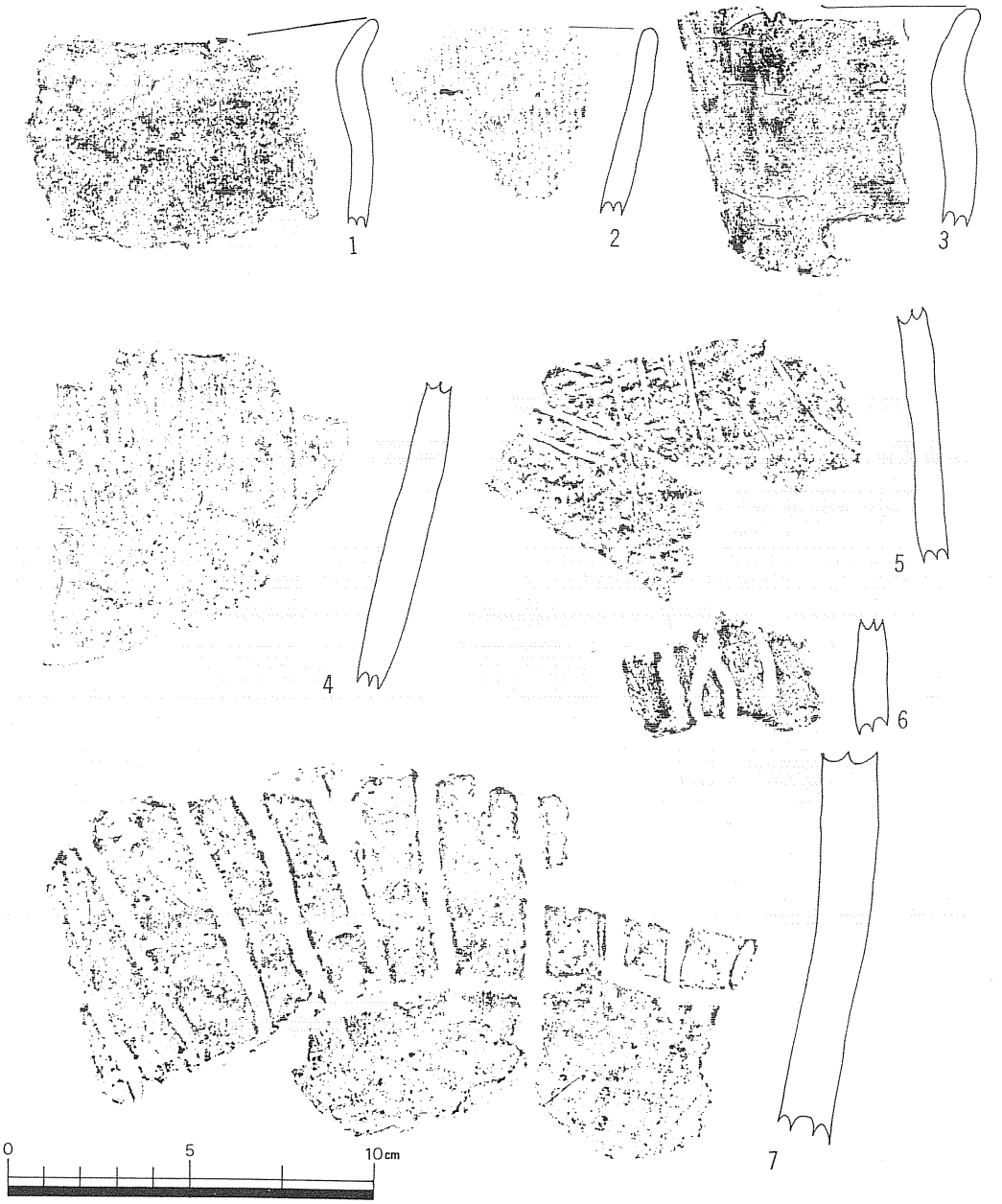
第50図　ＳＫ 38 出土土器



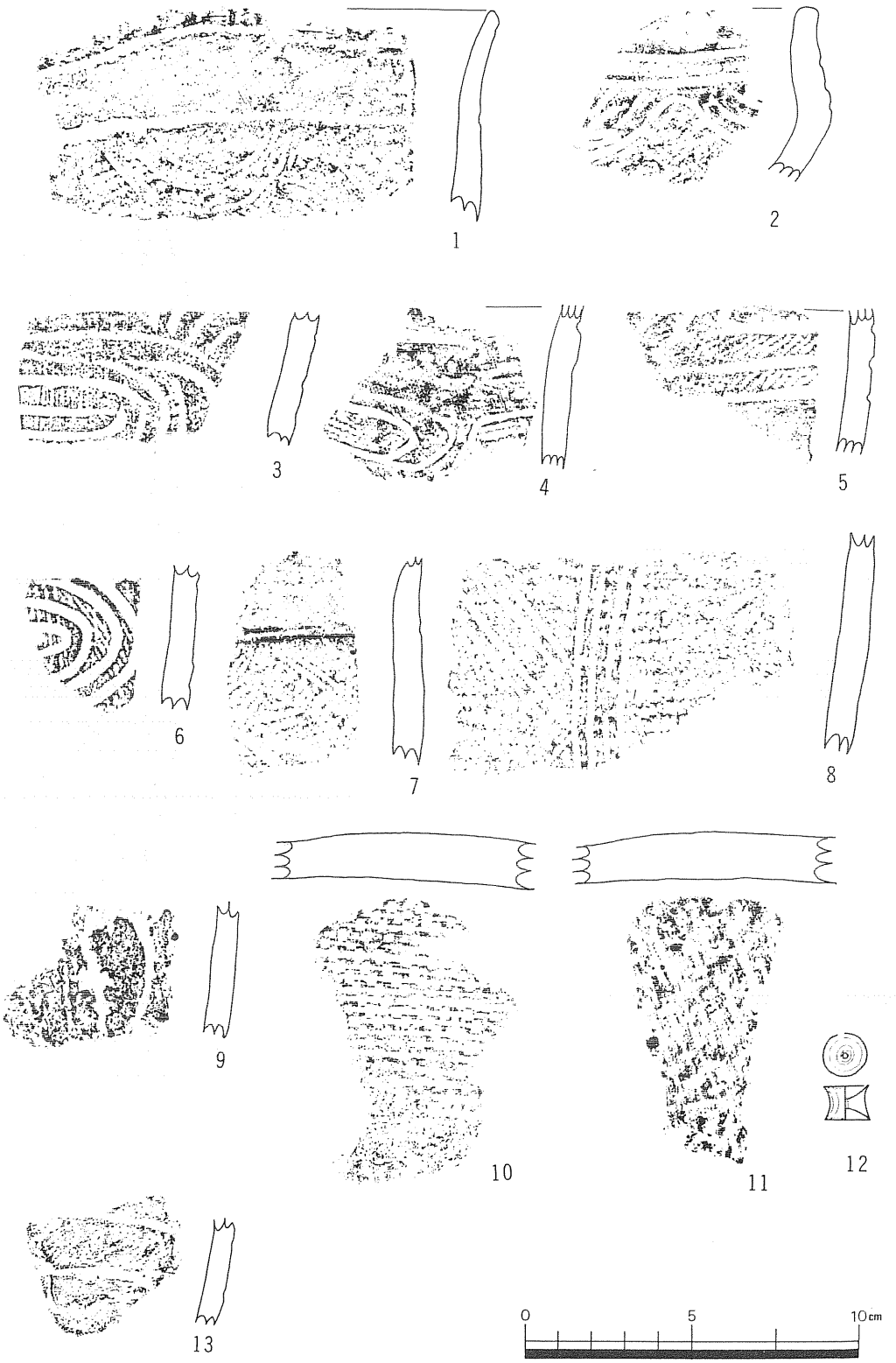
第51図　ＳＫ 41 出土土器



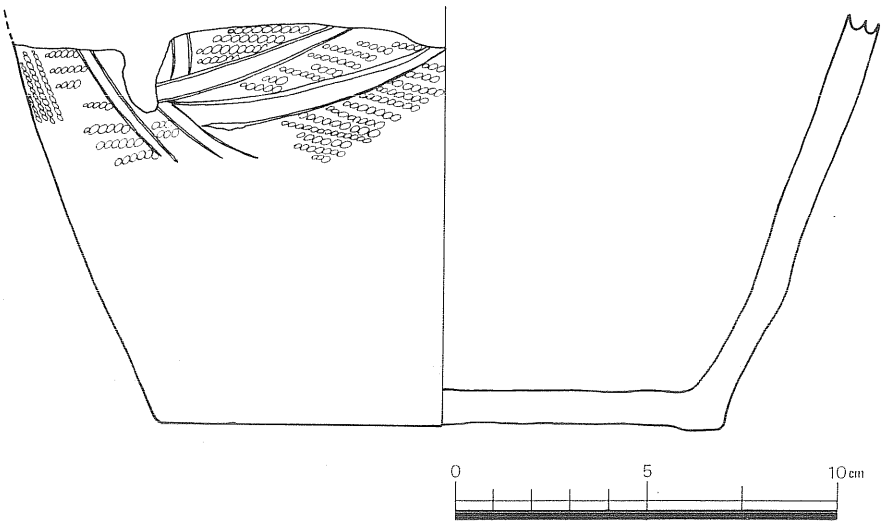
第52図　ＳＫ 42 出土土器



第53図　ＳＫ 47 出土土器

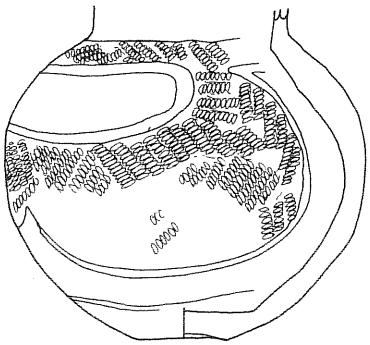


第54図　ＳＫ 101・106 出土土器

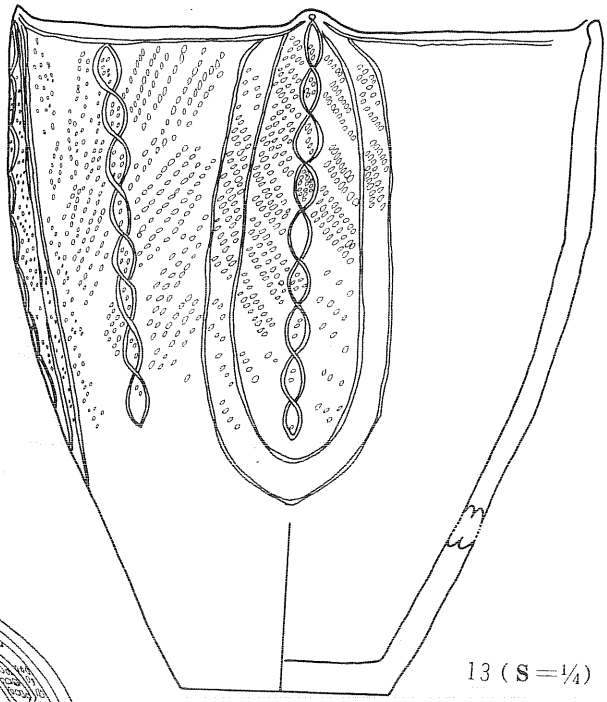


第55図　S×21実測図

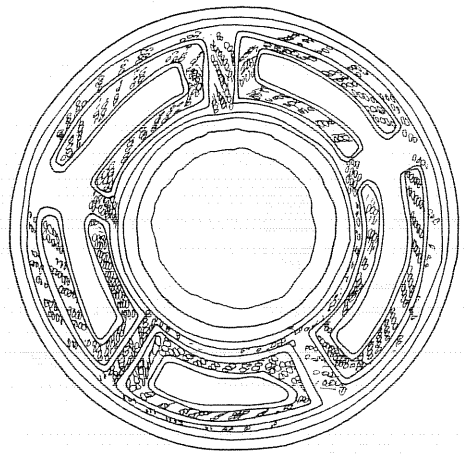
第56図　土器実測図

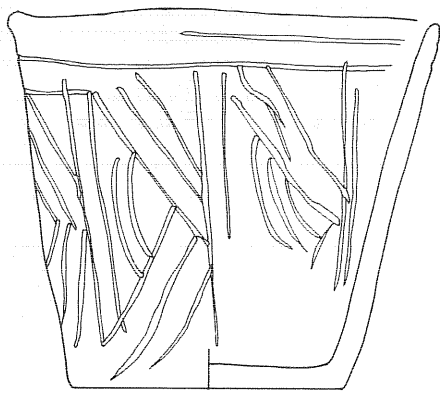


12

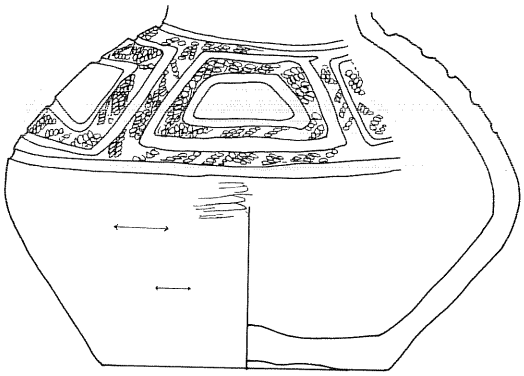


13 (S=¼)

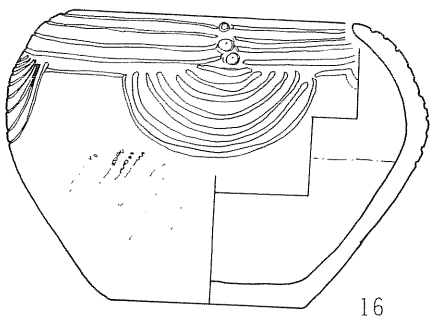




14



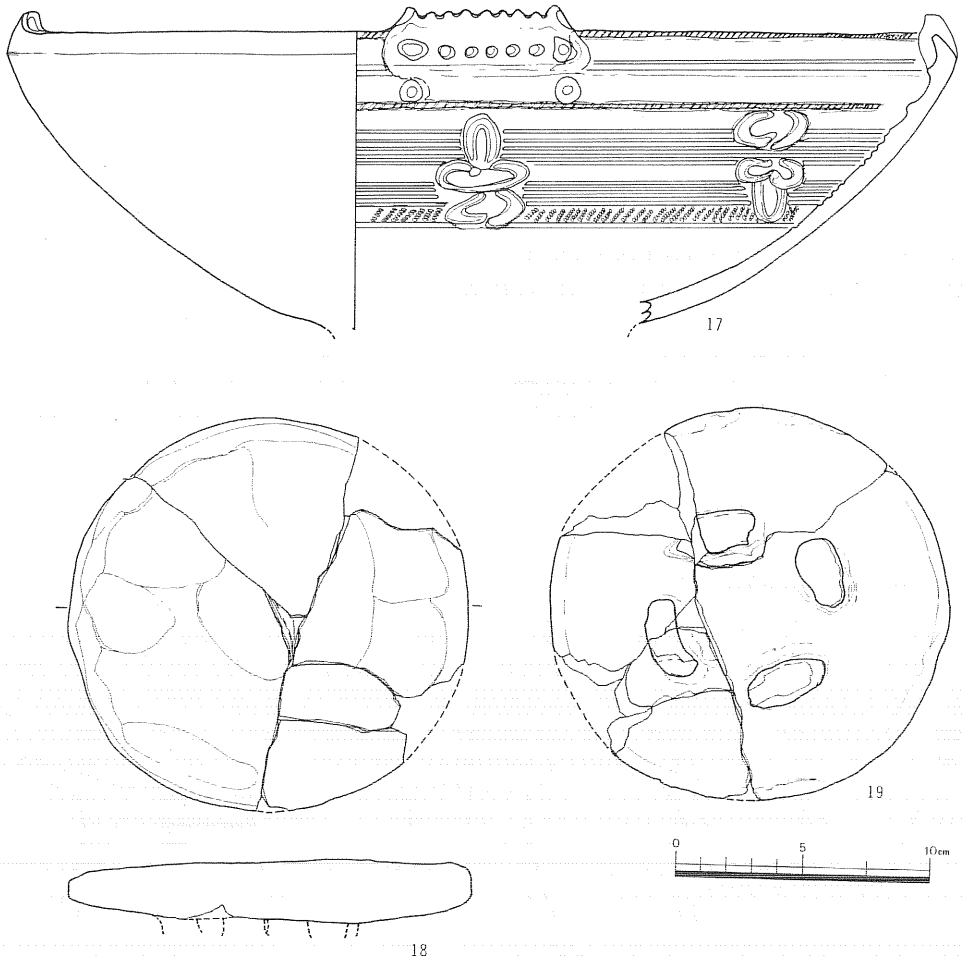
15



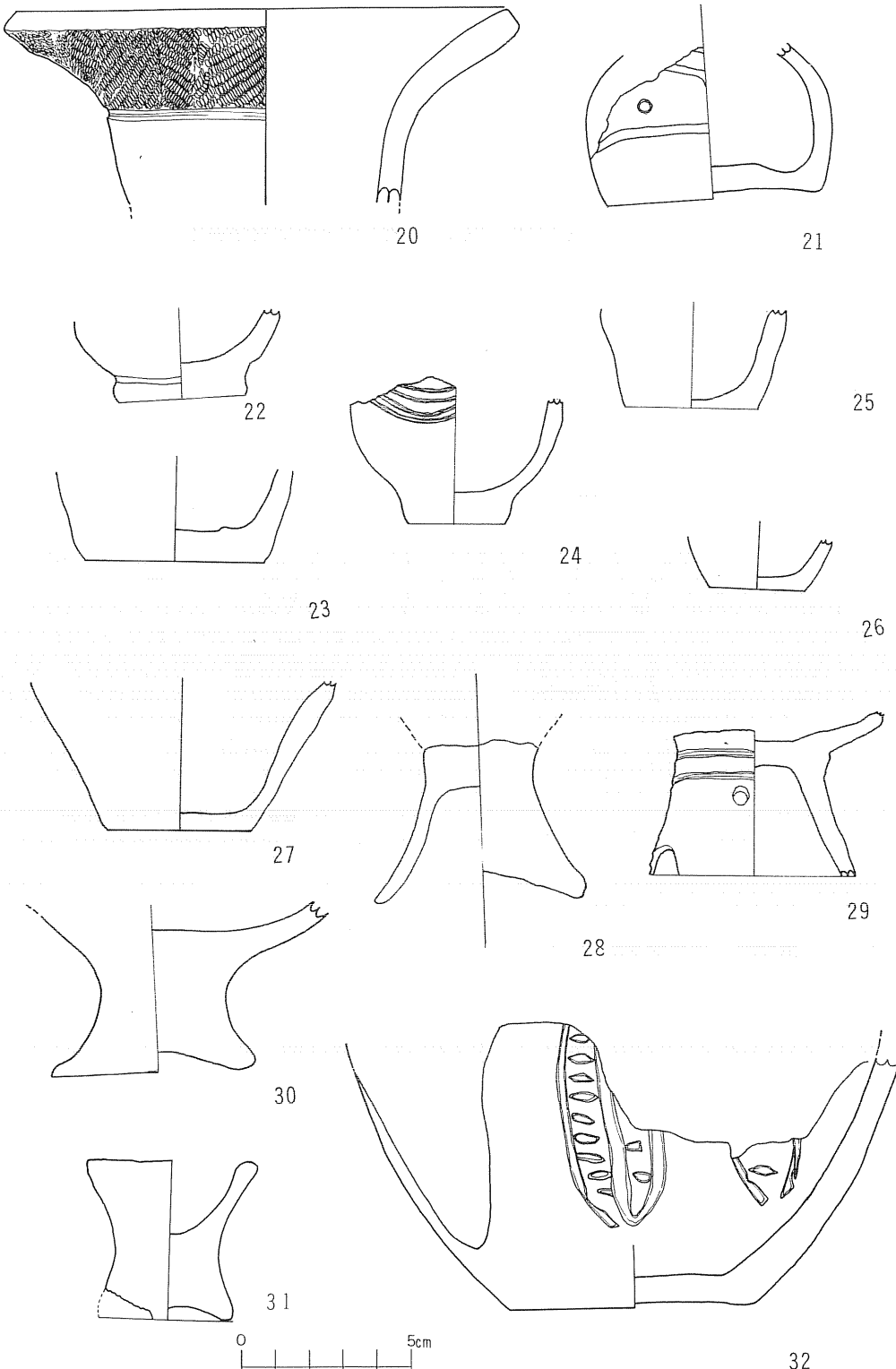
16

0 5 10cm

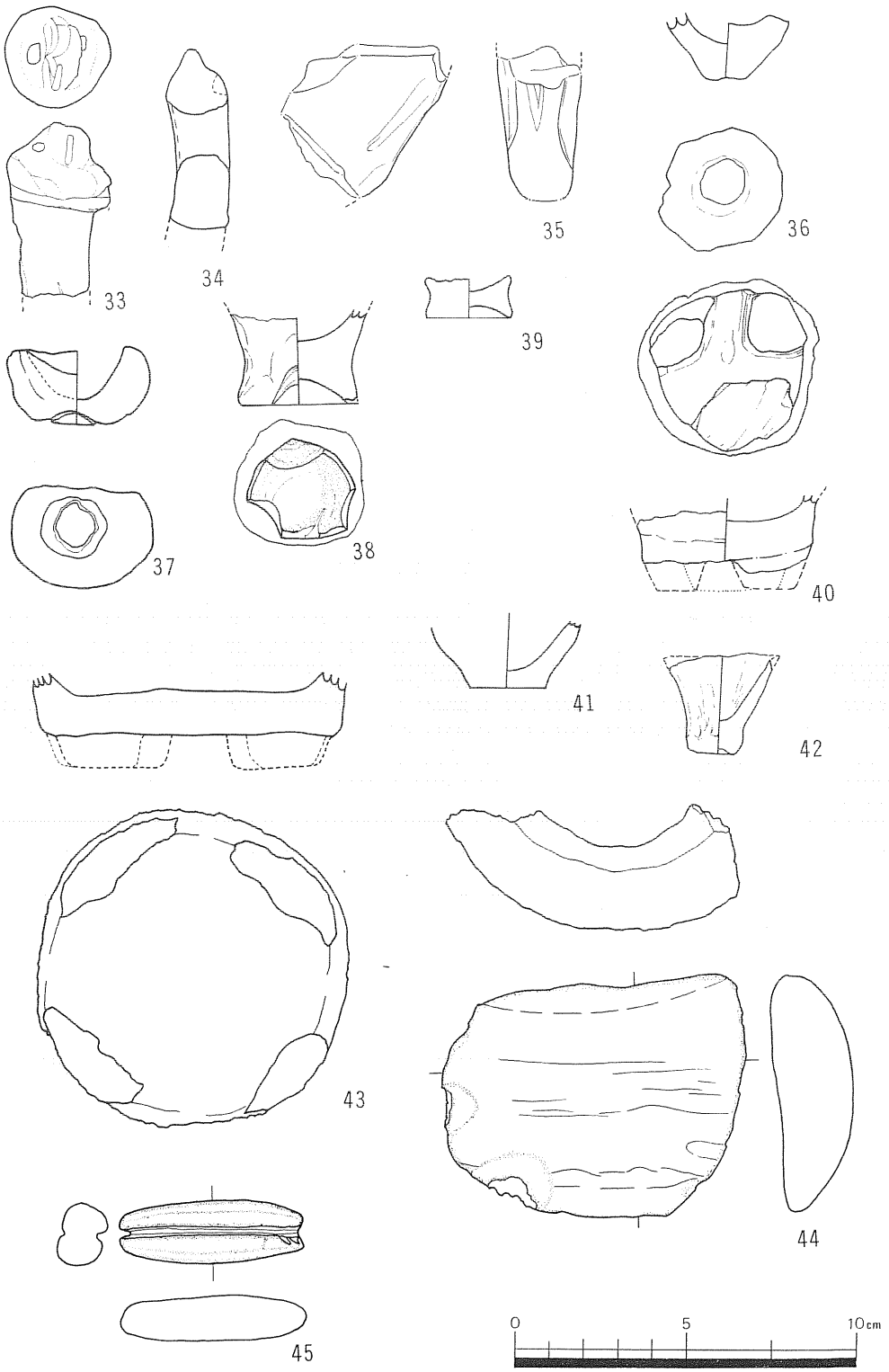
第57図　土器実測図



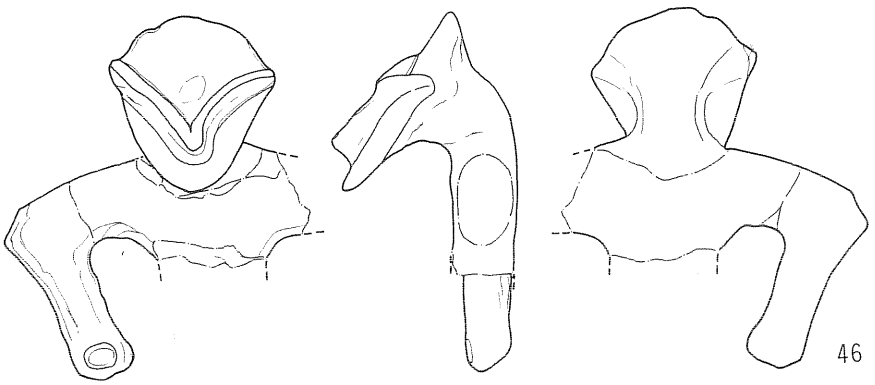
第58図　土器実測図

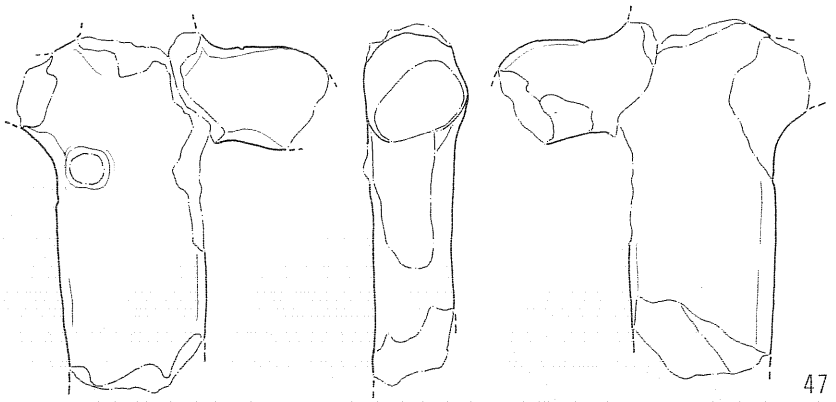


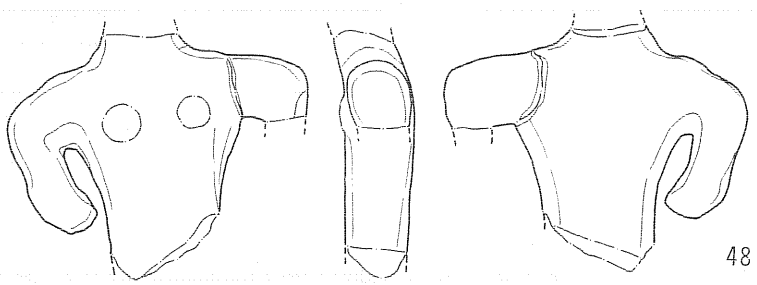
第59図　土器実測図

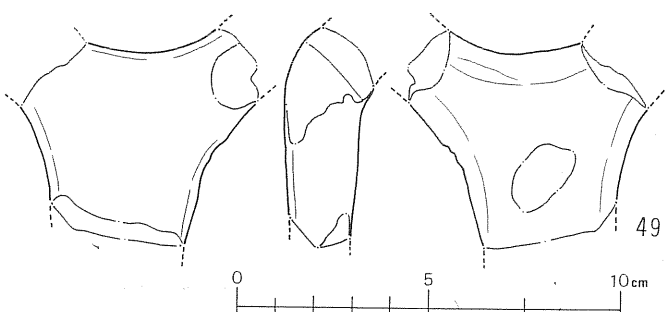


第60図　土製品実測図

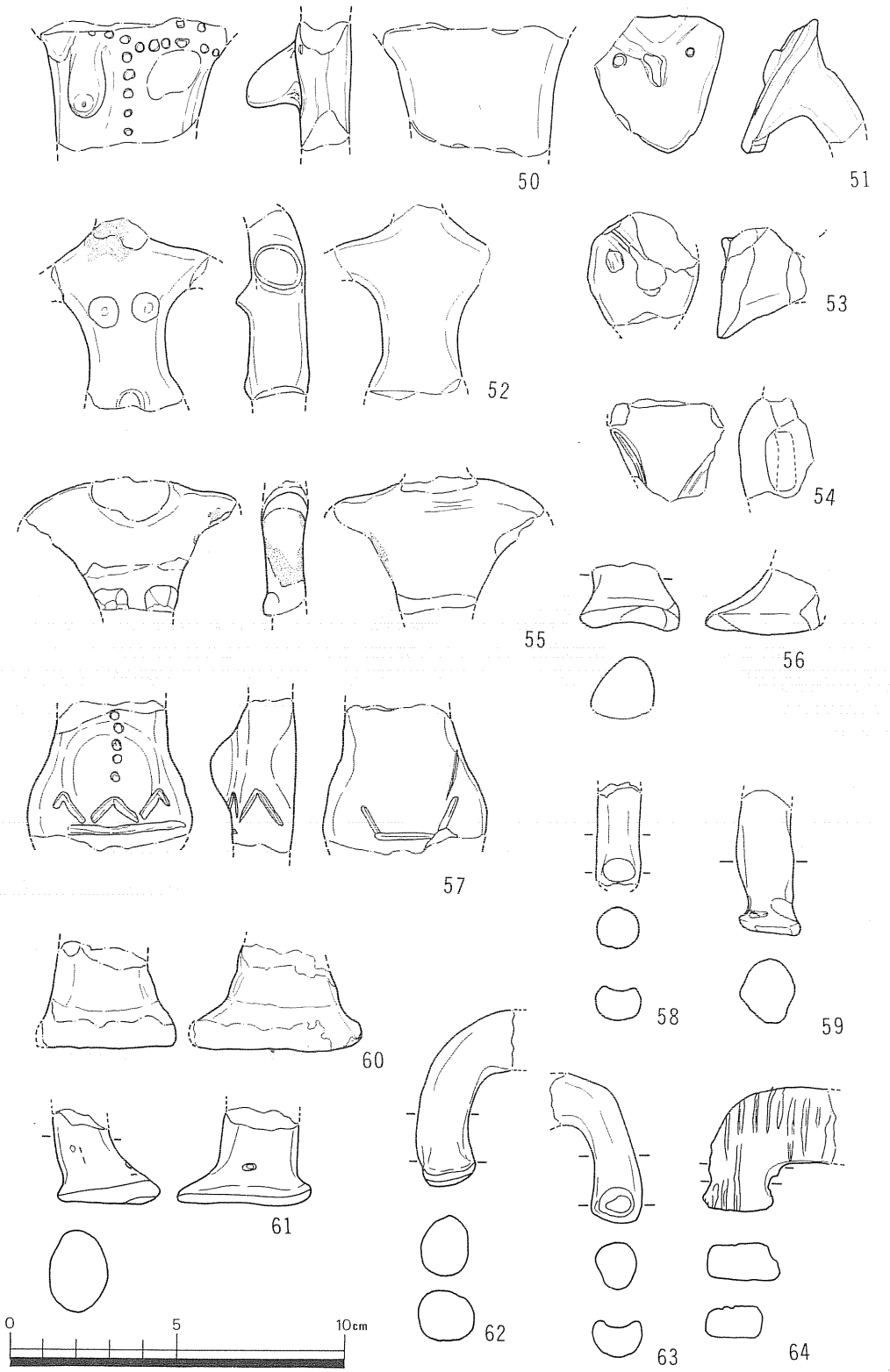






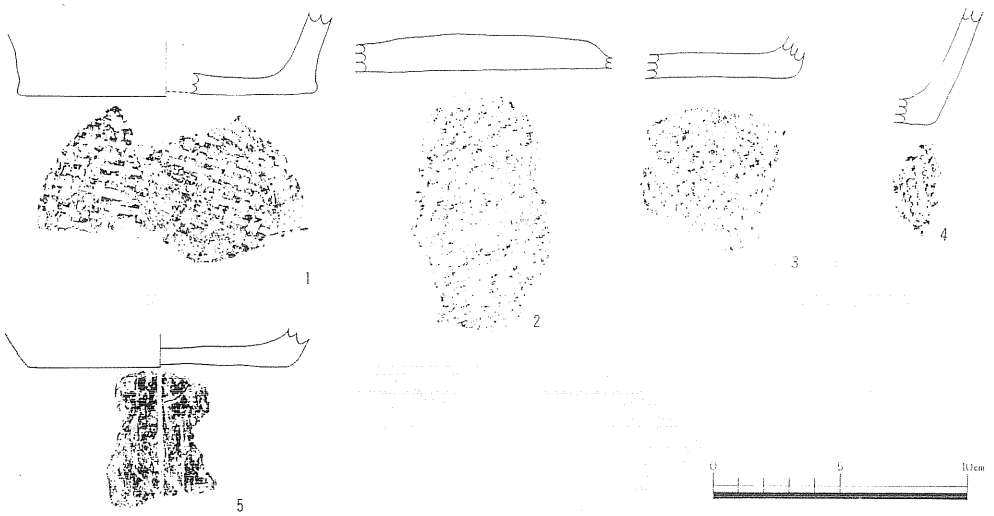


第61図　土偶実測図



第62図　土偶実測図

第63図　Ⅰ区出土土器

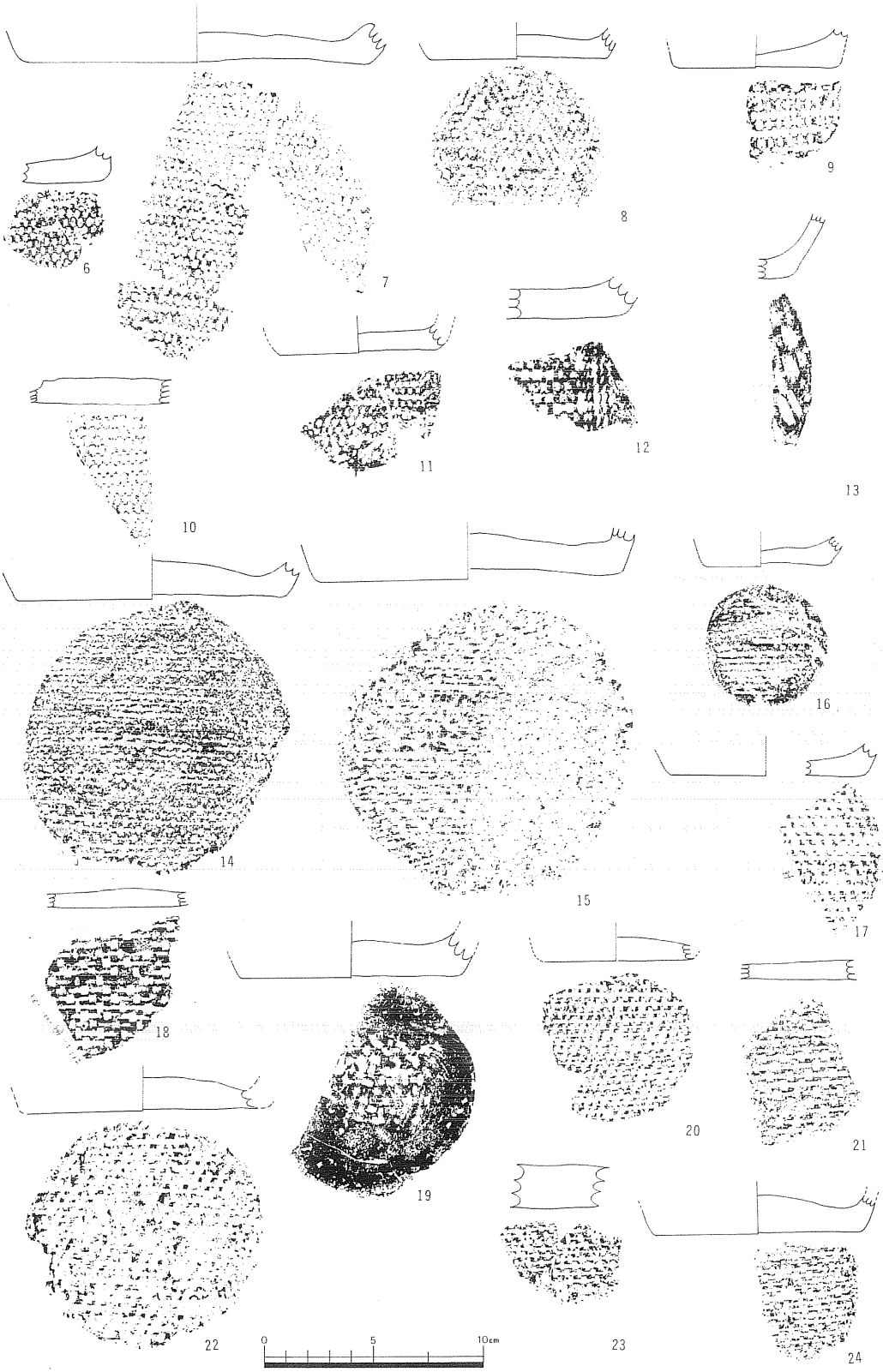


第64図　Ⅰ区土器底部

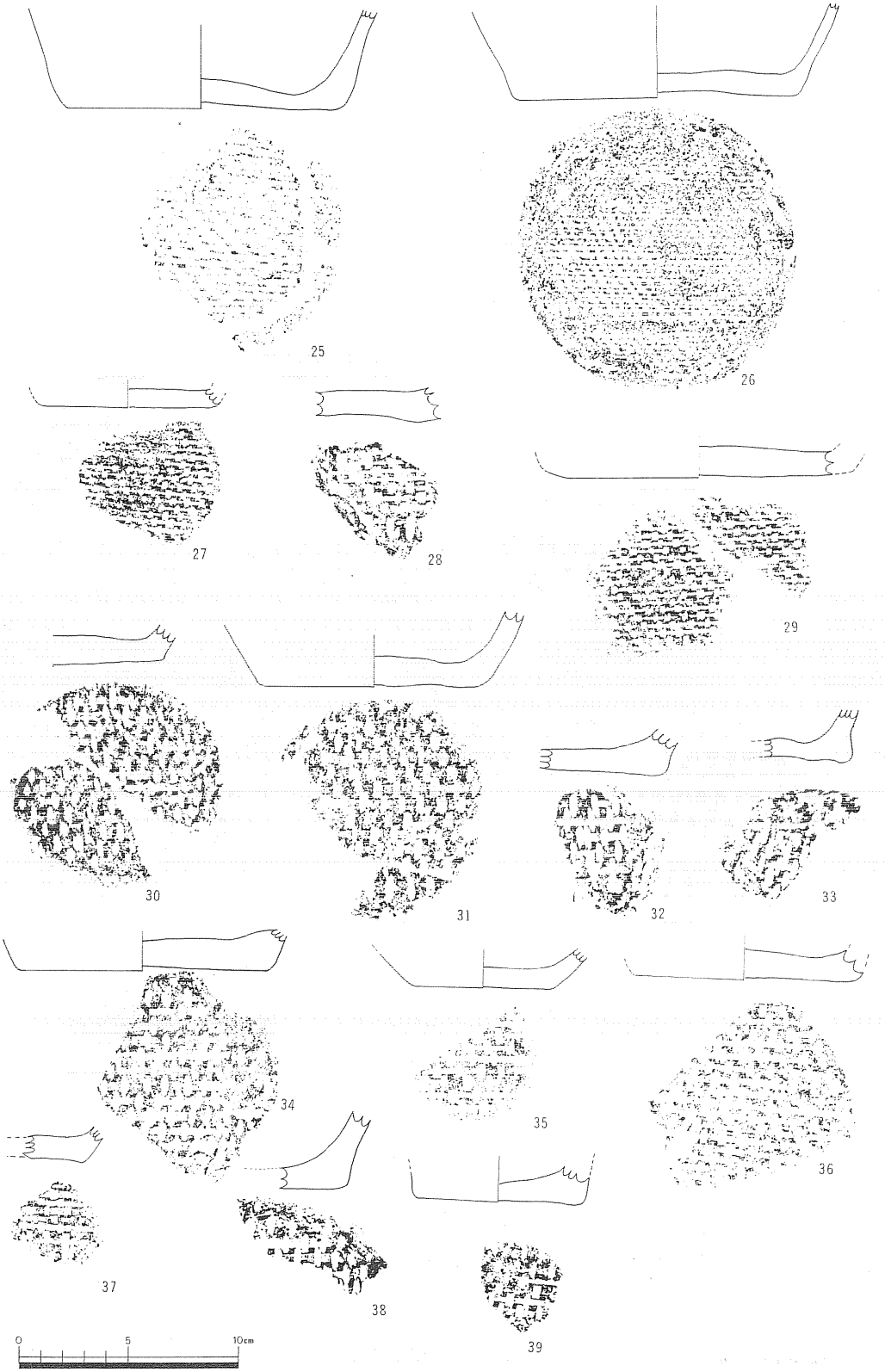
土器底部（第64図～68図）　土器の底部には所謂網代痕のあるもの、木葉痕のあるもの、笹の葉状の痕跡のあるものなどがある。中でも網代痕のあるものが最も多い。荒木氏の分類法により表現すると　①$\left\{\begin{matrix}A_1+B_1\\B_1+A_1\end{matrix}\right\}$（第65図１～13）、②$\left\{\begin{matrix}A_1+B_2\\B_2+A_1\end{matrix}\right\}$（第65図14～第66図29）

③$\left\{\begin{matrix}A_2+B_2\\AB_2+A_2\end{matrix}\right\}$があり、②のものが一般的である。左へ１本送るものも、右に送るものもある。

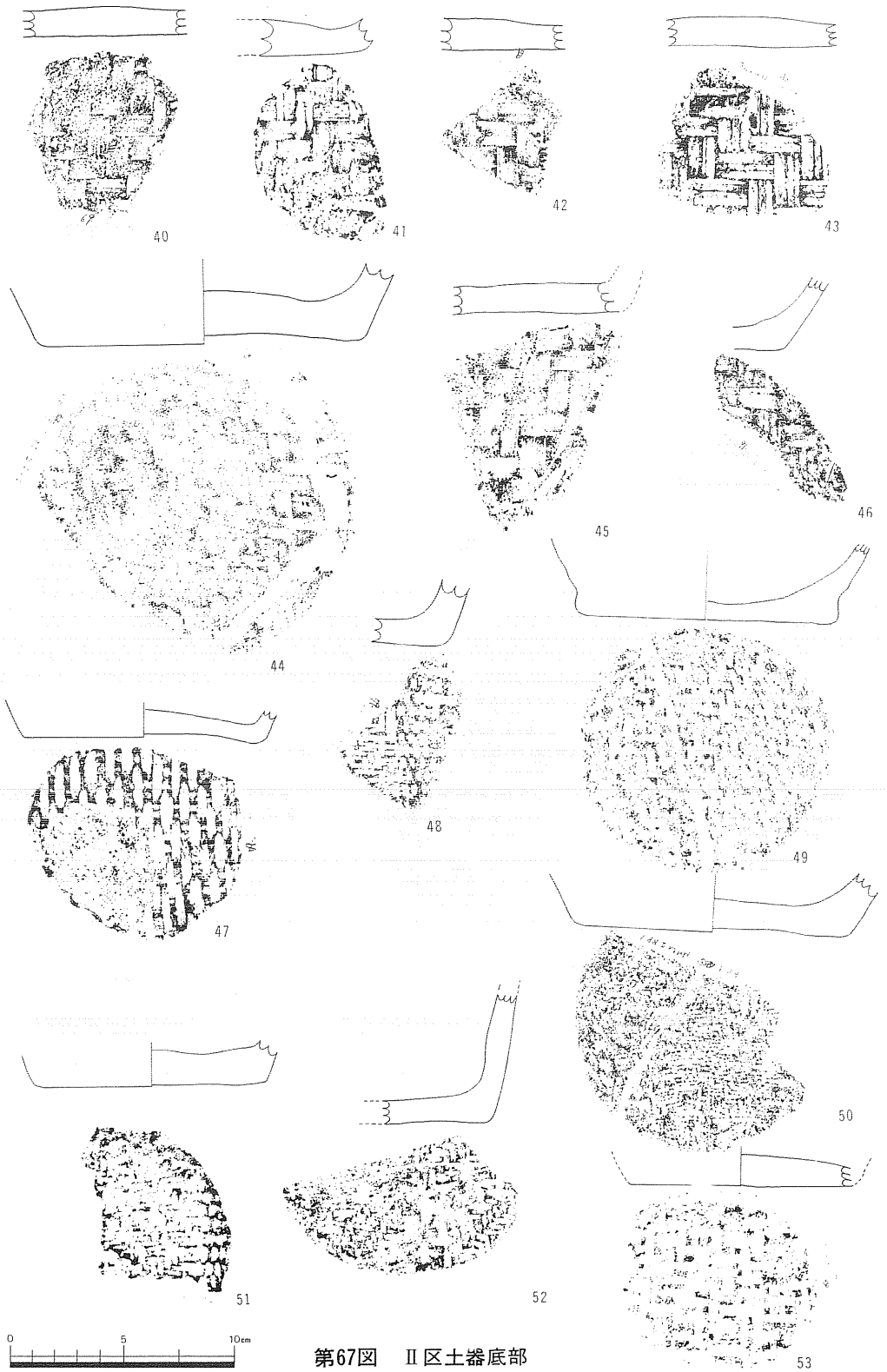
第67図40～46のように紐を２～４本を一組にして編んだものもある。51は$\left\{\begin{matrix}A_3+B_3\\B_2+A_2\end{matrix}\right\}$の左１本送り、53は$\left\{\begin{matrix}A_2+B_4+A_2+B_5\\B_4+A_2\end{matrix}\right\}$と見える。その他の種類があるが数は多くなる。第67図48，51は底部の側線で編み方が変わる。これは何を意味するであろうか。このような例は少ないが、土器底部に網代をしく時、土器にあう網代をわざわざ編んだとは考えられないだろうか。②のように同種類の編み方が多いのに同一網代を用いたと考えられるものはない。



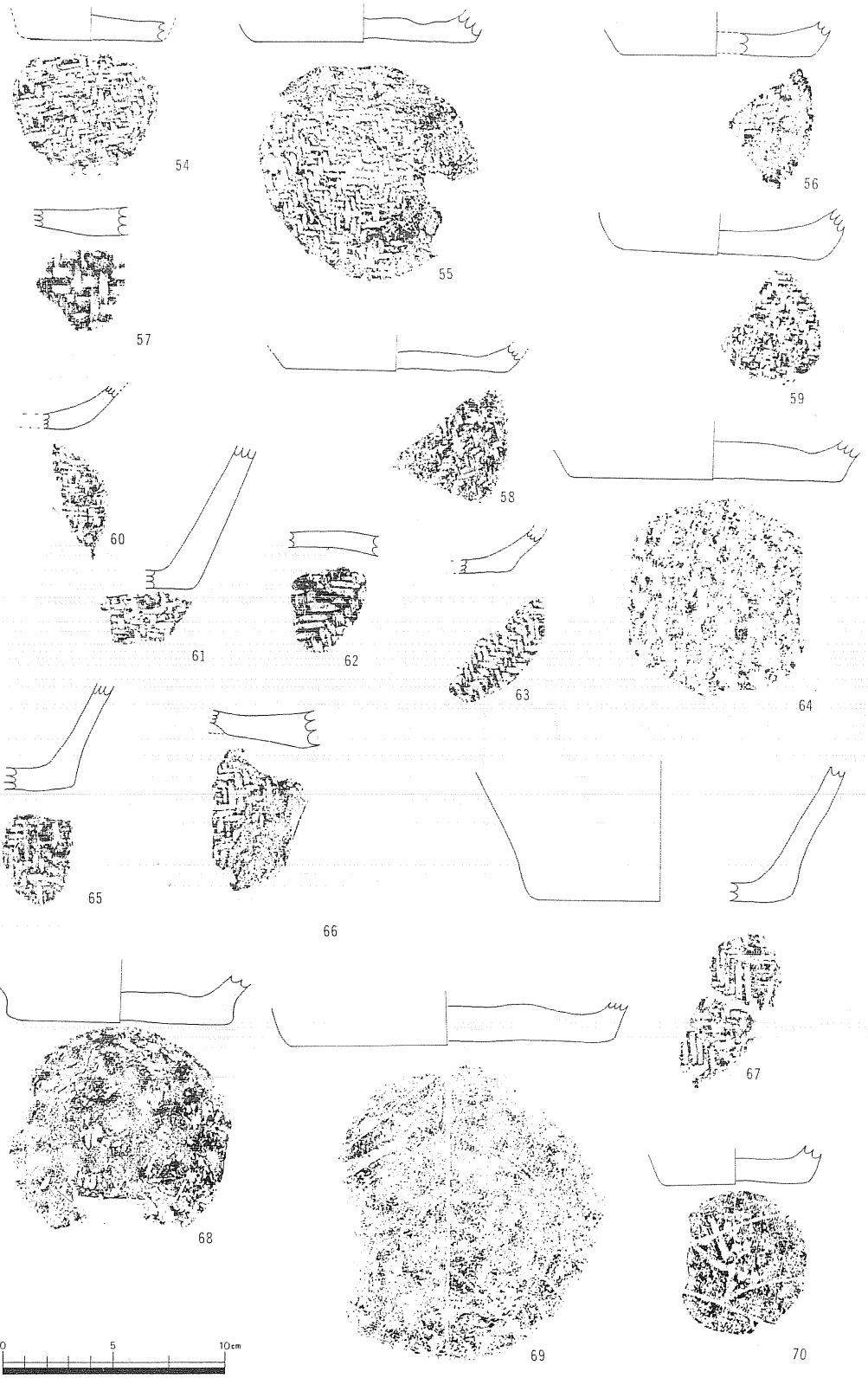
第65図　Ⅱ区土器底部



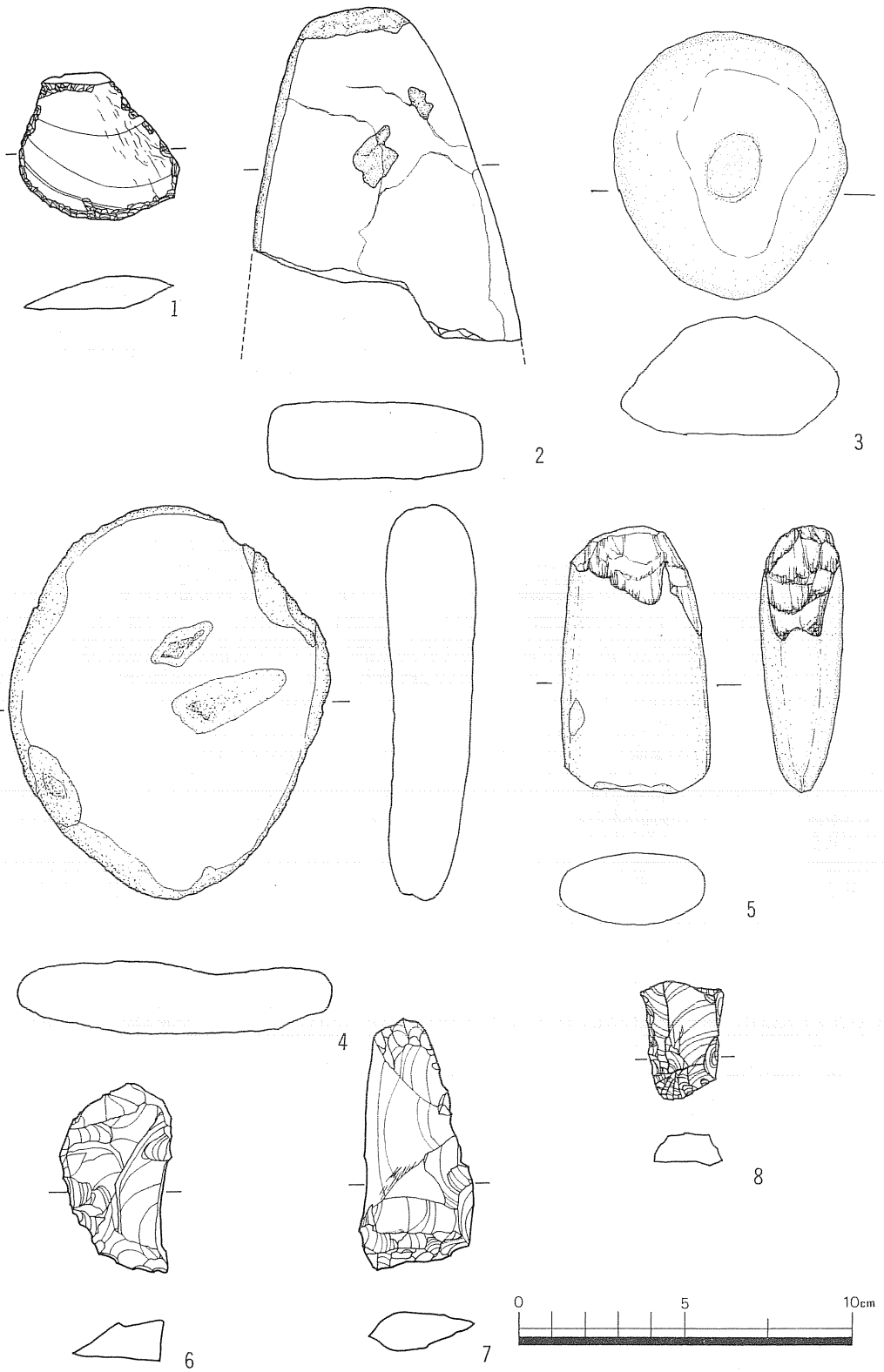
第66図　Ⅱ区土器底部



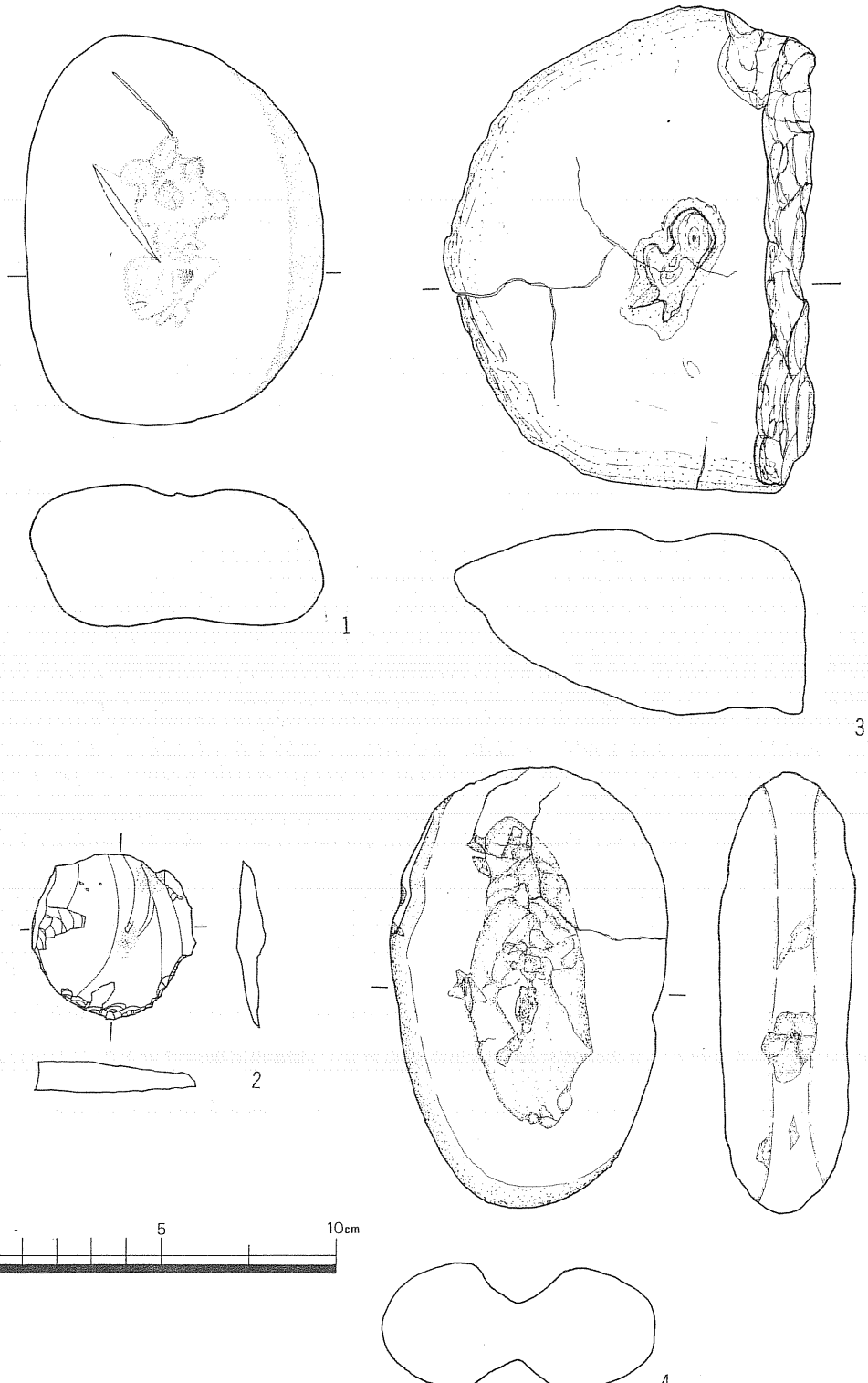
第67図　Ⅱ区土器底部



第68図　Ⅱ区土器底部



第69図　土坑出土石器



第70図　土坑出土石器

第5章　ま と め

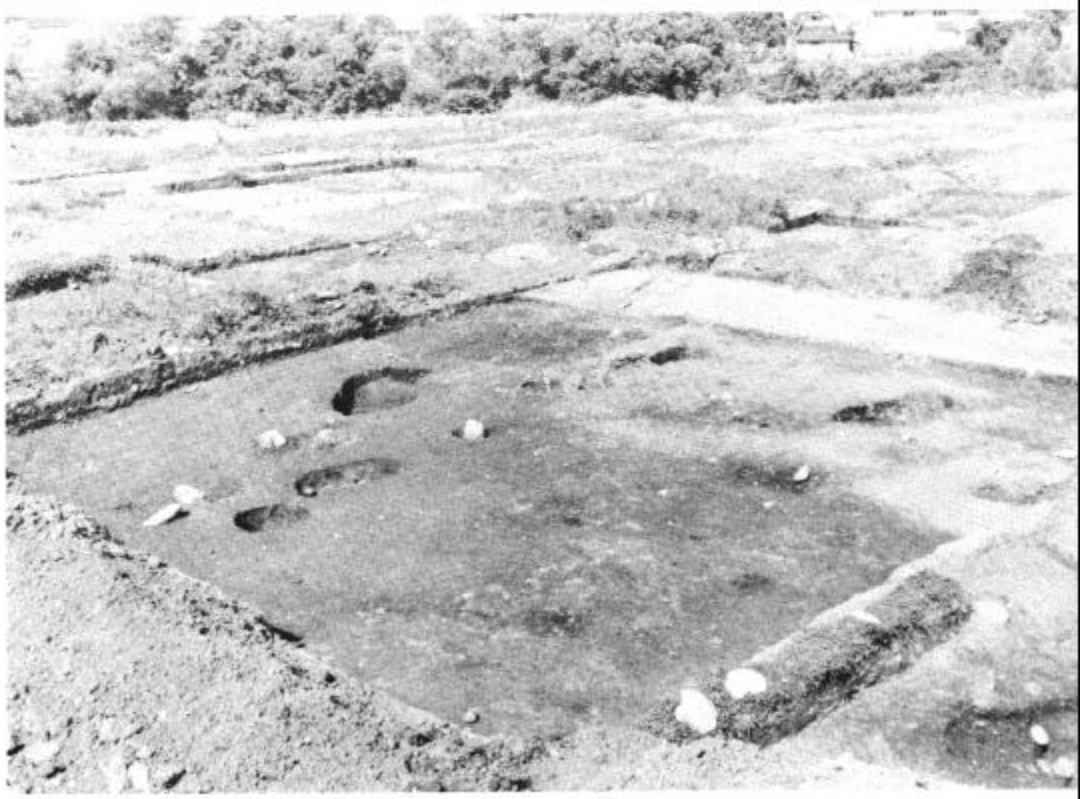
由利郡東由利町田代字石高に所在する片符沢遺跡Ⅰは高瀬川と石高川に囲まれた台地上に位置する遺跡である。遺跡は高い所で標高151m、低い所で149mで北側に進むにつれて段々に低くなり高瀬川に達している。台地は北側に延びている。台地の延びる方向は違っていても、昭和52年発掘調査し103基の土坑が発見された同町湯出野遺跡の土坑の占地している所と非常によく似ている。

今度の発掘調査の結果50基の土坑が発見された。土坑は大きく三つの群をなしている。これを全体的に見ると環状を呈すようにも見える。しかしそれぞれの土坑群の間隔は16m～20mほどあり、全体が一つの遺構と見るより、各群独立していると見た方がよいであろう。Ⅰ区4基Ⅲ区5基で、他の42基はⅡ区に属す。これら三群の土坑に共通する特徴はA、土坑の掘り方は楕円形、円形が主体をなす。B、土坑内にいろいろな遺物が入っていること。……土器の他にコブシ大から人頭大の石が入っているものが43基ある。……

他に注目されるのは、SK05土坑が一際めだって大きいことである。断面は孤状をなし、外縁部が土手状にしっかり作られ、しかもこの周囲に5基の土坑が接して存在することである。現在までこのような例は聞かない。どのような意味をもつものか、今後の課題の一つである。

楕円形の土坑の方位を検討した結果、その方位に一定のまとまりはなく、ばらばらである。これも現在まで県内で発見されている土坑にはない特徴である。特色のある遺物・土偶を出土した土坑は03と09号土坑、四脚土器を出土した土坑は03と08号、他に器壁が厚く、内側に太い沈線で文様を施し、同一個体と考えられる土器片が23と47号から出土している。耳飾りは106号から、29号からは土坑底部に入っていた扁平な石に朱が付着していた。円盤状土製品・四脚・三脚土器、朱彩土器などが発見されている。土坑の配列を見るとⅡ区、Ⅲ区のそれは二列を意識しているようにも見える。これらのことを総合的に見ると墓と考えられる要素が多い。しかし前述したように方位等に規則性が認められず、積極的に裏付けるものも少ない。これらは他の遺跡の調査例をまって検討されなければならない問題である。

とにかくこれらの土坑は縄文時代後期前葉から中葉までの時期のものである。土坑の上には集石、土器が捨てられた状態で多数発見された。それらと土坑との関係も調査したが直接的な関係は認められない。このような例は秋田市坂の上遺跡に類例を見ることができる。



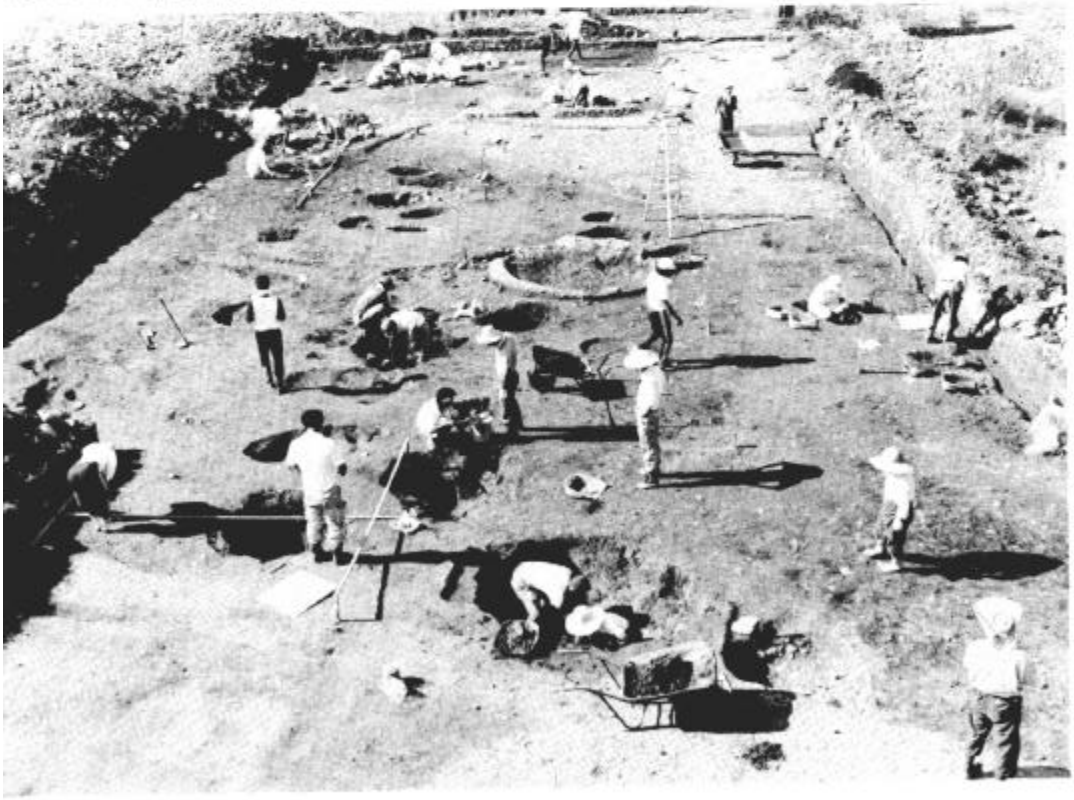
図版1　上　遺跡遠景（北▶南）

下　I区及びII区北部（南西▶北東）

図版2　　II区全景（南▶北）

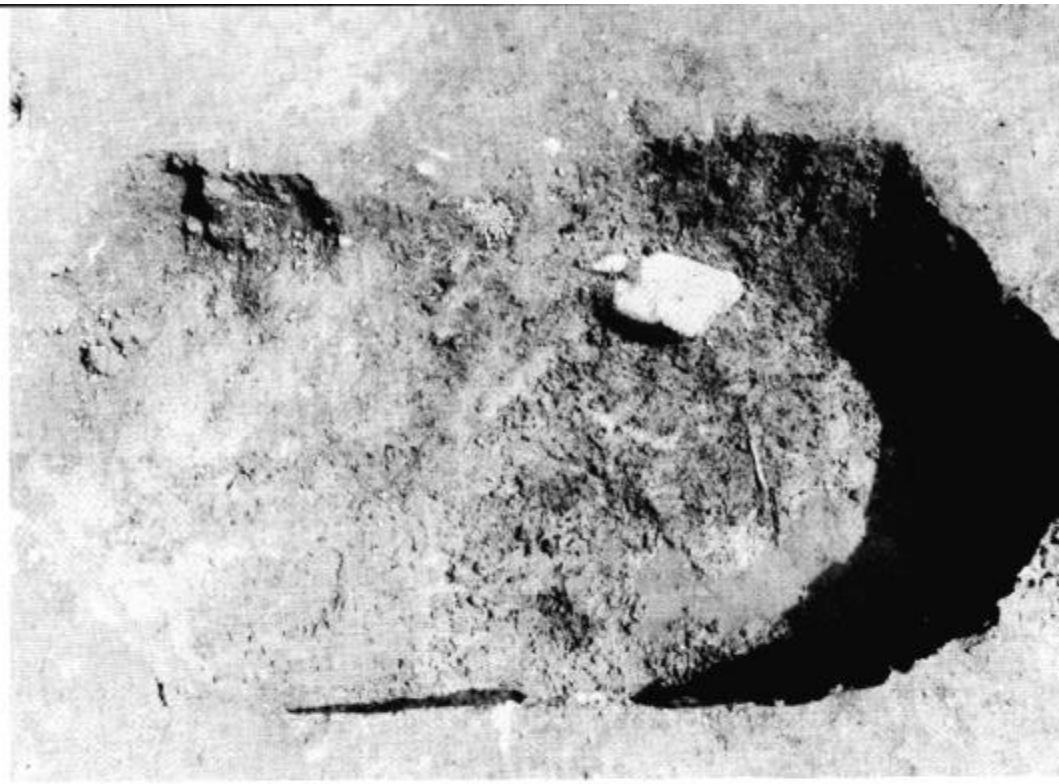
図版3　上　II区南部（北西▶南東）

下　III区全景（北西▶南東）

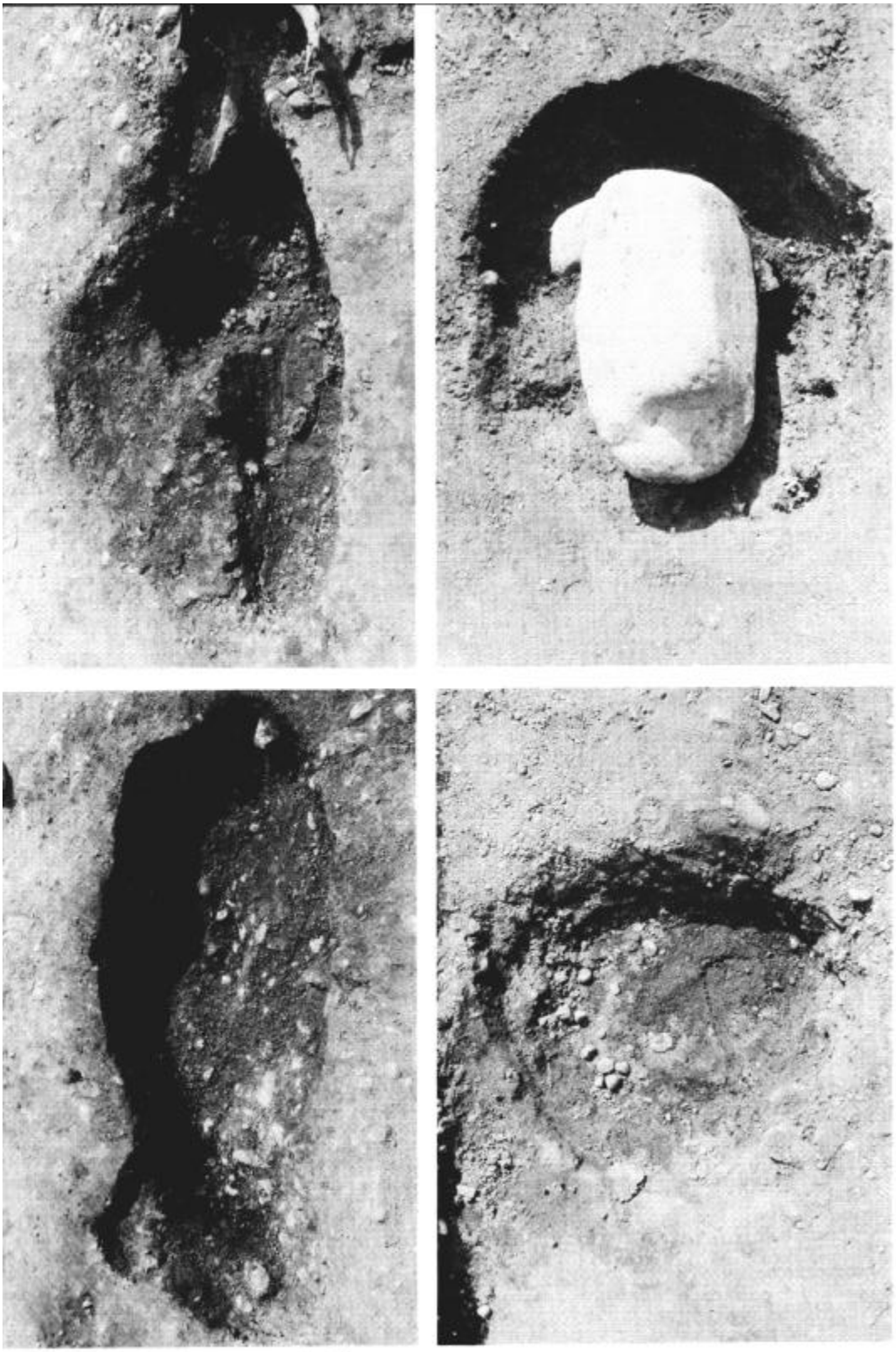


図版4　上　Ⅳ区全景（西▶東）

下　発掘風景

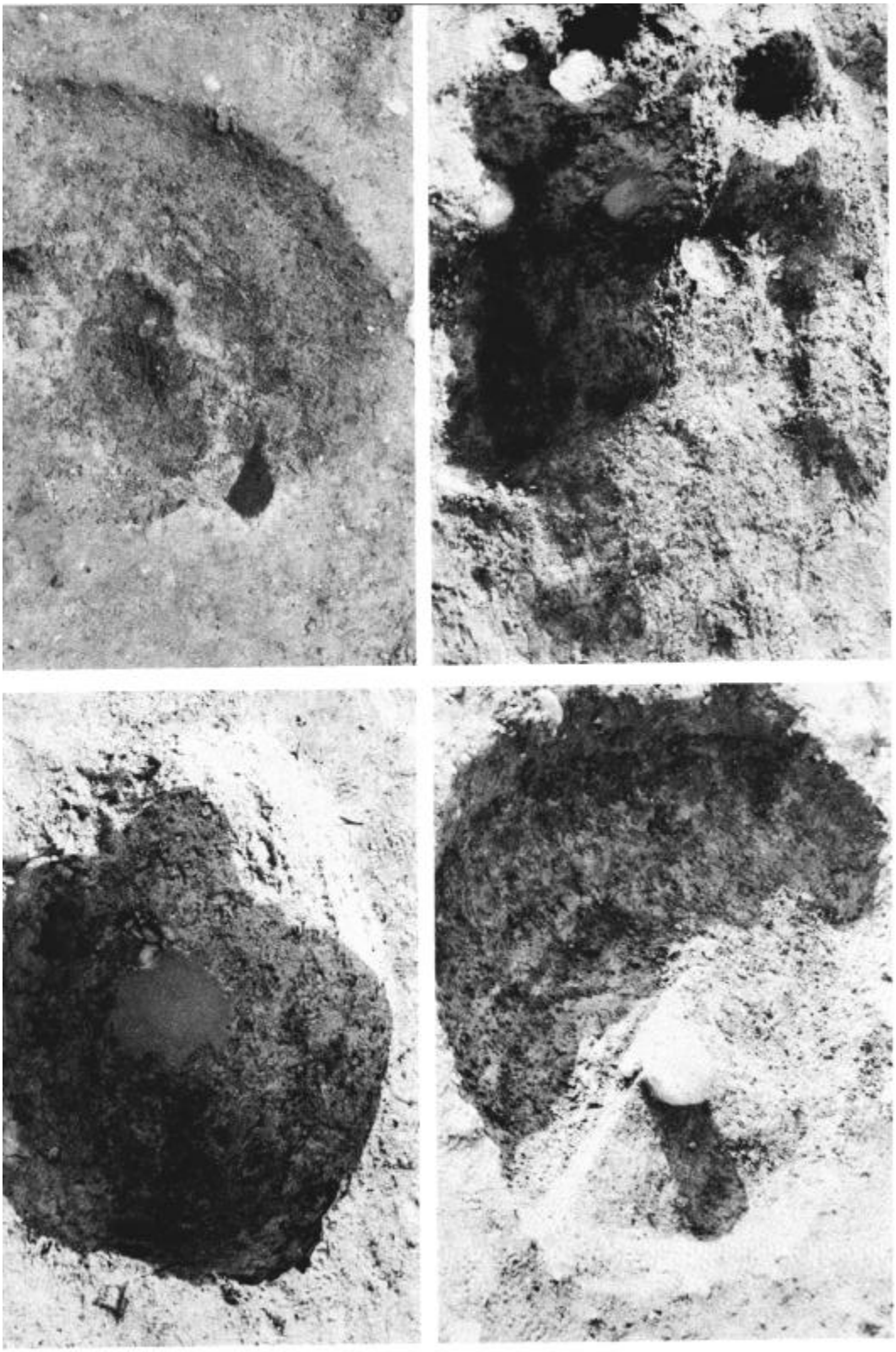


図版5　上　SK41　土　坑
左下　SK40　土　坑
右下　SK39　土　坑

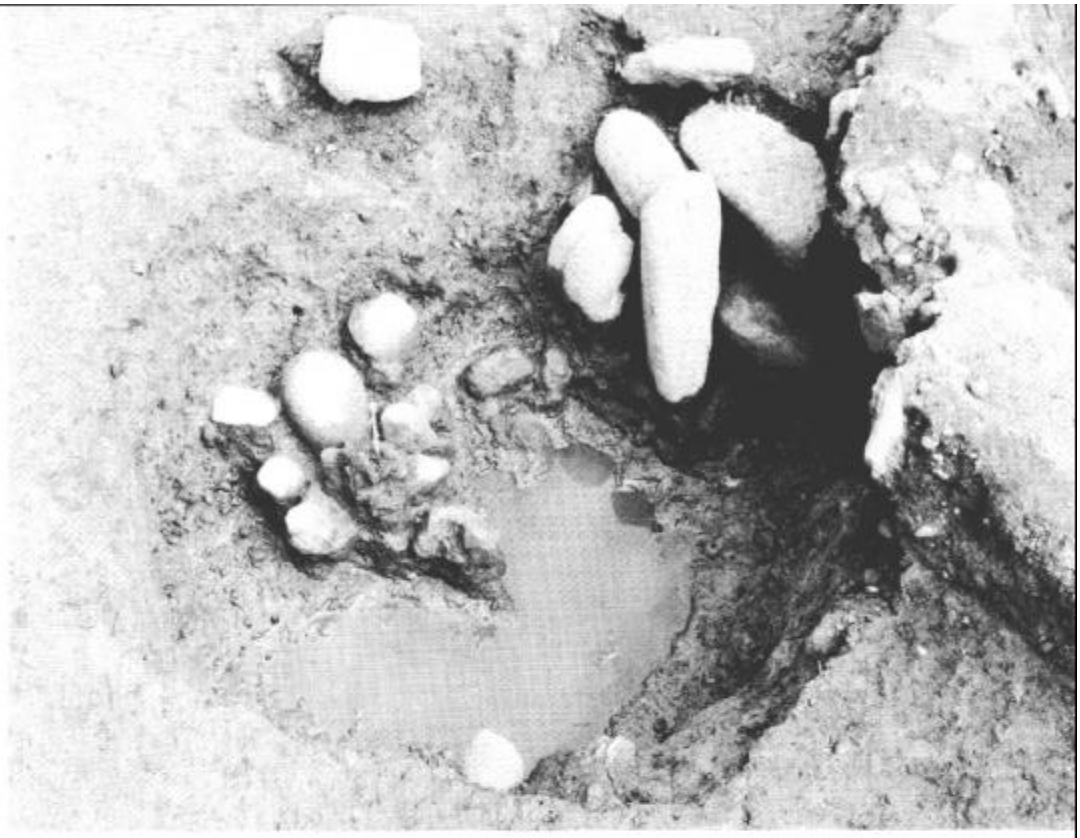


図版 6　左上　SK44　土　坑
右上　SK43　土　坑
左下　SK42　土　坑
右下　SK38　土　坑

図版7　上　SK46　土　坑
左下　SK28　土　坑
右下　SK32, 47　土　坑



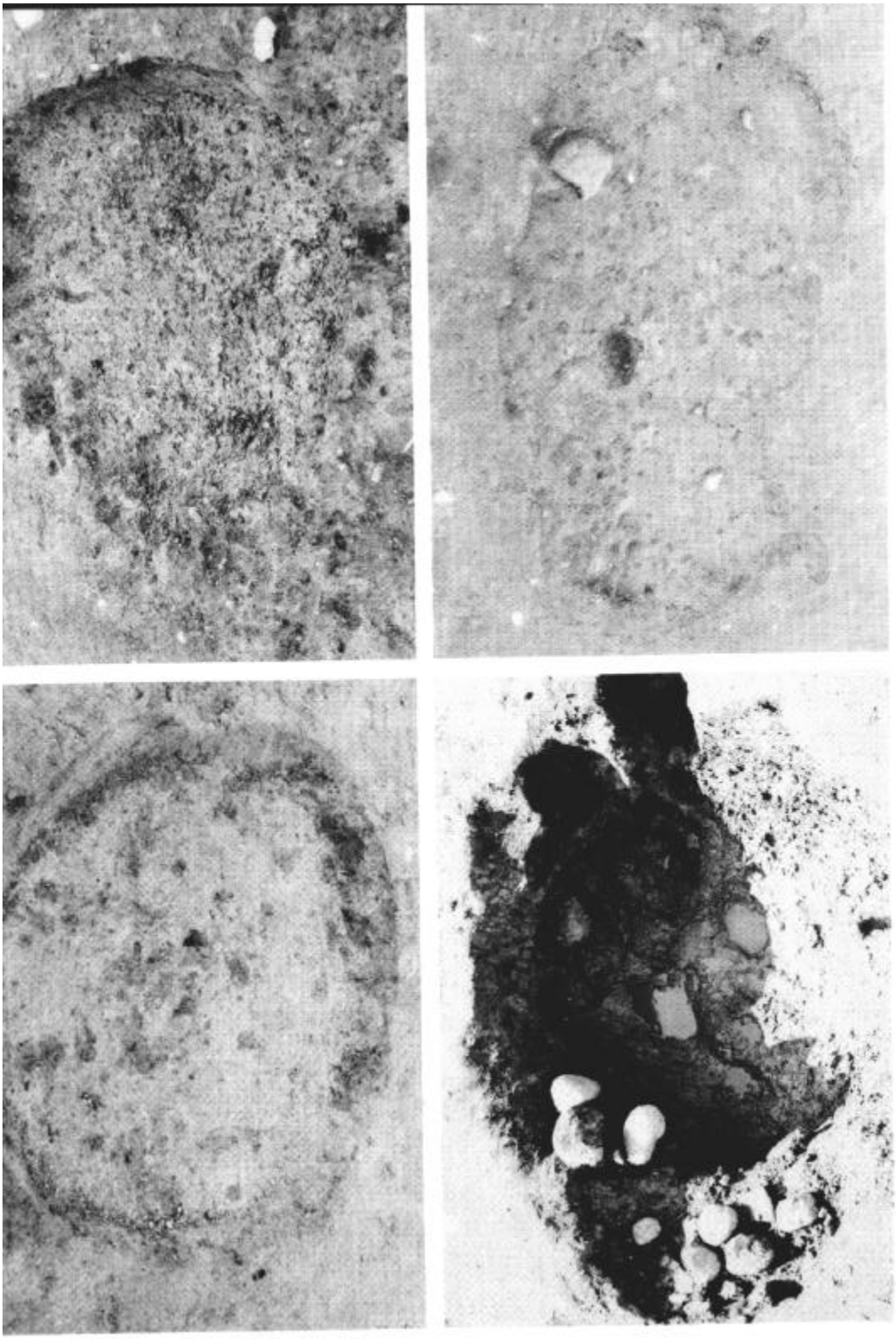
図版 8　　左上　SK45　土　坑
右上　SK35　土　坑
左下　SK29　土　坑
右下　SK30　土　坑



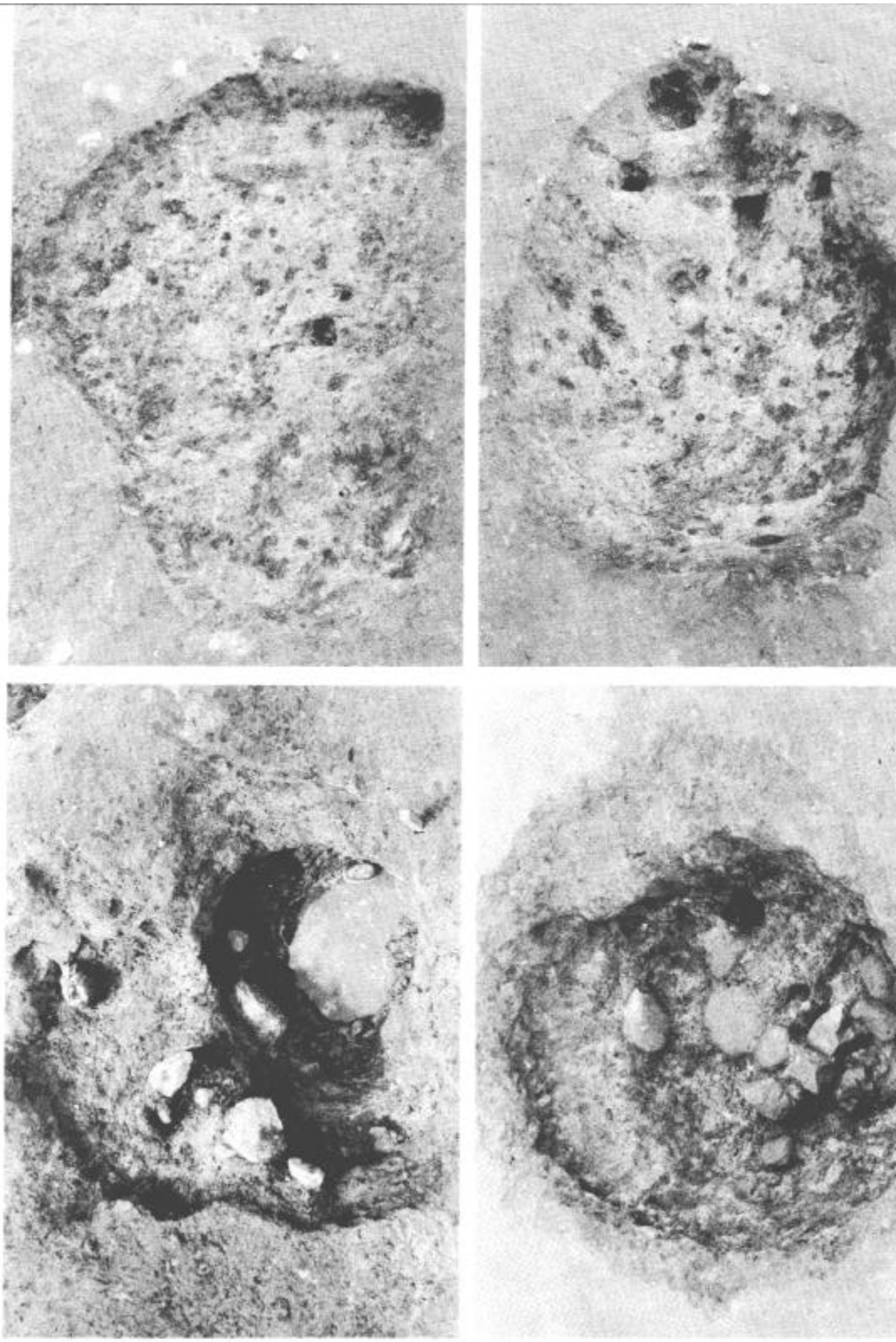
図版9　上　SK24　土　坑
左下　SK22　土　坑
右下　SK27　土　坑

図版10　上　SK05　土　坑
左下　SK23　土　坑
右下　SK33　土　坑

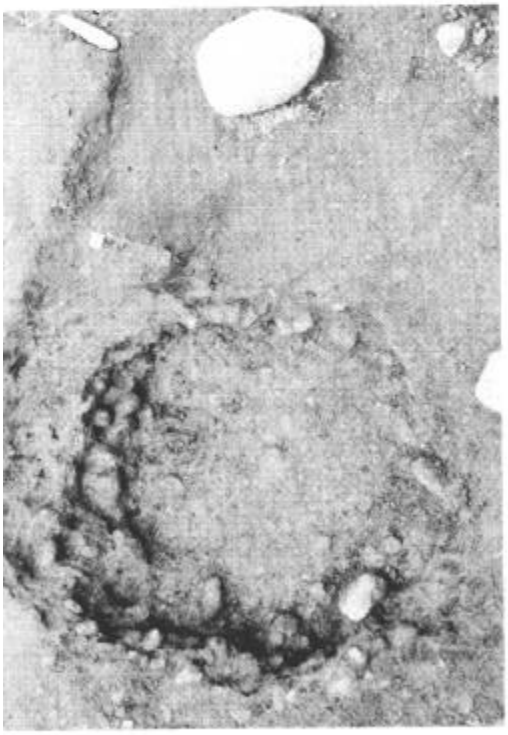
図版11　上　SK04　土　坑
左下　SK25　土　坑
右下　SK17　土　坑



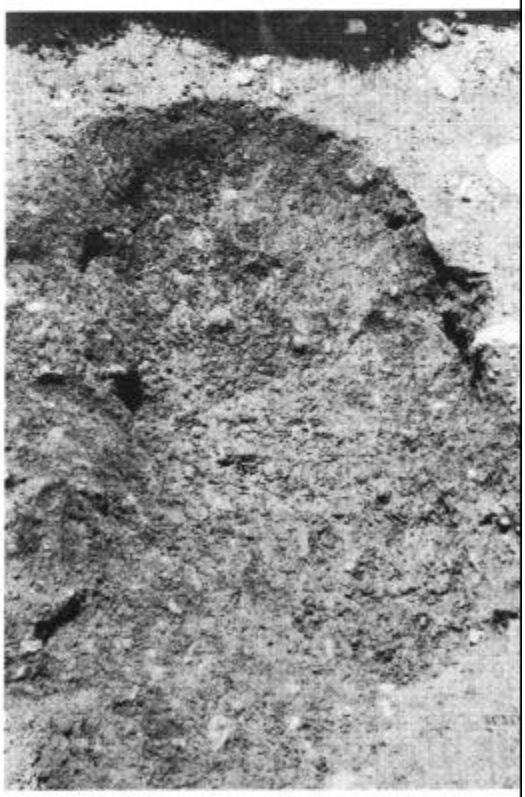
図版12　左上　SK16　土　壙
右上　SK15　土　壙
左下　SK34　土　壙
右下　SK31　土　壙



図版13　左上　SK19　土　坑
右上　SK07　土　坑
左下　SK06　土　坑
右下　SK03　土　坑

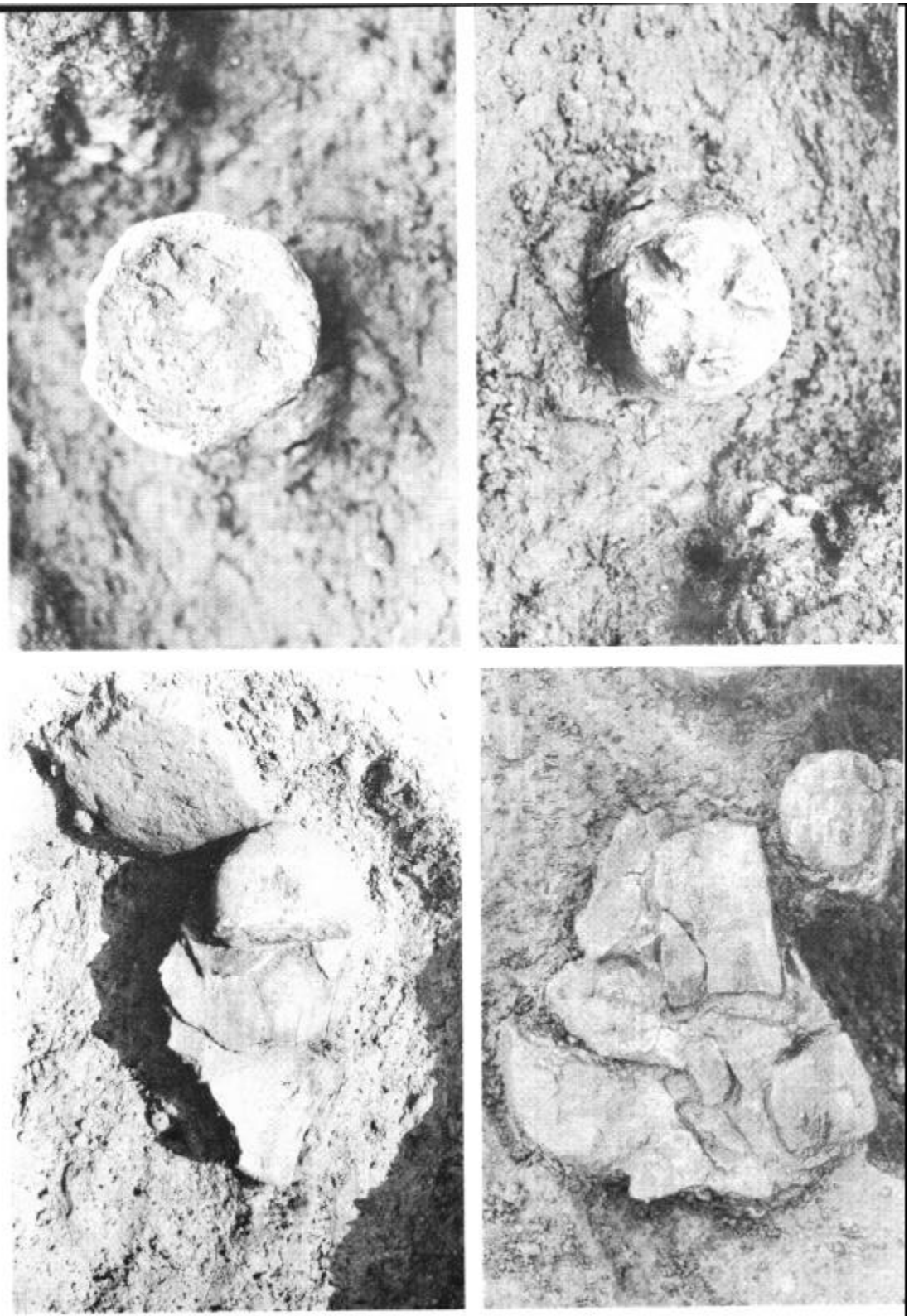


図版14　上　SK02,08 土　坑
左下　SK01　土　坑
右下　SK11　土　坑

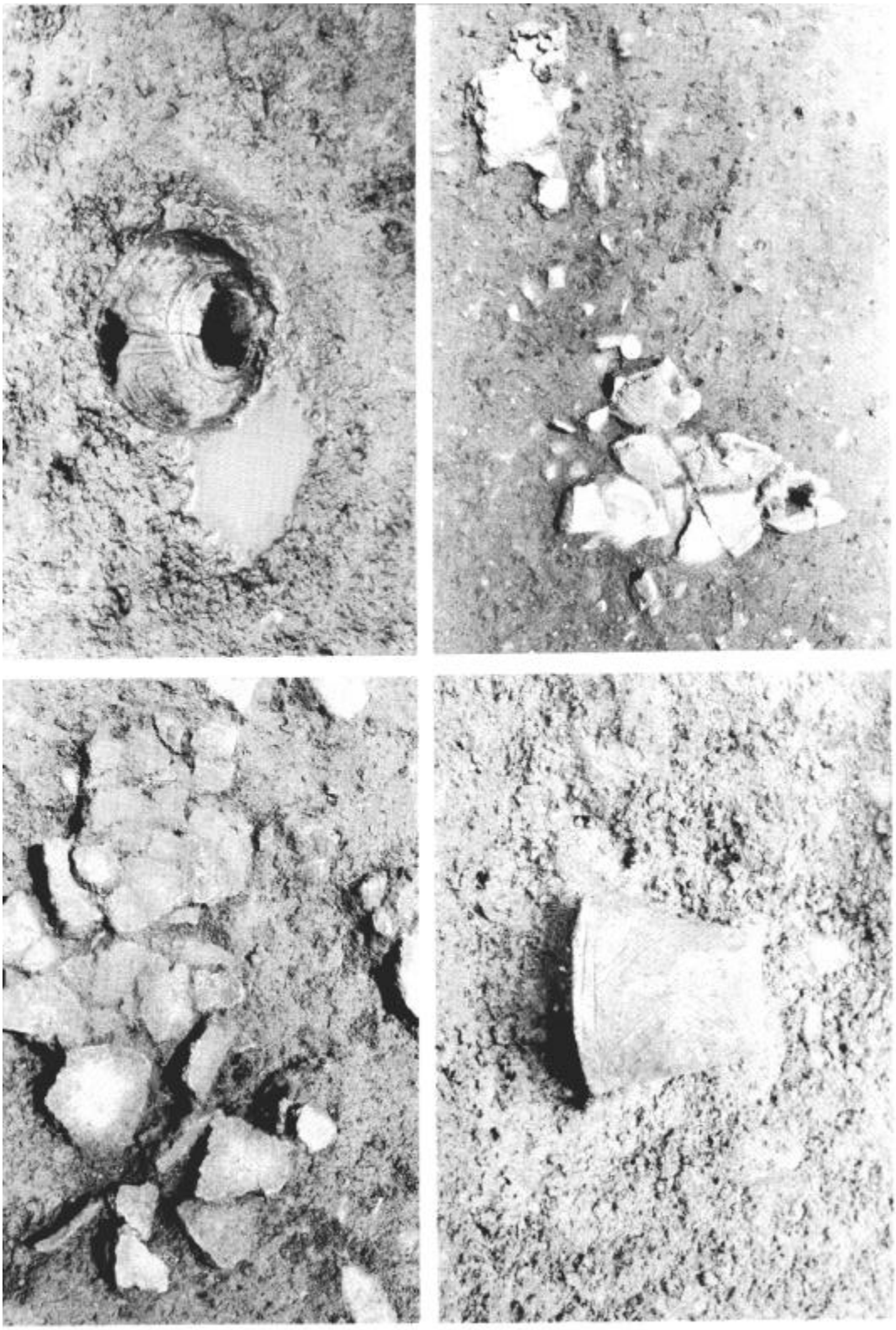


図版15　左上　SK14　土　壙
右上　SK12　土　壙
左下　SK13　土　壙
右下　SK09　土　壙

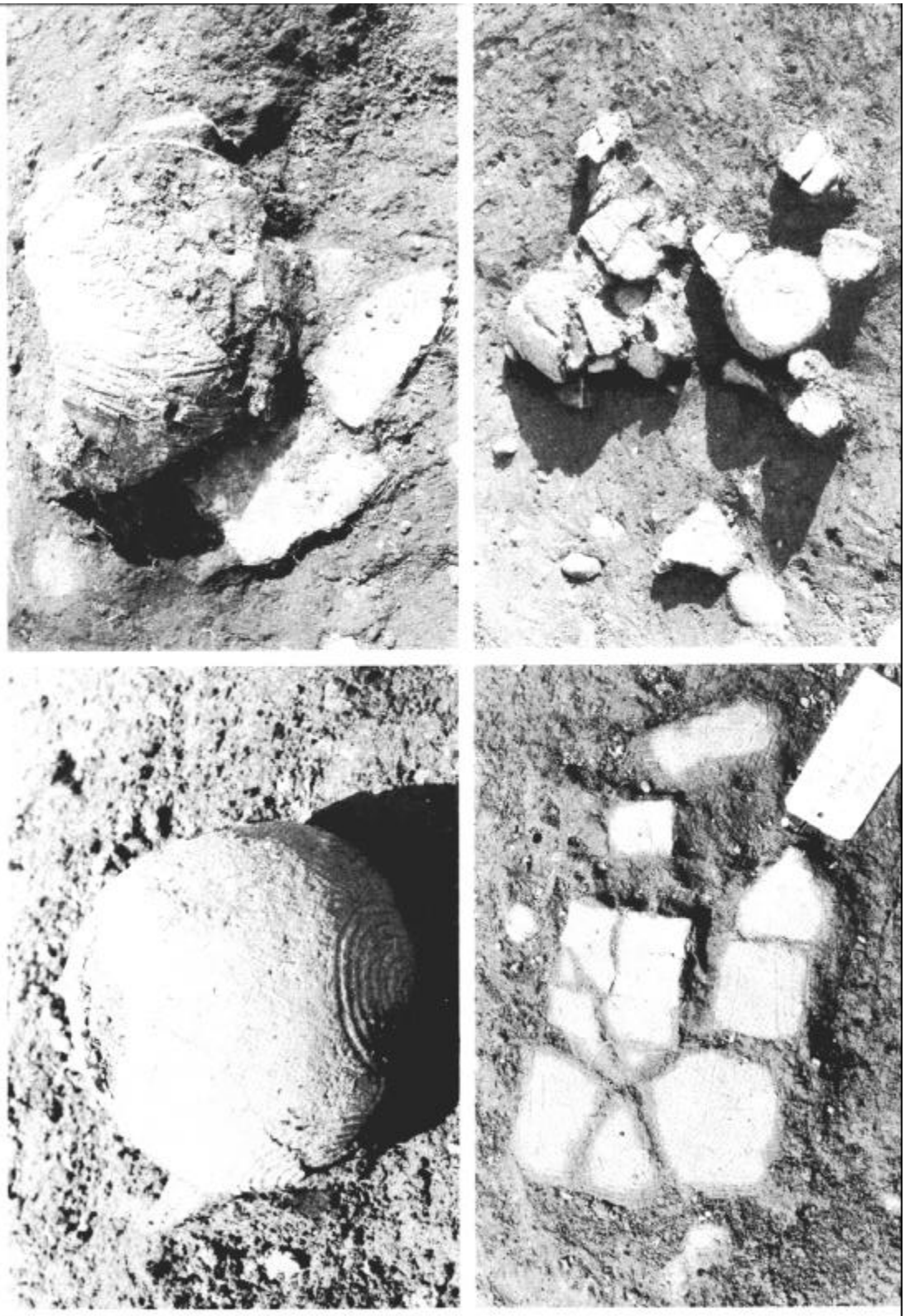
図版16　SX21 埋　甕



図版17　土坑内遺物出土状況　左上　SK03
右上　SK08
左下　SK27
右下　SK28

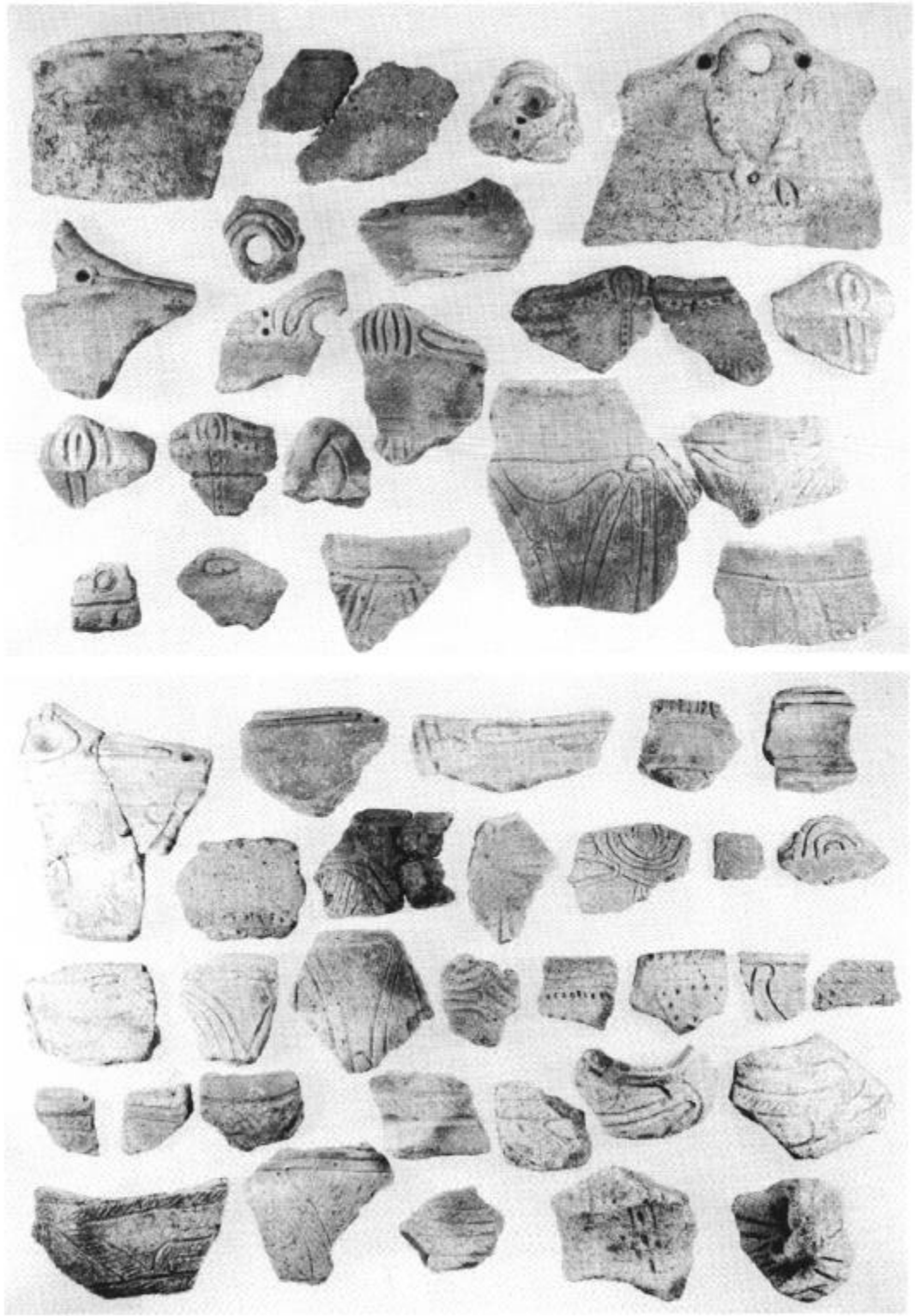


図版18　II区北側遺物出土状況　左上　MG56
右上　MG55
左下　MG55
右下　MF53

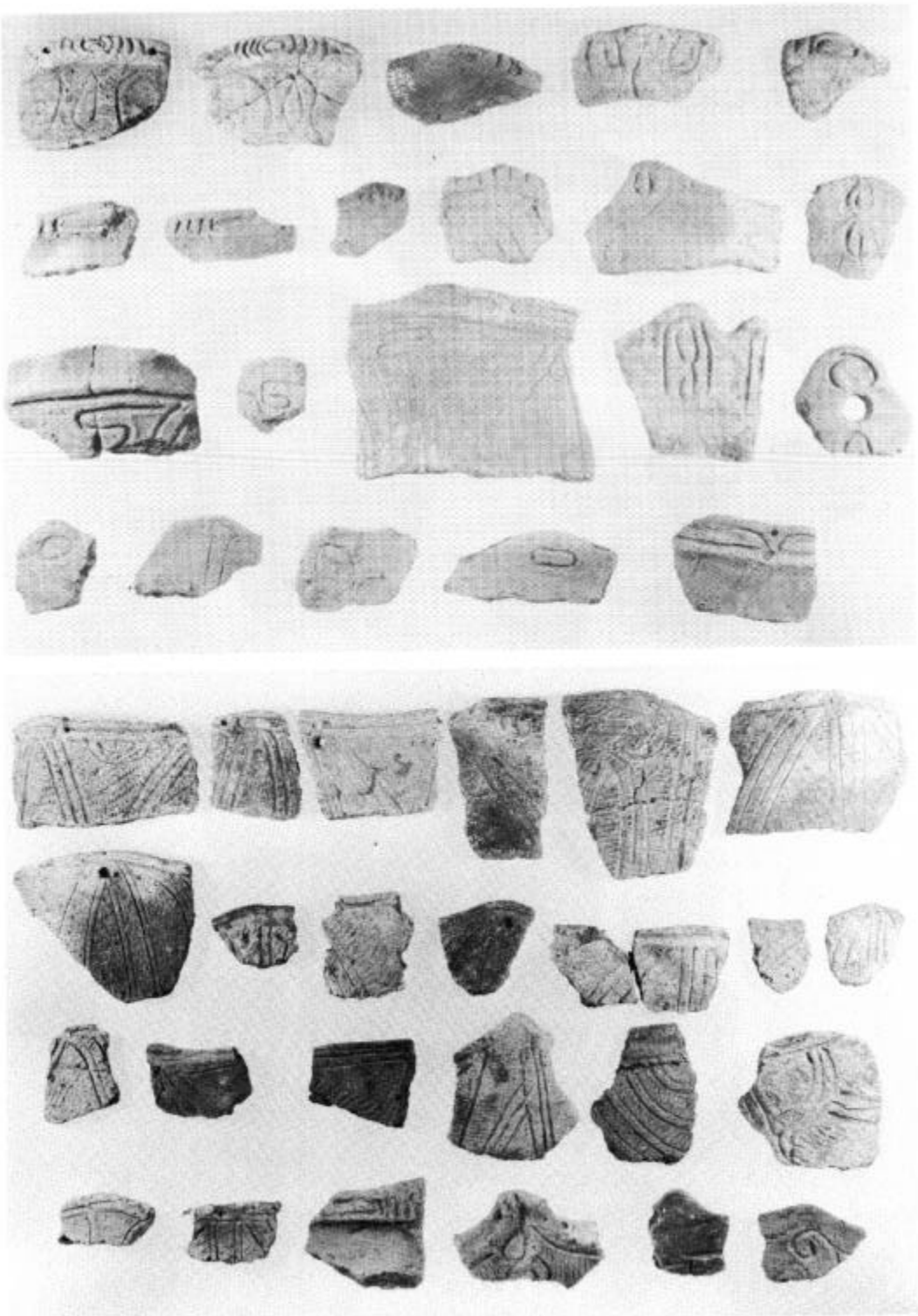


図版19　II区南側遺物出土状況　左上　MG50
右上　ME50
左下　MG49
右下　MG49

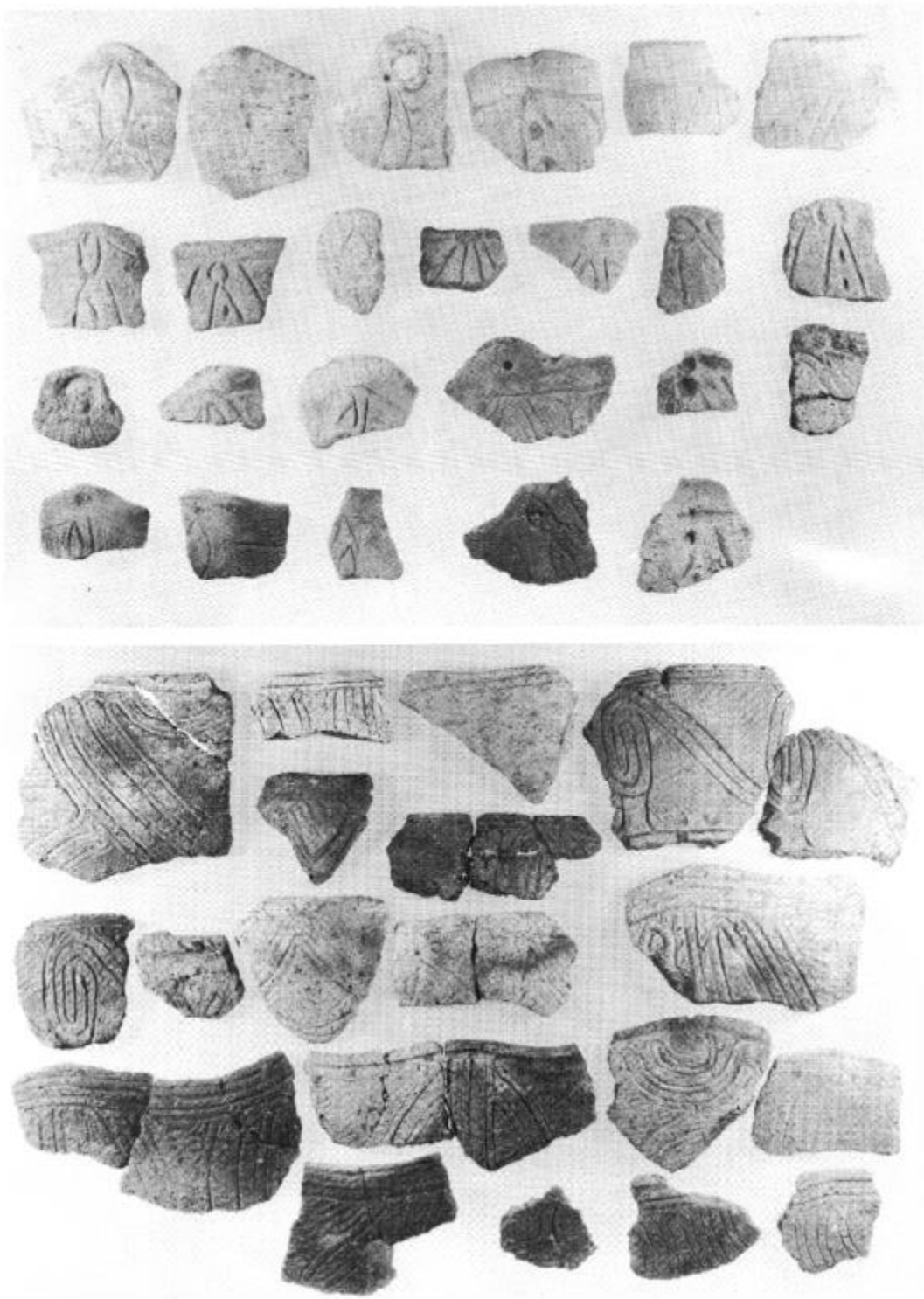
図版20　III区遺物出土状況　左上　MC44
右上　MC44
左下　MB43
右下　MG49 土偶出土状況



図版21　遺構外出土土器

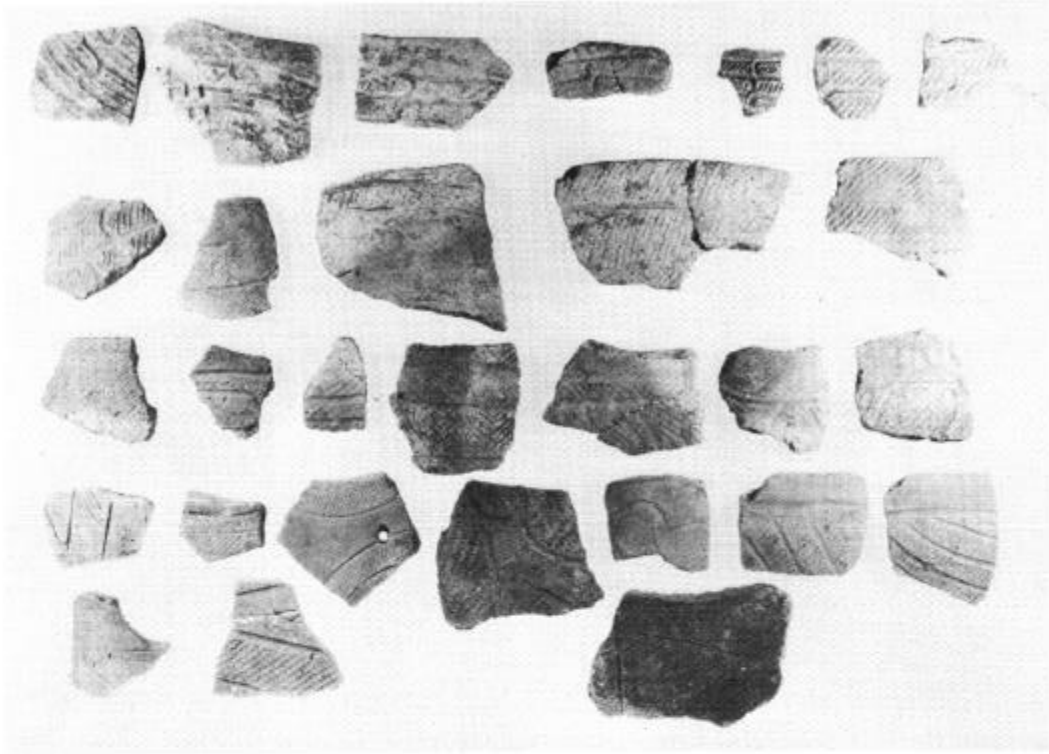


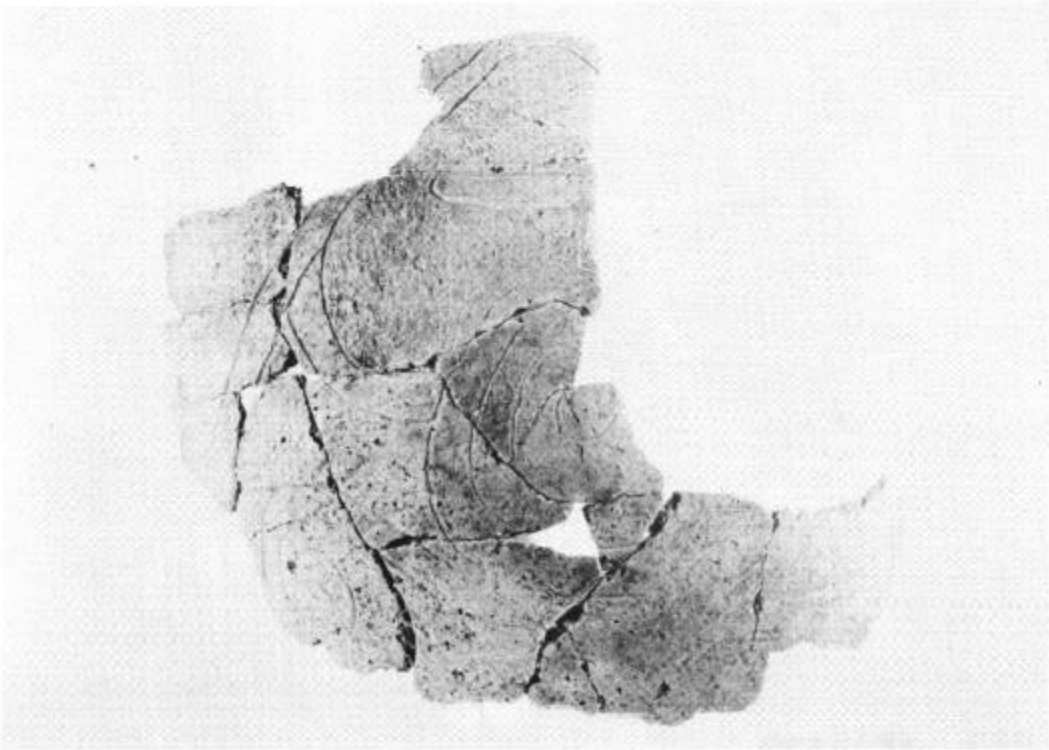
図版22　遺構外出土土器



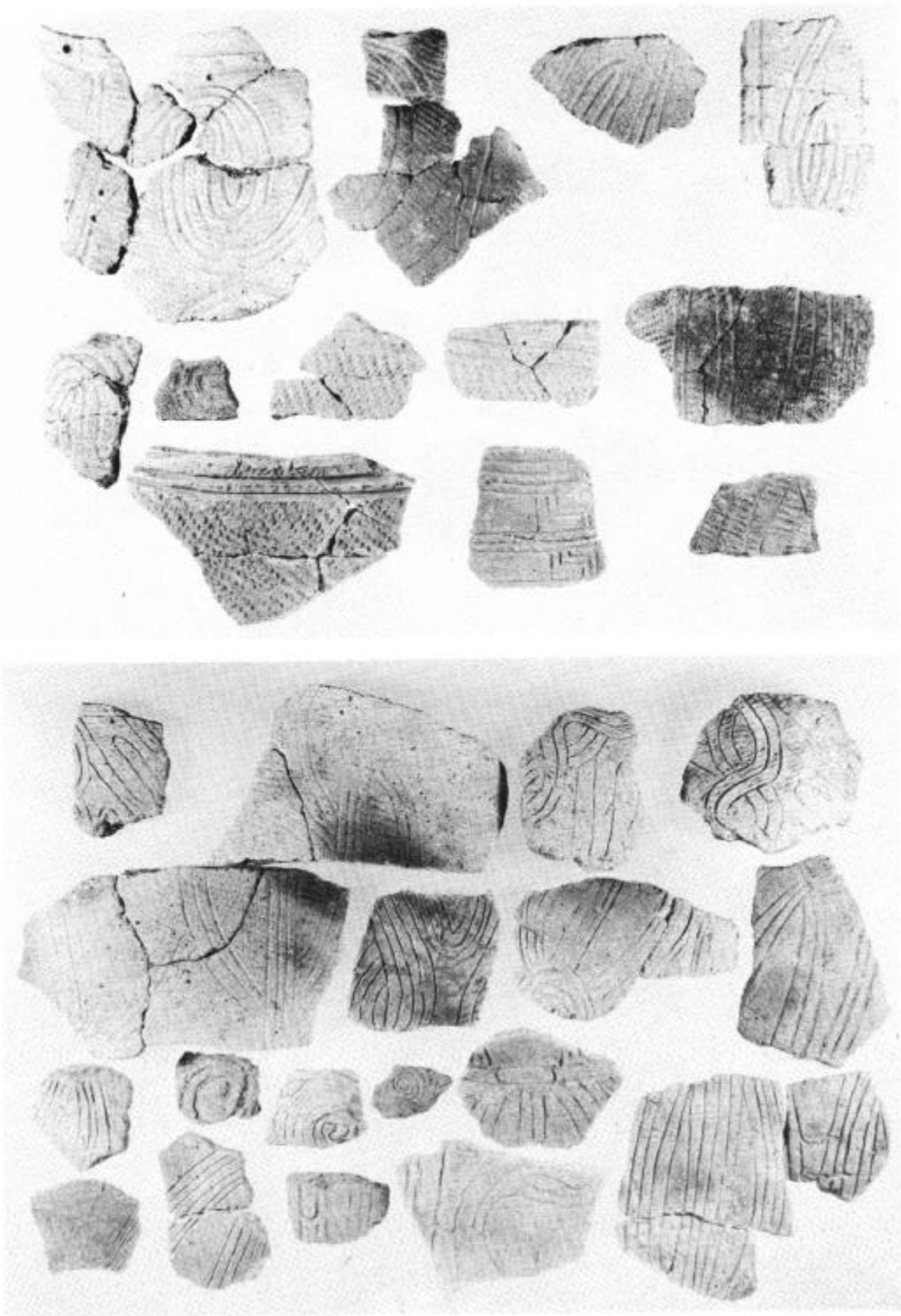
図版23　遺構外出土土器

図版24　遺構外出土土器

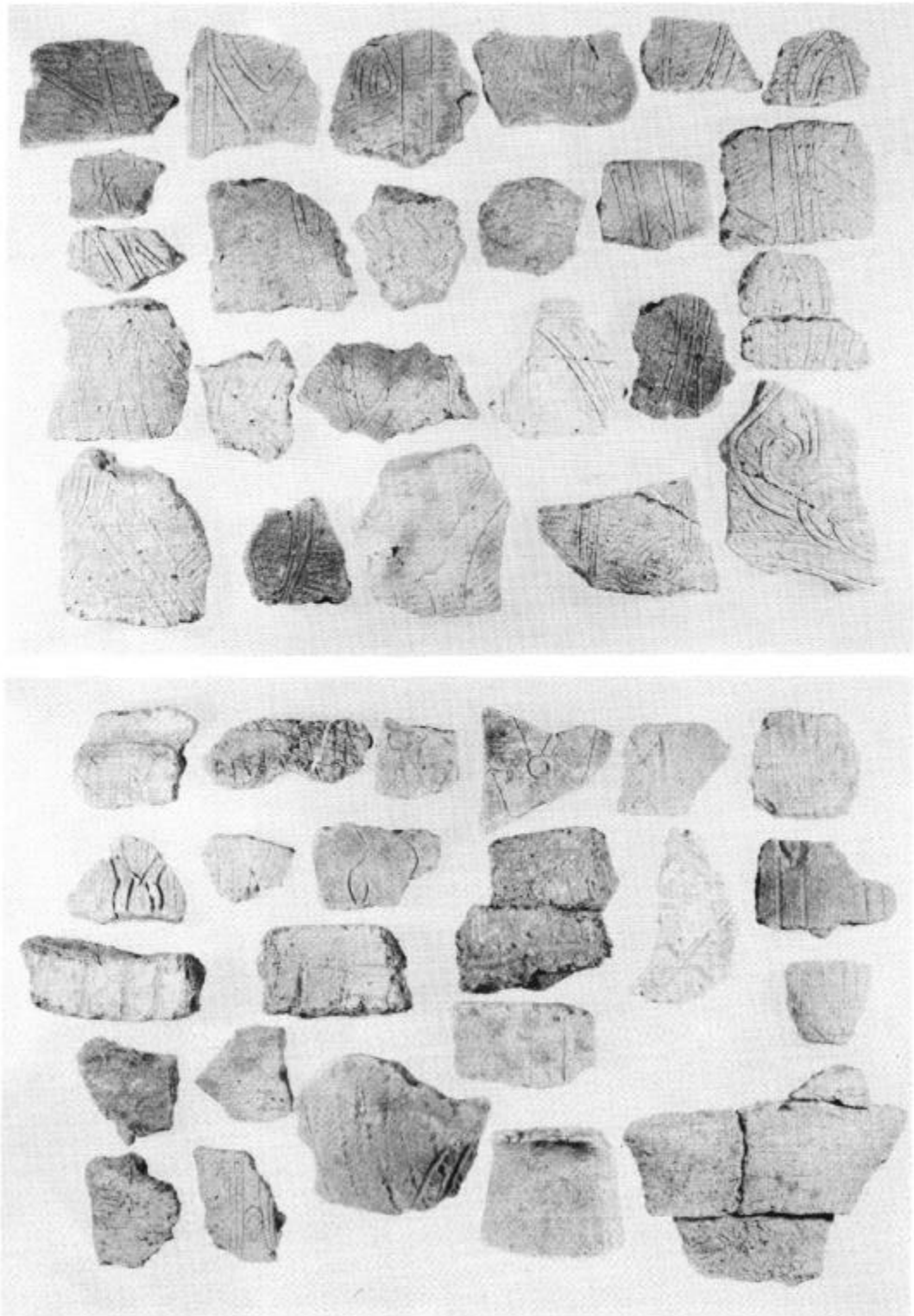




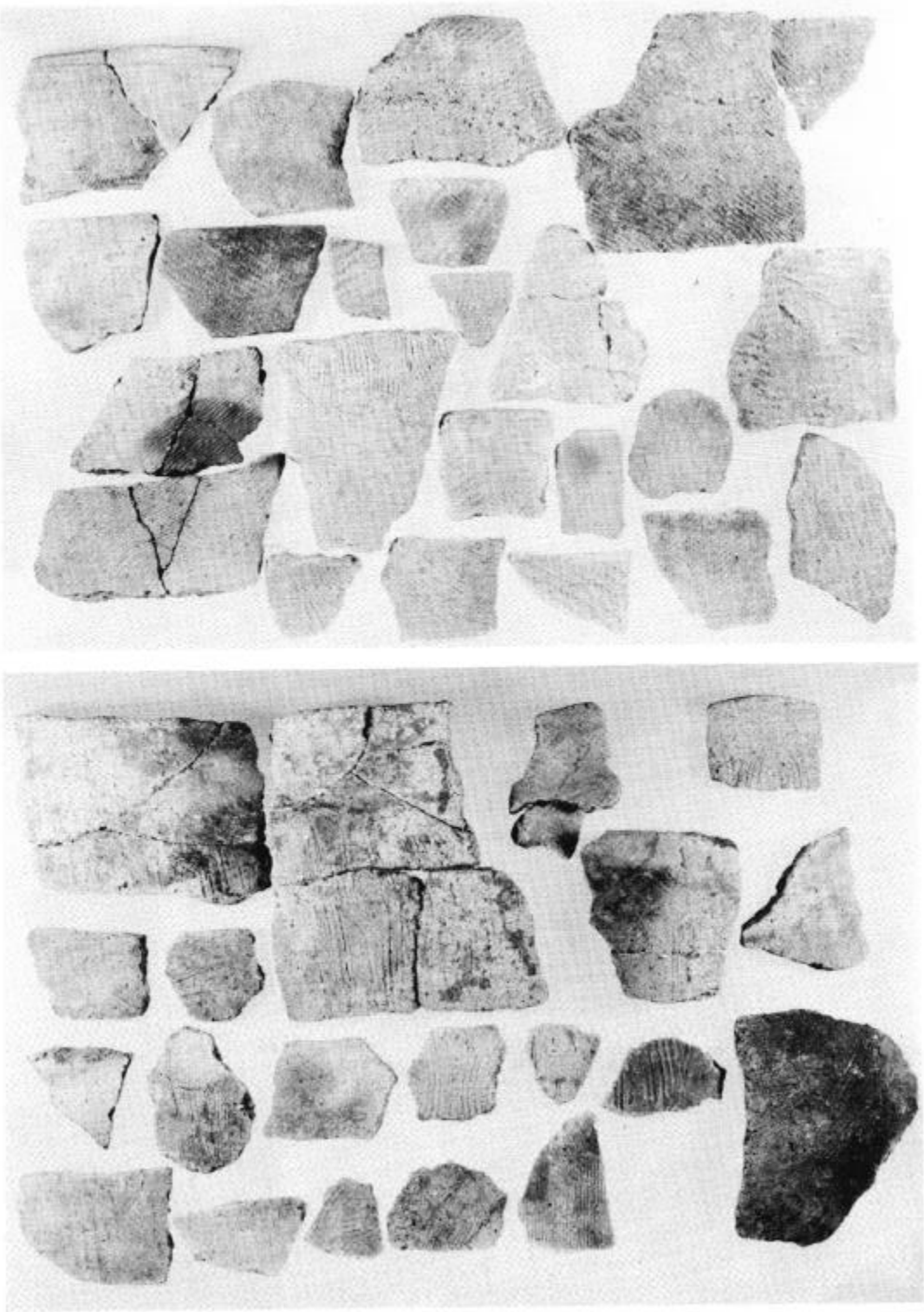
図版25　遺構外出土土器



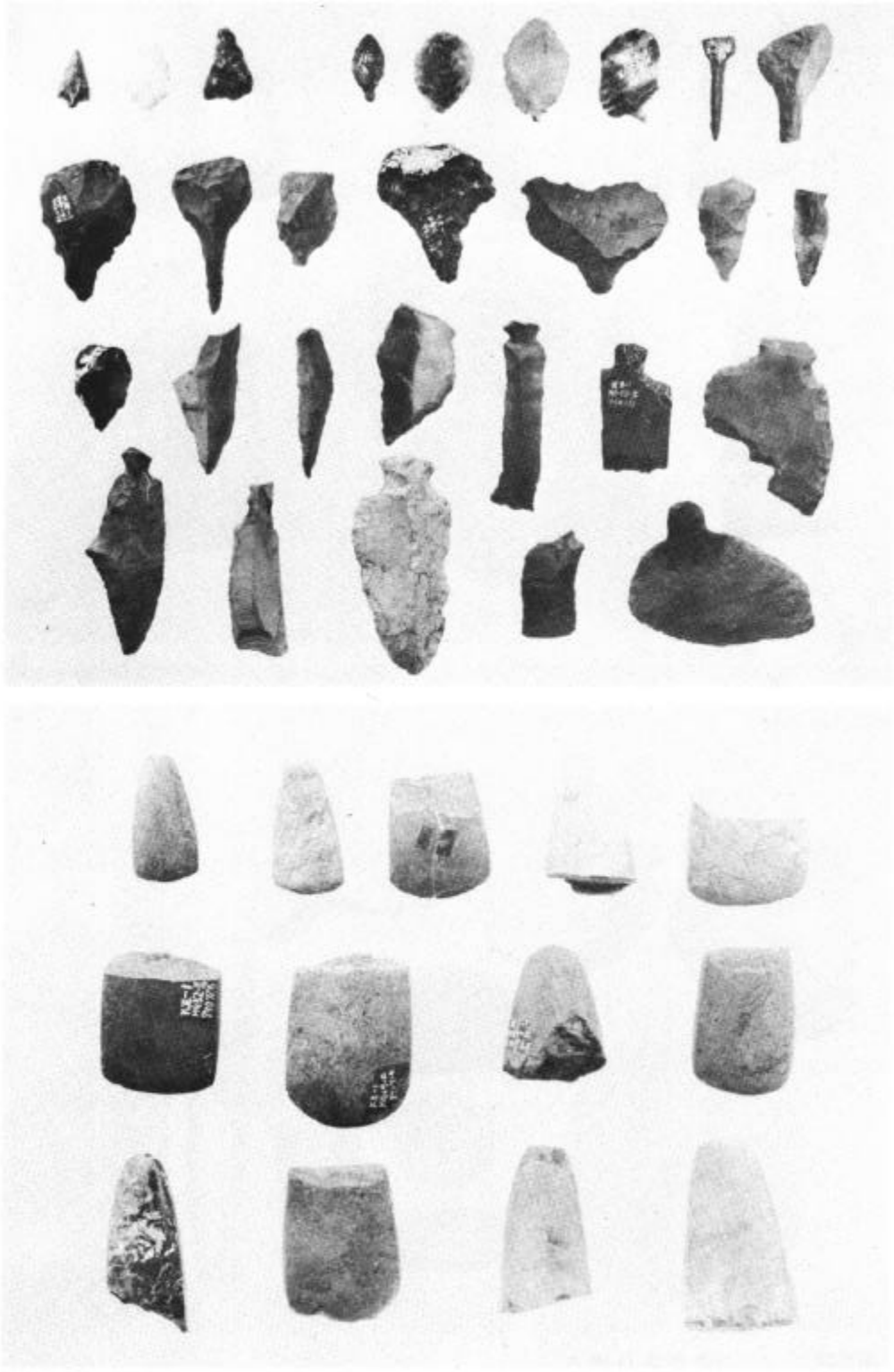
図版26　遺構外出土土器



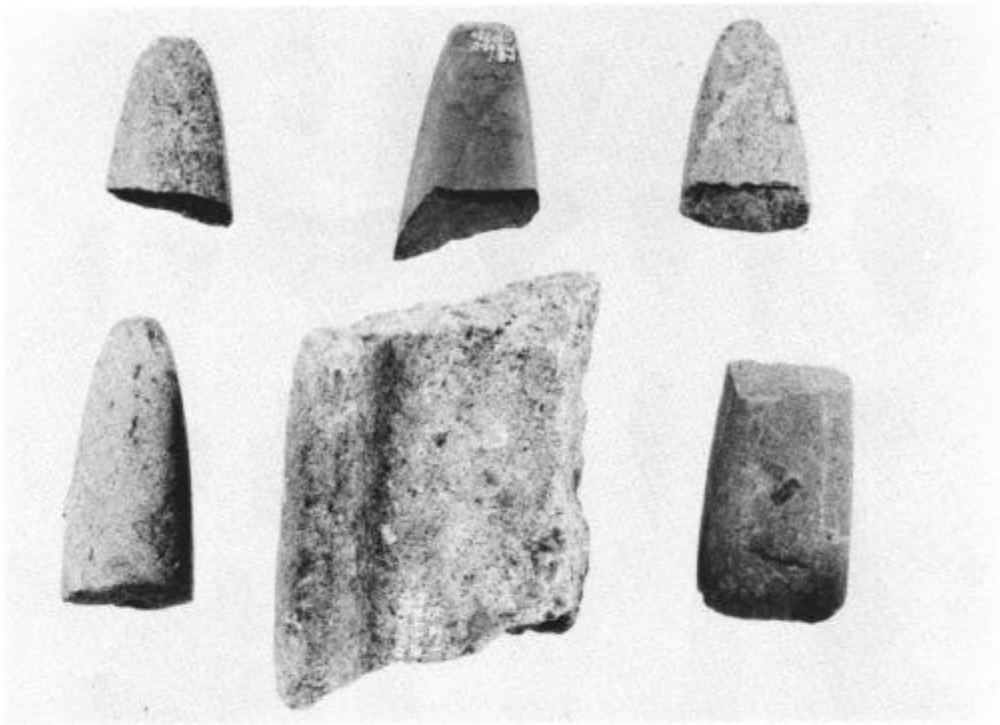
図版27　遺構外出土土器

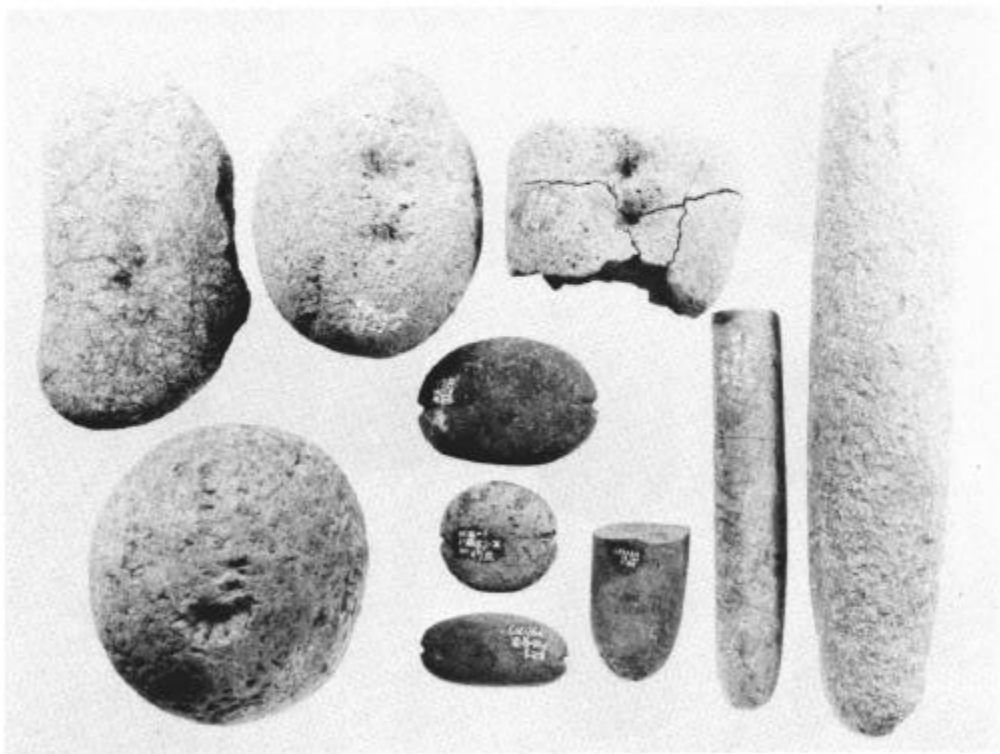


図版28　遺構外出土土器



図版29　II区出土石器





図版30　上　III区出土石器

下　II区出土石器